地質学雑誌　第115巻　第7号（通巻1366号）付録　平成21年7月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.12 No.7 July 2009

日本地質学会第116年学術大会（岡山大会）プログラム

会期：2009年9月4日（金）～6日（日）

日本地質学会 第116年学術大会 岡山大会

主催：日本地質学会
後援：岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・山陽新聞社

市民講演会
（入場無料）

大地から考える地球環境

—地質と生物・農業の深い関係—

2009年 9月5日(土)
13：30〜16：30
（開場　13:00）

会場：さん太ホール
岡山市北区柳町2-1-1　山陽新聞本社ビル1F
JR岡山駅から市役所筋を南へ徒歩15分
または路線バス5分「山陽新聞社前」下車

入場無料・事前申込必要
申込先は下をごらんください

講演1　波田善夫（岡山理科大学学長）
地質と生き物と人々の生活 —ヨーロッパそして 岡山の風景—

調査中。いつも大地との関係が気になります

植物生態学を研究しています。各地の森の様子やそこに生えている植物を調査しながら、その下の地形や地質との関係、森が育んだ地域の文化などを考えています。
岡山の森や植生や、そこに生きる生き物や人々と地形・地質との関係を、ヨーロッパの例も交えながらお話しします。
さらに、地域の農産物やその土地名産の地酒に関する話題にも・・・。

講演2　武田　弘（東京大学名誉教授）
おいしいワインのできる畑の地球環境

名誉ソムリエの授与式にて。
岡山操山高校の出身です

専門は月の石や鉱物の研究をしています。
趣味でぶどう畑の地質とワインの関係を研究するうちに、日本ソムリエ協会から「名誉ソムリエ」をいただきました。
世界の有名なワイン産地のぶどうとその畑の地質・土質・土壌・地形・気候との関係からはじめて、広く地球環境のお話をいたします。

座談会　会場の皆さんとの対話も含めて進行します

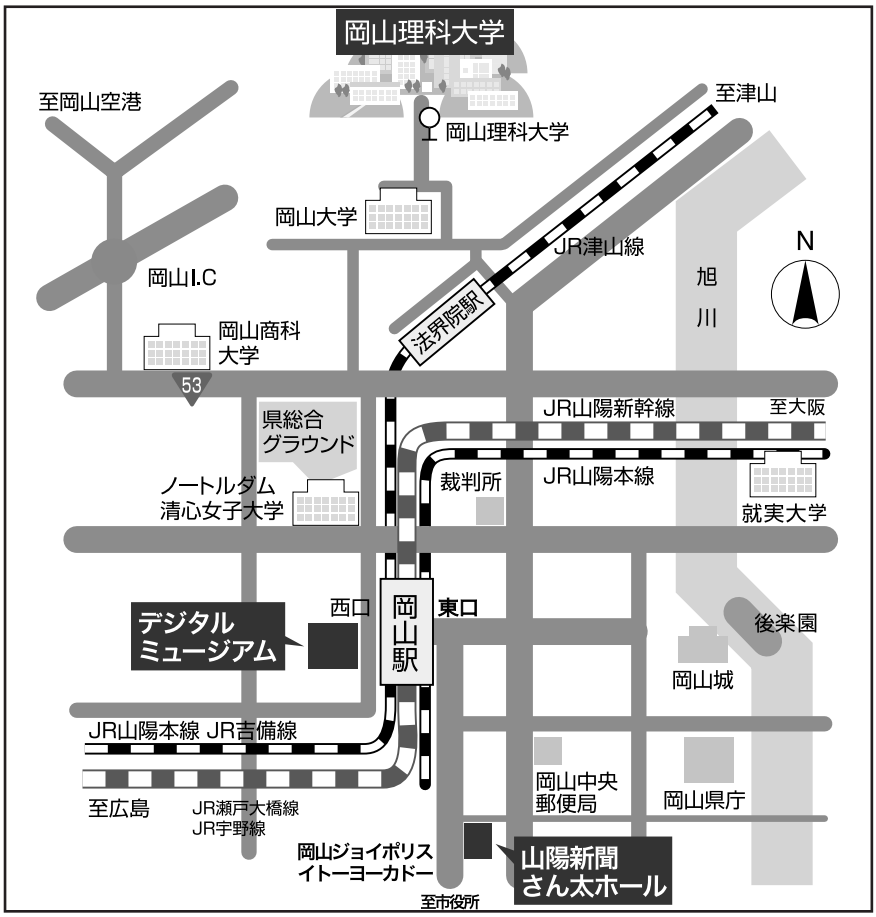
申込はこちら
『日本地質学会市民講演会事務局』あてに、以下のいずれかの方法にてお申し込みください
（先着順に受付。　満員で受付できない場合にのみご連絡します）
・ファクス　（番号：086-256-9662）
・電子メール　（アドレス：fukyu@geo15.gds.big.ous.ac.jp）
・はがき　（〒700-0005　岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学　理学部　応用物理　野瀬研究室内
日本地質学会市民講演会事務局）

＜お知らせいただきたいこと＞（いただいた個人情報は講演会に関わる連絡にのみ使用します）
・申込者氏名（複数参加の場合は代表者名）
・申込者（代表者）連絡先
・参加人数

planetearth®
Earth Sciences for Society

日本地質学会第116年学術大会プログラム

期　日　2009年９月４日（金）～９月６日（日）
会　場　岡山理科大学 ほか



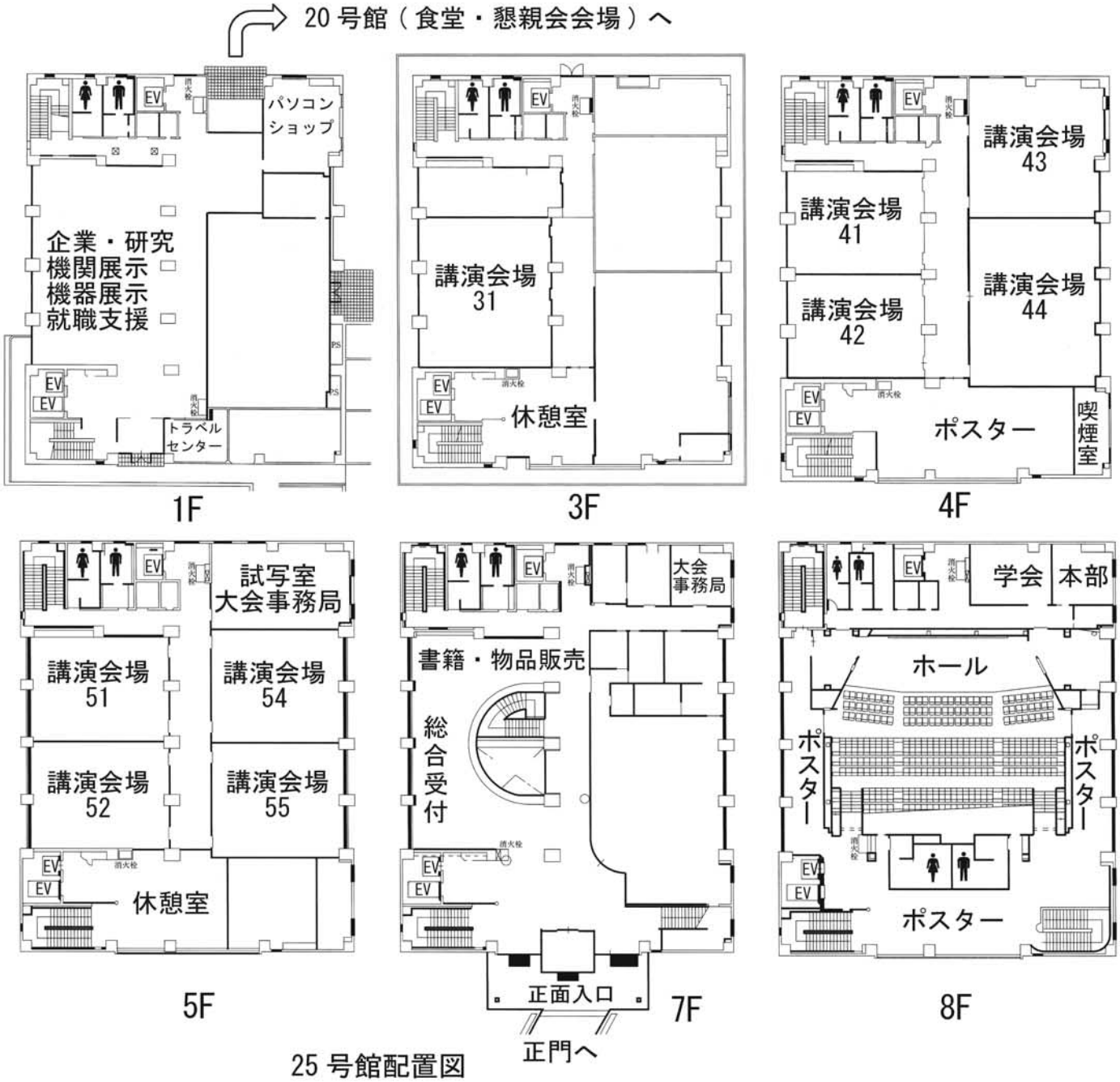
会場への交通機関のご案内

- ○ **一般発表，シンポジウム，特別講演会，表彰式・記念講演会，関連普及行事・生徒「地学研究」発表会：**岡山理科大学25号館（岡山市北区理大町１-１）
- ○ **地質情報展2009おかやまーワクワク・発見・瀬戸の大地ーほか：**岡山市デジタルミュージアム　４階（岡山市北区駅元町15-1）
- ○ **市民講演会「大地から考える地球環境―地質と生物・農業の深い関係―」：**さん太ホール（岡山市北区柳町2-1-1）

岡山理科大学への行き方は以下の通りです.

＜徒歩の場合＞
JR津山線法界院駅から徒歩約25分.
※４日（金）のみ，法界院駅８：10着（岡山駅８：06発）の方のためにバスを運行します（一度に乗れない場合には複数回往復します）.
＜岡電バス利用の場合＞
岡山駅西口バス乗場から岡山大学経由岡山理科大学正門行（約20分，190円）.
※４日（金）７：55～８：45は５分間隔でバスが出発しますが，附属高校の通学時間（７：55～８：20）と重なり混雑が予想されます．そこで，４日（金）のみ，８：00発の学会専用直通バスを運行します（講演者優先，200円，会場までの直行便です）．なお岡電バス定期路線ではJR西日本のICOCA，PiTaPa，Harecaが使用できます（SUICA,TOICAには対応していません）.
＜乗用車利用の場合＞
岡山ICから約10分：大学付近の教職員用駐車場を無料解放しますのでご利用下さい．利用時間は８：00～20：00です．20：00以降はレバーが降りて出ることができません．翌日の利用時間帯に出すことができます.

岡山理科大学俯瞰図



25 号館配置図

日本地質学会第116年学会各賞表彰式・記念講演

9月4日（金）14：30〜17：45　会場：岡山理科大学25号館8階ホール

プログラム

14：30-15：30　新名誉会員，50年会員顕彰式，各賞授与式
15：30-15：50　日本地質学会小澤儀明賞受賞スピーチ
小宮　剛氏「いろいろやってみる－地球生命環境史の総合解読－」
須藤　斎氏「忘れられていた珪藻化石－キートケロス属休眠胞子化石－」
15：50-16：00　日本地質学会柵山雅則賞受賞スピーチ　水上知行氏「小さな石」
16：00-16：35　日本地質学会国際賞受賞記念講演　太田昌秀氏「私の北極・南極」
16：35-17：45　日本地質学会賞受賞記念講演　鳥海光弘氏「レオロジーと岩石学，そして地球内部ダイナミックス」
石渡　明氏「オフィオライトと東北アジアの地質学的研究」

懇　親　会

9月4日（金）18：00〜19：30　　会場　岡山理科大学20号館1階食堂

原則として予約制です．予約はFAXによるお申し込みを8月10日，オンラインによるお申込みを8月17日に締め切ります．会場受付で確認し，当日参加の申込みをしてください．その場合の会費は，正会員・非会員（一般）6,000円，名誉会員・院生割引会費適用正会員・学生会員（会員の家族および非会員院生・学生含）は3,000円です．

当日の受付について

事前参加登録につきましては，FAXによるお申し込みを8月10日，オンラインによるお申込みを8月17日に締め切ります．各締切日までの多数のご登録をお待ちしております．事前登録者には，**締切後，（株）日本旅行よりお支払いの確認が取れている方へ参加証（名札）と予約確認書（兼引換券）をお送り致します．**大会開催1週間前には参加者の皆様のお手元に届くようお送り致します．お支払いの確認が取れていない方へはご送付できませんので，皆様の入金期日厳守を何卒宜しくお願いいたします．当日は，受付を行いますので，忘れずにご持参ください．

＊事前参加登録者：『予約確認書（兼引換券）』をご持参の方

事前登録者用受付にて，**『予約確認書（兼引換券）』に記載されている項目ごとに受付して下さい．**
受付にてネームカードホルダーをお渡ししますので『参加証（名札）』を入れ，大会期間中は身に付けてください

1．参加登録（全員）→ネームカードホルダーの配布．要旨付きの場合は，要旨の配布
2．講演要旨追加購入（予約購入者のみ）→要旨の配布
3．見学旅行（参加者のみ）→名簿確認と参加最終確認
4．見学旅行案内書（予約購入者のみ）→案内書の配布
5．懇親会（参加者のみ）→名簿確認

＊事前登録をしていない方

1．当日参加者として参加登録をする．**備え付けの『参加登録票』に必要事項を記入し当日用受付へ．**
2．当日参加登録費（講演要旨集付きです．要旨集が不要の場合でも割引はありません）
正会員：9,500円
院生割引会費適用正会員：6,500円
名誉会員・50年会員・学生会員・非会員学部学生：500円（講演要旨は付きません）
非会員（一般・院生）：15,000円
3．講演要旨当日販売
会　員：4,000円
非会員：5,500円
4．見学旅行案内書当日販売（ただし，残部がある場合に限る）
正会員・非会員（一般）：2,800円
5．懇親会の当日参加費（ただし，人数に余裕がある場合に限る）
正会員・非会員（一般）：6,000円
名誉会員・院生および学生会員（家族および非会員院生・学生含）：3,000円

見学旅行・案内書について

参加および案内書事前予約申込みはFAXによるお申し込みを８月10日，オンラインによるお申込みを８月17日に締め切ります．大会ホームページに参加者への連絡などを随時掲載しています．＜http://www.geosociety.jp＞

見学旅行案内書は，CD-R版を115巻12号（2009年12月号）に添付して会員に配布する予定です．また，地質学雑誌の一部となっていますので，発行から３ヶ月目にはJ-STAGE＜http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja＞にて公開をいたします．さらに，冊子も並行して発行し，１部2,800円で販売いたします．事前予約は８月17日締め切りですが，残部がある場合に限り，学会会期中に受付で販売いたします．

新企画！見学旅行コース紹介

日時：９月６日（日）14：00～16：30
会場：講演会場44（25号館４F）

９月７日からの岡山大会見学旅行各コースのダイジェストを案内者にご紹介頂きます．見学旅行に参加される方は事前の予習として，また参加されない方も，このダイジェストで全コースの巡検気分を味わってみてはいかがでしょうか．是非ご参集ください．なお，**会期中，年会会場内に各コース紹介のポスターも掲示する予定です．**こちらもあわせてご注目下さい．

企業等団体展示／書籍展示販売

企業・団体・研究機関などによる展示を行います．会場は，岡山理科大学25号館１F室を予定しています．６月30日現在，株式会社アイ・エヌ・エー，独立行政法人海洋研究開発機構高知コア研究所，林原自然科学博物館，株式会社蒜山地質年代学研究所，メイジテクノ株式会社，株式会社ワイビーエム，から申し込みがありました．

岡山理科大学25号館７F総合受付横では**書籍・物品の展示**販売コーナーを設けます．６月30日現在，
株式会社古今書院，財団法人　東京大学出版会からお申込みがありました．

※申込期限延長，追加募集等がある場合もありますので，随時大会ホームページをご覧ください．

大会期間中のお食事について

岡山理科大学周辺には飲食店等はありません．お弁当予約販売もしくは学内施設等をご利用下さい．

○お弁当予約販売：１個800円，お茶付き
　申込締切　オンライン：８月17日（月）18：00，
　　FAX（郵送）：８月10日（月）必着

○大学食堂（20号館）：９月４日（金），５日（土）営業しています．

○コンビニエンスストア（22号館１階：会場から徒歩３分）：毎日営業しています．

就職支援プログラム

本プログラムは，学会に参加される学生・院生および大学教官の会員，ならびに岡山理科大学・岡山大学の学生・院生・関係者らを対象に，本会賛助会員をはじめとする関連会社との相互の情報交換を行う場を提供しようというものです．ぜひご参加いただきますようご案内をいたします．

日程：**９月５日（土）14：00-17：00**
場所：岡山理科大学25号館１F
主催：日本地質学会
内容：主催者等　挨拶・紹介，参加各社による数分のプレゼンテーション，参加各社の個別説明会
対象：岡山大会に参加する学生・院生および大学教官等の会員・岡山理科大学・岡山大学の学生・院生および教官等
参加費：無料
問い合わせ先：向山　栄（担当理事）/橋辺菊恵（事務局）
電話　03-5823-1150　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

プレス発表を希望される方へ

岡山大会での講演や行事について，８月下旬にプレス発表を行う予定です．

昨年の秋田大会でも多数のメディアに取り上げられ，会員の皆様の研究成果が多いに注目されました．岡山大会で発表される予定の案件で，学会からのプレス発表をご希望の方は，８月10日（月）までに学会事務局にご連絡下さい．全ての案件をプレス発表することはできませんが，社会への情報発信として特筆すべき成果は積極的に公表して行きたいと考えております．会員の皆様におかれましては，プレスリリース解禁日をお守りいただき，公平かつ効果的な情報発信にご協力下さい．

登録締切：８月10日（月）
プレス発表（投げ込み）：８月21日（金）
現地説明会（解禁日）：８月28日（金）（予定）
連絡先：＜journal@geosociety.jp＞
（情報特任理事　**倉本真一**）

難問に挑戦！　学会ポスター 岩石名・地層名当てクイズ

大会ポスター（本誌裏表紙参照）桃太郎の衣服などは地層や岩石写真をパッチ状に貼り付けたものです．以下のクイズに挑戦した方の正解者には大会ポスターを贈呈します．

問題）以下に記した衣服部分などの地層名・岩石名を当てて下さい．
・足：
・すね：
・袴：
・刀の柄：
・吉備団子の入れ物（袋）：

方法）
１　会場入口の受付デスクに準備した解答用紙に記入する．
２　記入した解答用紙を受付デスクのクイズ担当者に提出する（５日と６日のランチタイム）
３　１つ以上正解した方にポスターを贈呈

発　表　者　へ

一般講演の発表者は招待講演，一部のシンポジウムを除いて本学会の会員に限ります（共同発表の場合は筆頭者に適用）．また，やむを得ない事情により，あらかじめ連記された共同発表者内で筆頭者の変更を希望する場合は，必ず事前に行事委員会（会期前は学会本部へ，会期中は学会本部事務局へ）に連絡して下さい．この場合も，シンポジウム以外の場合は「会員に限り１人１題」の発表制限は守るものとします．代理人による代読，発表会場内での突然の発表者変更，発表順序の変更は一切認めませんのでご注意下さい．とくに口頭発表者の方には発表時間の厳守をお願いいたします．発表に際しては座長の指示に従い，会場の運営がスムーズに行われるようご協力下さい．

●口頭発表

・１題15分（討論時間を含む）ただし，シンポジウムは除く

・口頭発表会場には液晶プロジェクターとWindowsパソコン（OS: Windows XP およびVista対応，Microsoft Office PowerPoint 2003-2007 対応）を用意します．なお，35mmスライドプロジェクターの使用はできません．

【講演ファイルをUSBメディアでご持参の方】

口頭発表で使用するファイルのインストールは，PCセンター（試写室）【25号館５階】にて事前に作業を行ってください．インストールは各セッション・各シンポジウム開始30分前までに25号館５階PCセンター（試写室）で受け付けます．なお，大会初日９月４日午前に発表される方についても，～８：30までPCセンターにて受けます．混雑が予想されますので講演直前にならないよう，十分な時間的余裕を持って確実に行ってください（午前中のセッションであれば前日に，午後のセッションであれば午前中にインストールを完了してください）．ファイルは，PCセンターにおいて正常に作動することを事前に確認してください．特に，会場に設置するものと異なるバージョンで作成されたパワーポイントファイルは，レイアウトが崩れる事例が報告されていますのでご注意願います．なお，ファイル名には，発表番号と筆頭演者ご氏名をご使用ください．（例：S-1岡山太郎，O-12吉備次郎）

【ご自分のパソコンを使用して講演をされる方】

本年は会場の液晶プロジェクターにパソコンの切り替え器（ケーブル形状はD-SUB15ピン）を用意します．Macパソコンをお使いになる方，ソフトの互換性からレイアウトが崩れる可能性のある方，パワーポイント以外のプレゼンテーションソフトをご利用の方はご自分でパソコンをご用意ください．各会場のプロジェクターの解像度設定はXGA（1024×768）です．講演前にご自身での出力調整を済ませて接続してください．Macパソコンをお使いになる方は，必ずD-SUB15ピンへのアダプターを持参してください．パソコンの接続については，発表者自身が責任を持って実施して下さい．切り替えは会場スタッフにて行います．

●ポスターセッション

・掲示する際のチェスピンは準備いたします．粘着テープのご利用はできませんので，ご了承ください．

・**展示時間は，９：00－17：00です．**展示準備は早めにお願いします．**撤収は，18：00までにお願いします．**

・**コアタイムは，４日（金）が12：30－13：30，５日（土）と６日（日）が13：00－14：00です．**この時間は必ずポスターに立ち会い，その他の時間は各自の都合によって随時行って下さい．

・ボード面積は90cm×210cm（ヨコ×タテ）です．

・発表番号・発表題名・発表者名をポスタータイトルとして，必ず明記して下さい．

・コンピューターやビデオを使用される場合，機器の準備は各自で行ってください．電源は確保できませんので，予備バッテリーをご準備下さい．

・ポスター発表に対し，別記の要領にて優秀ポスター賞が授与されます．奮ってご準備下さい．

優秀ポスター賞について

学会講演での優秀ポスターに対して賞を授与いたします．この賞は学会で発表される全ポスター発表の中から，選考委員会の審査に基づき，日本地質学会長から大会開催中に授与されるものです．

●本賞は，毎日３～５件の発表講演に対して授与される．
- ・学会長から受賞者に直接賞状の授与（表彰と写真撮影）．
- ・受賞ポスターは，その栄誉をたたえ，大会期間中，別途設けられたボードに掲示．
- ・News誌11月号（年会報告記事）において氏名，課題名，受賞事由等が公表．

●審査は選考委員会によって行い，学会長がこれを承認する．
- ・選考委員会は，大会期間中毎日召集され，行事委員会委員５名，大会事務局代表１名および各賞選考委員会委員２名の合計８名から構成される．なお，選考委員氏名リストは学会終了後のNews誌11月号にて公表．

●審査基準の項目

（発表様式）

・美しいポスターか／・レイアウトはわかりやすいか／・斬新であるかどうか

（内容）

・発表内容の妥当性はあるか／・発表内容にオリジナリティがあるか

●受賞発表の時期と方法
- ・発表は，16：00以降に行う．表彰は決定後直ちに，ポスター会場で行う．（なお，４日の受賞のみ表彰式・記念講演会終了後，会場にて行う予定）
- ・ポスター会場：受賞ポスターに「花」をつける．
- ・口頭セッション会場：各日の最終講演後に審査結果を公表する．

“緊急展示”の申し込みについて

学会活動の一端を広く社会に紹介するとともに，ホットなテーマについて議論する場を提供するために，災害報告や社会的に影響のある新技術紹介などの「緊急展示コーナー」を設けます．**ポスター展示を希望する方は，８月21日（金）までに**以下の内容で下記にご連絡ください．

１）発表要旨PDF（ニュース誌４月号参照）　２）緊急展示の必要性　３）発表代表者と連絡先　４）希望枚数（１枚：幅90×210cm）　５）展示に関わる要望（２～５の様式は自由）

実行委員会は行事委員会と協議し，可否の判断を致します．希望にはできるだけ応えるようにしますが，展示方法等については実行委員会の指示に従ってください．

申込先　main@geosociety.jp
担　当　鈴木茂之（岡山大会実行委員会）・上野将司（行事委員会）

全 体 日 程 表

発表方法	講演会場	収容人数	9月4日（金） AM 9:00-12:00	12:30-13:30	PM 13:30-14:30	14:30-17:45	18:00-19:30
口頭	ホール	487	20.変成岩 9:00-12:00 O199-210	コアタイム	＜特別講演＞ 13:30-14:30	表彰式・記念講演	懇親会
	44	132	26.第四紀地質 9:30-12:00 O266-275				
	43	110	5.地域地質 9:00-12:00 O42-53				
	31	118	24.応用地質 9:00-11:15 O250-258 16.ノンテク 11:15-11:45 O158-159				
	41	74					
	42	77	15.テクトニクス 9:00-12:00 O139-150				
	51	84	8.砕屑物 10:00-11:30 O80-85				
	52	84					
	54	84					
	55	84	2.ジュラ系十 9:30-12:00 O13-22				
ポスター			ジュラ系十　地域地質　テクトニクス　ノンテク　変成岩　応用地質　第四紀地質				
その他							

9月5日（土） AM 9:00-12:00	ランチョン 12:00-13:00	13:00-14:00	PM 14:00-17:30		夜間 18:00-20:00
(6) 都城シンポ 9:00-12:00 S46-53		コアタイム	20.変成岩 14:00-17:30 O211-224		
(1)「ちきゅう」総括 9:00-12:00 S1-9	地域地質＆層序		26.第四紀地質 14:00-17:00 O276-287		南極
	火山		5.地域地質 14:00-17:30 O54-67		沖積
(3) 高Mg安山岩 9:00-12:00 S23-28	男女共同		19.深成岩・火山岩 14:00-15:45 O180-186	18.噴火と火山 16:15-17:30 O175-179	考古学
	構造		4.IBMの発生と進化 14:00-17:15 O29-41		地質学史
	地方地質誌		15.テクトニクス 14:00-15:45 O151-157	13.破壊と変形 16:00-17:30 O120-125	構造地質
			12.石油・石炭 14:00-14:45 O117-119	10.堆積相 15:00-16:45 O96-102	海跡湖
			3.「ちきゅう」 14:00-15:30 O23-28	14.付加体 15:30-16:15 O136-138	ジュラ系十
			23.環境地質 14:00-17:15 O231-243		環境
	Island Arc 編集		1.希ガス年代測定 14:00-17:20 O1-12		若手
都城シンポ　ちきゅう　IBM　砕屑物　炭酸塩　堆積相　堆積作用　石油石炭　破壊と変形　付加体　噴火と火山　深成岩・火山岩　環境地質　地学教育（１件）					
＜地質情報展＞＜ジオパークワークショップ＞＜市民講演会＞＜就職支援プログラム＞ ※夜間集会：教員養成と地学教育（試写室）					

9月6日（日） AM 9:00-12:00	ランチョン 12:00-13:00	13:00-14:00	PM 14:00-17:30		夜間 17:30-19:00
(5) 坂野シンポ 9:00-12:00 S38-45		コアタイム	(4) 日本列島 14:00-17:00 S29-37		
(7) 3次元地質モデル 9:00-12:00 S54-60			＜見学旅行コース紹介＞ 14:00-16:30		
(8) 科学を文化に 9:00-12:00 S61-67	地学教育		25.地学教育 14:00-15:45 O259-265		
(2) 中国地方 9:00-12:00 S10-22			19.深成岩・火山岩 14:00-17:00 O187-198		
	岩石		21.岩石鉱物一般 14:00-15:30 O225-230		
	地質雑編集		13.破壊と変形 14:00-17:00 O126-135		
11.堆積作用 9:00-12:00 O103-114	堆積		11.堆積作用 14:00-14:30 O115-116	9.炭酸塩岩 14:30-17:00 O86-95	炭酸塩
17.古生物 9:00-12:00 O160-171	古生物		17.古生物 14:00-14:45 O172-174	7.海洋地質 14:45-16:45 O72-79	南西アジア
	海洋		23.環境地質 14:00-15:30 O244-249	6.層序間対比 15:30-16:30 O68-71	
			＜JAMSTEC講演会＞		
中国地方　日本列島　坂野シンポ　層序間対比　海洋地質　古生物　岩石鉱物　情報地質　地学教育					
＜地質情報展＞＜小さなEarth Scientistのつどい＞					

■　セッション・世話人一覧　■

■シンポジウム（８件）

１）「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画ステージ１と２の成果（総括）（J-DESC共催）
木下正高・芦　寿一郎・木村　学・斉藤実篤・山口飛鳥・氏家恒太郎・坂口有人*（arito@jamstec.go.jp）

２）中国地方における新生界の諸問題：新たな地平をめざして
沢田順弘*（sawada@riko.shimane-u.ac.jp）・酒井哲弥・入月俊明・尾崎正紀・松原尚志

３）高Mg安山岩とアダカイト
巽　好幸*（tasumi@jamstec.go.jp）・田村芳彦

４）Geotectonic subdivision and evolution of the Japanese Islands: A reappraisal（岡山理科大学オープンリサーチセンター共催・英語での講演推奨）
和文表題：日本列島構造発達史
磯闢行雄*（isozaki@ea.c.u-tokyo.ac.jp）・丸山茂徳

５）A special symposium to honor Shouhei Banno（岡山理科大学オープンリサーチセンター共催・英語での講演推奨）
和文表題：坂野昇平追悼シンポジウム
平島崇男*（hirajima@kueps.kyoto-u.ac.jp）・榎並正樹

６）都城秋穂追悼シンポジウム（岡山理科大学オープンリサーチセンター共催）
丸山茂徳*（smaruyama@geo.titech.ac.jp）・磯闢行雄

７）３次元地質モデルの構築手法と利活用（情報地質学会共催）
升本眞二・木村克己*（k.kimura@aist.go.jp）・根本達也・古宇田亮一

８）科学を文化に－学校教育・地学分野のこれから－（地学教育学会共催）
藤林紀枝*（fujib@ed.niigata-u.ac.jp）・芝川明義・三次徳二・矢島道子・七山　太

■トピックセッション（４件）

１．希ガス年代測定－地質科学への貢献－（日本地球化学会共催）
兵藤博信*（hhyodo@rins.ous.ac.jp）・郷津知太郎

２．ジュラ系＋（読み方：ジュラケイプラス）
松岡　篤*（matsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp）・堀　利栄・小松俊文・近藤康生・尾上哲治・石田直人

３．「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画ステージ１と２の成果
坂口有人*（arito@jamstec.go.jp）・斉藤実篤・氏家恒太郎・山口飛鳥

４．IBM（活動的海洋性島弧～背弧海盆）の発生と進化を探る
新井田清信*（kiyo@mail.sci.hokudai.ac.jp）・田村芳彦・石塚治

■定番セッション（22件）

５．地域地質・地域層序（地域地質部会・層序部会）
吉川敏之*（t-yoshikawa@aist.go.jp）・岡田　誠・斎藤　眞

６．地域間層序対比と年代層序スケール（層序部会）
里口保文*（satoguti@lbm.go.jp）・岡田　誠

７．海洋地質（海洋地質部会）
片山　肇*（katayama-h@aist.go.jp）・徳山英一・　芦　寿一郎・小原泰彦

８．砕屑物組成・組織と続成作用（堆積地質部会）
太田　亨*（tohta@toki.waseda.jp）・野田　篤

９．炭酸塩岩の起源と地球環境（堆積地質部会）
山田　努*（yamada@dges.tohoku.ac.jp）・松田博貴

10．堆積相と堆積システム・シーケンス（堆積地質部会）
中条武司*（nakajo@mus-nh.city.osaka.jp）・片岡香子

11．堆積作用・堆積過程（現行地質過程部会・堆積地質部会）
小松原純子*（j.komatsubara@aist.go.jp）・北沢俊幸

12．石油・石炭地質学と有機地球化学（石油・石炭関係・堆積地質部会）
大久保　進（susumu.okubo@japex.co.jp）・金子信行

13．岩石・鉱物の破壊と変形（構造地質部会）
西川　治*（nisikawa@lfp03.mine.akita-u.ac.jp）・平内健一

14．付加体（構造地質部会）
坂口有人*（arito@jamstec.go.jp）・鎌田祥仁

15．テクトニクス（構造地質部会）
大坪　誠*（otsubo-m@aist.go.jp）・佐藤活志

16．ノンテクトニック構造（応用地質部会・構造地質部会）
柏木健司*（kasiwagi@sci.u-toyama.ac.jp）・永田秀尚・村井政徳

17．古生物（古生物部会）
平山　廉・北村晃寿*（seakita@ipc.shizuoka.ac.jp）・太田泰弘・三枝春生・須藤　斎

18．噴火と火山発達史（火山部会）
永尾隆志（tnagao@yamaguchi-u.ac.jp），石井英一・石塚吉浩

19．深成岩・火山岩とマグマプロセス（火山部会・岩石部会共催）
古川邦之（kfuru@aichi-u.ac.jp）・齋藤　哲

20．変成岩とテクトニクス（岩石部会）
片山郁夫*（katayama@hiroshima-u.ac.jp）・桑谷　立

21．岩石・鉱物・鉱床学一般（岩石部会）
壷井基裕*（tsuboimot@kwansei.ac.jp）・水上知行

22．情報地質（情報地質部会）ポスターセッションのみ，口頭講演なし
能美洋介（y_noumi@big.ous.ac.jp）・坂本正徳

23．環境地質（環境地質部会）
難波謙二・風岡　修・三田村宗樹・田村嘉之*（tamura-yoshiyuki@pop07.odn.ne.jp）

24．応用地質学一般（応用地質部会）
上野将司*（ueno-shouji@oyonet.oyo.co.jp）・横田修一郎

25．地学教育・地学史（地学教育部会・地学教育委員会共催）
矢島道子*（pxi02020@nifty.com）

26．第四紀地質（第四紀地質部会）
吉川周作*（yoshi@sci.osaka-cu.ac.jp）・内山　高

■9月4日（金）午前

ホール

（定番）変成岩とテクトニクス

座長：桑谷　立（199-202），中野伸彦（203-206），片山郁夫（207-210）

9：00

9：00 **O-199**
火山フロント直下の最上部マントル構造～カムチャッカ半島アバチャ火山かんらん岩捕獲岩を例として～．大原達也・道林克禎

9：15 **O-200**
夜久野オフィオライト待ちの山かんらん岩の微細構造発達．鈴木慎人・道林克禎

9：30 **O-201**
キンバーライト捕獲岩の変形組織と含水量の関連性．片山郁夫・寺尾龍二・安東淳一・道林克禎・小宮　剛

9：45 **O-202**
ケリファイトのテクトニクス．小畑正明・清水以知子

10：00 **O-203**
カンラン岩系の熱水変質実験．西山忠男・田上剛範・磯部博志

10：15 **O-204**
水熱反応によるシリカ析出様式と組織発達．岡本　敦・最首花恵・平野伸夫・土屋範芳

10：30 **O-205**
部分溶融した地殻下部の変形．宮崎一博

10：45 **O-206**
西アルプスのマイクロブーディン構造を用いた応力－歪解析．大森康智・木村希生・岡本敦・増田俊明

11：00 **O-207**
レッドリバー剪断帯の変成ボーキサイト．中野伸彦・小山内康人

11：15 **O-208**
チベット南部Kung Co地域における正断層に伴う延性変形．三石真祐瞳・Simon Wallis

11：30 **O-209**
四国中央部三波川変成岩中に発達する北落ち大規模D2正断層の証拠と構造発達史．竹下徹・八木公史・アブデルハミッド　エルファクハラニ・板谷徹丸

11：45 **O-210**
高浜変成岩の白雲母$^{40}Ar/^{39}Ar$年代．高木秀雄・ジェームス　ハント・郷津知太郎・兵藤博信

講演会場　44

（定番）第四紀地質

座長：藤原　治（266-270），嵯峨山積（271-275）

9：30 **O-266**
藻琴湖の環境変遷．瀬戸浩二・高田裕行・香月興太・園田　武

9：45 **O-267**
北海道石狩平野の上部更新統～完新統層序と古環境の検討．嵯峨山積・外崎徳二・近藤務・岡村　聰・佐藤公則・藤原与志樹

10：00 **O-268**
八甲田山田代湿原コア試料からみた晩氷期以降の古環境解析．吉田明弘・小池慧子・篠崎鉄哉・内田昌男・柴田康行・堀内一穂・箕浦幸治

10：15 **O-269**
中川・荒川低地の沖積層における堆積物の供給と埋積作用．卜部厚志・本田孝子・木村克己・田辺　晋・中西利典

10：30 **O-270**
千葉海浜幕張地域の沖積層．加藤晶子・吉田剛・風岡　修・楠田　隆・山本真理・古野邦雄・香川　淳・酒井　豊

10：45 **O-271**
羽田空港D滑走路における砂礫層．金澤直人・野口孝俊・細矢卓志・加藤史恵・大里重人・遠藤邦彦・田中政典

11：00 **O-272**
駿河湾北岸の沈水イベントとプレート間地震との関係．藤原　治・藤野滋弘・小松原純子・行谷佑一・澤井祐紀・守田益宗

11：15 **O-273**
更新世と中新世における赤色風化作用．仲川隆夫

11：30 **O-274**
上高地ボーリング．原山　智・河合小百合

11：45 **O-275**
長野県，野尻湖底立が鼻遺跡の化石・遺物包有層の堆積環境－野尻湖層立が鼻砂部層の堆積システムについて－．西来邦章・野尻湖地質グループ

講演会場　43

（定番）地域地質・地域層序

座長：吉川敏之（42-45），竹下浩征（46-49），林　慶一（50-53）

9：00 **O-42**
北海道北部サロベツ原野における沖積層の水理地質構造．酒井利彰・井岡聖一郎・石島洋二

9：15 **O-43**
蝦夷層群における統合層序．西　弘嗣・高嶋礼詩・山中寿朗・林　圭一

9：30 **O-44**
長岩－坂本沢地域の坂本沢層．新谷友彦

9：45 **O-45**
秋田県由利本荘市に分布する上部鮮新統の堆積環境．鈴木俊之・石田　桂

10：00 **O-46**
放射年代に基づく日本国マイロナイト帯の形成時期．高橋　浩・毛　健仁

10：15 **O-47**
朝日帯と阿武隈帯の境界．大友幸子・横山一己・青柳絵里子・堀川博貴・安孫子秀人・小野貴之

10：30 **O-48**
新潟県北部の中新世リフト盆地形態：東西性地質構造要素による堆積システム規制と断層岩．石川夕夏子・栗田裕司・豊島剛志

10：45 **O-49**
新潟県中越地域のNW-SE走向断層から見た柏崎－千葉構造線．豊島剛志・平松　翠・神保かほり・栗田裕司

11：00 **O-50**
両神山ナップの再検討．山北　聡

11：15 **O-51**
富士川谷新第三系静川層群の軟体動物化石群集とその地質時代．柴　正博・廣瀬祐市・延原尊美・安田美輪・富士幸祐・篠崎泰輔

11：30 **O-52**
岐阜県南東部に分布する中新統瑞浪層群の地史．笹尾英嗣

11：45 **O-53**
西天田産*Plicatiferina*．田沢純一・栗原敏之・安曽潤子・梅田美由紀

講演会場　31

（定番）応用地質

座長：横田修一郎（250-253），西山賢一（254-258）

9：00 **O-250**
トップリング発生斜面の特徴．上野将司

9：15 **O-251**
四国に分布する地すべりのテフラによる編年．西山賢一・北村真一・山崎健太・伊藤嘉将

9：30 **O-252**
来待石石塔の風化．朽津信明

9：45 **O-253**
旧地形にそった火山性砕屑物の風化について．井村隆介・篠原　恵・前田朋美

10：00 **O-254**
モデル実験での斜面崩壊．山田泰広・山下佳彦・山本由弦

10：15 **O-255**
松島巨大地すべり起源説．長谷川修一

10：30 **O-256**
島根県大江高山地域の第四紀火山岩体を構成する多様な岩相とそれに依存した斜面運動．木村健志・田村友紀夫・横田修一郎

10：45 **O-257**
西暦714年地震に伴う長野県南部遠山地域の地変．村松　武・寺岡義治・後藤（桜井）晶子

11：00 **O-258**
富山市八尾町桐谷周辺の地すべり．小嶋智・永田秀尚・野崎　保・鈴木和博・池田晃子・中村俊夫・山城屋誠一・棚橋亮太・大谷具幸

（定番）ノンテクトニック

座長：柏木健司（158-159）

11：15 **O-158**
宮崎県双石山北西麓における巨大砂岩ブロック群のトップリングによる形成過程．植松　敏

11：30 **O-159**
鈴鹿花崗岩におけるラミネーション．永田秀尚

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月4日（金）午前

会場	講演会場　42	講演会場　51	講演会場　55
	（定番）テクトニクス	（定番）砕屑物組成・組織と続成作用	（トピック）ジュラ系十
	座長：大坪　誠（139-142），藤内智士（143-146），加藤直子（147-150）	座長：太田　亨（80-82），堀内　悠（83-85）	座長：堀　利栄（13-17），松岡　篤（18-22）
9：00	9：00 **O-139** 断層岩類から見た関東山地北東縁における中央構造線の構造発達史．金山健太郎・小林健太 9：15 **O-140** 大深度温泉井の掘削資料から推定される葉山隆起帯北側地域の中新統葉山層群の地下地質構造－大規模伏在逆断層．江藤哲人・小沢　清 9：30 **O-141** 中部日本深部地殻構造解明研究の前進．伊藤谷生・狩野謙一・小嶋　智・岩崎貴哉・池田安隆・佐藤比呂志・平田　直・パナヨトプロスヤンス・河本和朗・三宅康幸・大塚勉・山北聡・深畑幸俊・阿部信太郎・村田和則・早川信・駒田希充・津村紀子・佐藤利典・宮内崇裕・金田平太郎・橋間昭徳・川中　卓・須田茂幸・溝畑茂治・阿部　進 9：45 **O-142** 2008年三条-弥彦沖測線地殻構造探査の成果．佐藤比呂志・阿部　進・高橋明久・加藤直子・岩崎貴哉・石山達也・斎藤秀雄・白石和也・稲葉　充・深澤　光 10：00 **O-143** 反射法地震探査による越後平野東縁下田丘陵の地質構造．加藤直子・佐藤比呂志・阿部進・高橋明久・深澤　光・稲葉　充 10：15 **O-144** 反射法地震探査からみた粟島周辺地域の断層褶曲帯の活動性について．木村治夫・岡村行信 10：30 **O-145** 新潟堆積盆地，片貝断層群の断層ガウジ帯．小林健太・田中麻衣 10：45 **O-146** 新潟－神戸歪集中帯の成因：堆積被覆層による浮力．大槻憲四郎・今泉俊文 11：00 **O-147** 沖縄トラフ北端部のリフティング過程．大岩根尚・藤内智士・中村恭之・清川昌一・徳山英一 11：15 **O-148** スエズ・リフトの活動のFEシミュレーション．林　大五郎・Dwivedi Sunil K. 11：30 **O-149** ヒマラヤの変成岩ナップはテチス堆積物を載せたまま前進した？　酒井治孝・檀原　徹・岩野英樹・瀧上　豊 11：45 **O-150** プレート沈み込みのプレートダイナミクス．新妻信明	10：00 **O-80** 古土壌から読みとられる陸域環境の変化：天草諸島北部，始新統赤崎層の例．草場　敬・木村亨輝・佐野弘好 10：15 **O-81** 産状に基づくカルクリートのタイプ分け：天草諸島北部，始新統赤崎層を例として．木村亨輝・草場　敬・佐野弘好 10：30 **O-82** タイ国，Phu Kradung層中のカルクリート再堆積物．堀内　悠・久田健一郎・Charusiri Punya 10：45 **O-83** 四万十帯牟婁層群および日南層群産出のorthoquartzite，metaquartzite礫の特性．忽滑谷優里・久田健一郎・小室光世 11：00 **O-84** 中央ネパール，テチスヒマラヤの陸棚相下部三畳系に記録された貧酸素環境．吉田孝紀・大友和夫・川村寿郎・鈴木茂之・Dhital Megh Raji 11：15 **O-85** 中国東北部，下部白亜系の後背地風化過程．太田　亨・Li Gang・相田和明・坂井　卓・平野弘道・香西　武・吉川武憲	9：30 **O-13** 大学が実施する普及活動：新潟大学における頭足類展（2008）を例にして．松岡　篤 9：45 **O-14** 下部ジュラ系豊浦層群西中山層より産出する*Cleviceras*属の分類学的再検討．中田健太郎・松岡　篤 10：00 **O-15** 鳥ノ巣式石灰岩産ジュラ紀中世放散虫化石の再検討．石田直人 10：15 **O-16** ペルム紀付加体秋吉テレーンのチャート‐砕屑岩シーケンスの繰り返し構造とその意義．伊藤剛・松岡　篤 10：30 **O-17** 日本のジュラ紀付加体におけるペルム紀/三畳紀境界層序の詳細復元および酸化還元環境の推定．佐久間広展・多田隆治・池田昌之・柏山祐一郎・大河内直彦・小川奈々子・渡部哲子・田近英一・山本信治 10：45 **O-18** 三畳紀後期カーニアン・ノーリアンのコノドント化石群集とその古地理変遷－丹波帯地福谷と秩父帯久井谷の例－．三上禎次・石田啓祐・鈴木茂之・ヒルシュ フランシス 11：00 **O-19** 層状チャートの炭素同位対層序．堀　利栄・秋國健一・南林慶子・工藤薫子・村上由記・池原　実 11：15 **O-20** ラキノ島より産出した中～後期三畳紀放散虫およびコノドント化石．相田吉昭・堀　利栄・高橋　聡・Spörli K. Bernhard・山北　聡 11：30 **O-21** 四国北部秩父帯のジュラ紀前期放散虫化石．竹村厚司・岸本紗矢子・竹村静夫・堀　利栄・山北　聡 11：45 **O-22（招待）** ジュラ紀のテチス海最奥部に残された恐竜足跡．石垣　忍

■MEMO■

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月5日（土）午前

会場	ホール	講演会場　44	講演会場　43	講演会場　31
	（シンポ）都城秋穂追悼	（シンポ）「ちきゅう」南海トラフ掘削の成果（総括）		（シンポ）高Mg安山岩とアダカイト
	座長：磯﨑行雄（46-53）	座長：氏家恒太郎（1-5），芦　寿一郎（6-9）		座長：田村芳彦（23-25），木村純一（26-28）
9：00	9：00 はじめに．磯﨑行雄・丸山茂徳 9：05 S-46 アングラゼミのリーダー．杉村　新 9：20 S-47 都城秋穂氏の著書．橋本光男 9：35 S-48 都城先生の思い出．諏訪兼位 9：50 S-49 金沢大学理学部地学教室と坂野スクール．小西健二 10：05 S-50（招待） A Japanese geologist in a time of turnover：Akiho Miyashiro．A. M. C. Sengor 休憩 10：50 S-51 都城岩石学．久城育夫 11：20 S-52（招待） 都城秋穂が科学哲学に提起した問題．熊沢峰夫・戸田山和久 11：40 S-53 ポスト都城の道．丸山茂徳	9：00 S-1 南海トラフ地震発生帯掘削計画の今後の科学目標．木村　学・木下正高・倉本真一 9：15 S-2（招待） IODP Exp319 航海報告．荒木英一郎・IODP Exp319乗船研究者一同 9：35 S-3（招待） 巨大分岐断層と海底下生命圏．稲垣史生 9：55 S-4 南海トラフの海底地すべりの発生プロセス．川村喜一郎・安間　了・木下正高・坂口有人・金松敏也・山田泰広・横山俊治 10：15 S-5（招待） 南海トラフ付加体内部の応力場逆解析．伊藤喜宏・浅野陽一・小原一成 10：35 S-6（招待） Friction at Seismic Slip Sppppppeeds：Experiments and Theory．Kevin Brown・Yuri Fialko 10：55 S-7 IODP南海トラフ掘削による付加体浅部物質の摩擦特性について．堤　昭人・渡邉俊一 11：15 S-8 沈み込み帯地震発生深度で形成されたシュードタキライトとウルトラカタクレーサイトの特徴．氏家恒太郎・山口飛鳥・藤　昇一・山口はるか 11：30 S-9 延岡衝上断層．山口飛鳥・木村　学・ユグランブル・岡本伸也・草葉陽子・山口はるか・柴田伊廣 11：45 総合討論		9：00 S-23 瀬戸内火山帯概説：高Mg安山岩，サヌキトイド，そして大陸地殻．巽　好幸 9：30 S-24 アダカイトの岩石化学的多様性とその成因．土谷信高 10：00 S-25 フルイド付加融解vs.メルト付加融解．木村純一 10：30 S-26 アダカイトとその類似岩．亀井淳志 11：00 S-27 伊豆小笠原マリアナ弧のマグネシアン安山岩．田村芳彦 11：15 S-28（招待） 瀬戸内火山帯の形成年代：小豆島におけるマルチ年代学．谷　健一郎・巽　好幸・佐藤佳子・Daniel Dunkley・檀原　徹

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月5日（土）午後

会場	ホール	講演会場　44	講演会場　43	講演会場　31
	（定番）変成岩とテクトニクス	（定番）第四紀地質	（定番）地域地質・地域層序	（定番）深成岩と火山岩
	座長：青矢睦月（211-214），河上哲生（215-219），岡本　敦（220-224）	座長：下山正一（276-279），田中里志（280-284），渡辺正巳（285-287）	座長：田沢純一（54-57），豊島剛志（58-61），笹尾英嗣（62-65），高橋　浩（66-67）	座長：古川邦之（180-182），壷井基裕（183-186）
14：00	14：00 **O-211** 中国雲南省ツァンシャン山地に分布する変成岩の変成作用と全岩化学組成．米村和紘・小山内康人・中野伸彦・大和田正明・馬場壮太郎 14：15 **O-212** 東南極スカレビークスハルセンのCHIMEモナズ石年代．河上哲生・外田智千 14：30 **O-213** フェロシュードブルッカイト様イルメナイト－ルチル共生．川嵜智佑・白河知恵・中野伸彦・小山内康人 14：45 **O-214** セールロンダーネ山地南西テレーンのグラニュライト相変成作用．志村俊昭・大和田正明・柚原雅樹・東田和弘・亀井淳志 15：00 **O-215** コーヒスタン島弧背弧起源変成層の構造的累重．山本啓司・ハフィーズウル　レーマン・金子慶之 15：15 **O-216** Timing of the the India-Asia collision and the Himalayan metamorphism．Hafiz Ur Rehman・Hiroshi Yamamoto 15：30 **O-217** ボヘミア山塊のガーネット橄欖岩のジルコンのU-Pb年代測定．　苗村康輔・ダニエル　ダンクリー・臼杵　直・平島崇男・マルチン　スフォイッカ 15：45 **O-218** 八重山変成岩類高変成度域の温度構造．石塚英男・大浜新士・田盛拓也・福家直幸・當眞千寿紗・竹本悠路 16：00 **O-219** 九州西部高浜変成岩類中の結晶片岩類の変成温度圧力．有馬和宏・池田　剛 16：15 **O-220** ニューラルネットワークを用いた変成反応の逆問題解析．桑谷　立・鳥海光弘 16：30 **O-221** 四国三波川変成岩Garnet-amphiboliteの上昇に伴う組織形成．宇野正起・鳥海光弘 16：45 **O-222** Polyphase metamorphic history of pelitic schists in the Sambagawa metamorphic belt, Sebadani area, central Shikoku, Japan．Kabir Md Fazle・Takasu Akira 17：00 **O-223** 領家花崗岩の成因．青矢睦月・水上知行・上原真一・ウォリス　サイモン 17：15 **O-224** 三波川帯-秩父帯の構造関係：関東山地からの視点．清水以知子・廬　志強・吉田鎮男・板谷徹丸	14：00 **O-276** ため池底質中に含まれる重金属元素分析による大気汚染分布と健康被害分布の関係性について．石渡真己・香村一夫・木方展治 14：15 **O-277** 大阪湾における珪藻群集の時空間変化と人為環境改変・汚染．廣瀬孝太郎・安原盛明・辻本彰・吉田広人・山崎秀夫・後藤敏一・吉川周作 14：30 **O-278** 京都府阿蘇海湖底の珪藻遺骸群集と環境変遷．田中里志・瀬戸浩二・高田裕行 14：45 **O-279** 中海の閉鎖性水域内外のラジウム放射能．野村律夫・中村光作・瀬戸浩二・井上睦夫 15：00 **O-280** 中海における小氷期およびそれ以降の環境変遷-貝形虫群集と堆積物の分析結果-．入月俊明・川上遼平・河野重範・野村律夫・瀬戸浩二 15：15 **O-281** 山陰地方中央部における完新世花粉層序．渡辺正巳 15：30 **O-282** 徳島県土柱層の堆積環境について．武智賢樹・鹿島愛彦 15：45 **O-283** 有明海干潟における豊かなアサリ漁場の地史．下山正一・塚野香織・百島則幸・市原季彦・堤　裕昭・井上聡・山中寿朗 16：00 **O-284** 鹿児島県種子島の中部地域における前期更新世増田層の層位学的・古環境学的研究．久保田亮・大木公彦・古澤　明 16：15 **O-285** ハイリッヒ１寒冷化の終焉：その原因と結果．箕浦幸治・勝俣美由希・堀内一穂・柴田康行・内田昌男 16：30 **O-286** 更新世後期の日本列島における古気候解析の統合．公文富士夫・河合小百合・井内美郎・長橋良隆 16：45 **O-287** 異常気象は大地震を誘発するのか？　中村眞人	14：00 **O-54** 岐阜県西部の美濃帯．佐野弘好・八尾　昭・桑原希世子 14：15 **O-55** 紀伊半島四万十帯，上部白亜系花園層から産出する放散虫化石群集．山本俊哉 14：30 **O-56** 三畳紀における東アジア東縁のプレート境界は横ずれ型だったのか？　菅森義晃 14：45 **O-57** 貝形虫およびカイエビ化石の生層序とジルコン-フィッショントラック法に基づく篠山層群の年代の再考．林慶一・松川正樹・大平寛人・陳丕基・甄金生・伊藤　慎・小荒井千人・小畠郁生 15：00 **O-58** 大山火山の基盤岩．竹下浩征・八木公史・郷津知太郎・草野高志・佐藤光男 15：15 **O-59** 対州層群の形成年代と堆積環境．二宮　崇・谷口　翔・下山正一・宮田雄一郎・ダニエルダンクレイ・松田博貴・山中寿朗・青木隆弘・西田民雄・市原季彦 15：30 **O-60** 四国中央部，御荷鉾緑色岩類-秩父帯北帯の地質構造．村田明広・山崎亮輔・前川寛和 15：45 **O-61** 九州黒瀬川帯のデボン系と石炭系の地質学的関係．宮本隆実・桑水流淳二・杁山哲男・木戸絵里香 16：00 **O-62** 種子島オリストストローム．福田泰英・坂井卓 16：15 **O-63** 沖縄本島勝連半島一帯に分布する知念層の石灰質ナンノ化石層序．井龍康文・千代延　俊・猿渡隼人・佐藤時幸・樺元淳一 16：30 **O-64** フィリピン島弧発達史．鈴木茂之・石田啓祐 16：45 **O-65** 中央ネパールヒマラヤ，トリアス紀後期南テチス海域砕屑性陸棚のパッチ礁．川村寿郎・吉田孝紀・鈴木茂之・Dhital Megh Raj・山中晶子・大友和夫 17：00 **O-66** アメリカ・ワシントン州，San Juan Islandの中生代付加体Deadman Bay terrane中のペルム紀海山の重力流堆積物．山縣　毅 17：15 **O-67** OneGeology－インターネット時代の国際地質図．脇田浩二・バンディバス　ジョエル・伏島祐一郎・宝田晋治	14：00 **O-180** 中部地方領家帯，伊那山脈の細粒苦鉄質岩岩脈について．手塚恒人 14：15 **O-181** 中部地方領家帯神原トーナライトにおけるSr同位体初生値の不均質と同化作用．壷井基裕・淺原良浩 14：30 **O-182** 海嶺下のメルトレンズの挙動～オマーンオフィオライト上部斑レイ岩層からの検討～．野川裕・足立佳子・宮下純夫 14：45 **O-183** 海嶺セグメント境界部の溶岩層序から検討した軸上 - オフアクシス火成活動の変遷 - オマーンオフィオライトの例 - ．草野有紀・宮下純夫・海野　進 15：00 **O-184** オマーンオフィオライトFizh岩体北端部におけるマントルセクションのカンラン岩と苦鉄質・超苦鉄質ダイクの組成関係．佐藤力樹・高澤栄一 15：15 **O-185** オマーンオフィオライトマントルセクションにおける苦鉄質－超苦鉄質ダイクの多様性と起源．金澤晋太郎・高澤栄一 15：30 **O-186** 海洋リソスフェアマントルの変遷：オマーン・フィズ岩体の例．高澤栄一・村上龍太朗・金澤晋太郎・佐藤力樹
				（定番）噴火と火山発達史
				座長：三浦大助（175-177），永尾隆志（178-179）
				16：15 **O-175** 姶良カルデラ，29cal ka BPの大規模噴火の推移について．福田登志郎・小林哲夫 16：30 **O-176** 阿久根1,2火砕流と水成層に挟まるテフラとの対比．水野清秀・宝田晋治・星住英夫 16：45 **O-177** 阿武火山群伊良尾火山の噴火史と岩石学的特徴．永尾隆志・清杉孝司・堀川義之 17：00 **O-178** 伊豆半島北東部の第四系水中火山岩の産状．及川輝樹・石塚　治 17：15 **O-179** 活火山恵山の長期的ハザード評価．三浦大助・土志田　潔

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月5日（土）午後

会場

14：00

講演会場　41

（トピック）IBMの発生と進化

座長：針金由美子（29-32），坂本　泉（33-36），植田勇人（37-41）

14：00 **O-29**
IBM基盤リソスフェア：上部マントルかんらん岩．新井田清信・千葉恵美・東　豊土・石井輝秋

14：15 **O-30（招待）**
伊豆・小笠原弧における極初期島弧地殻断面の発見．谷健一郎・宿野浩司・平原由香・羽生　毅・高橋俊郎・Nichols Alexander・Vaglarov B. St.・Dunkley Daniel J.・森下知晃・針金由美子・町　澄秋・石塚　治・宮嶋優希

14：30 **O-31**
小笠原弧の基盤としての大町海山蛇紋岩体．植田勇人・臼杵直・平内建一・メシェデ マーティン・新井田清信・YK08-05研究者一同

14：45 **O-32**
マリアナ前弧に分布する蛇紋岩海山中のかんらん岩の性質と蛇紋岩化作用．村田恵子・前川寛和

15：00 **O-33**
マリアナトラフかんらん岩中のはんれい岩脈の成因．千葉恵美・新井田清信

15：15 **O-34**
ゴジラムリオンの発生とパレスベラ背弧海盆の進化．針金由美子・道林克禎・小原泰彦

15：30 **O-35**
世界最深の海洋底岩石試料：トンガ海溝かんらん岩．道林克禎・上原茂樹・新海優里・針金由美子・石井輝秋・沖野郷子

15：45 **O-36**
衝突帯の深成岩．田村芳彦

16：00 **O-37**
海洋性島弧創成期のマグマプロセスの解明－小笠原海嶺潜航調査速報－．石塚　治・湯浅真人・谷健一郎・海野　進・針金由美子・金山恭子・宮嶋優希・リーガン　マーク

16：15 **O-38**
北部伊豆・小笠原弧ベヨネーズ背弧海域から採取された酸性火山岩および深成岩類．坂本　泉・金　容義・馬場久紀・花田正明・宮嶋優希・石田光男・岡村　聡・高橋成実

16：30 **O-39**
伊豆・小笠原弧、新黒瀬堆海域における玄武岩質マグマ活動．とその起源．平原由香・谷健一郎・石塚　治・宿野浩司・Alex Nichols・Richard Fiske・Daniel Dunkley・荻津　達

16：45 **O-40**
ソレアイト vs. カルクアルカリ系列と島弧地殻の進化；IBM玄武岩の融解実験による制約．巽　好幸・鈴木敏弘

17：00 **O-41**
岩石の地震波速度から見た海洋性島弧の地殻マントル構造．石川正弘

講演会場　42

（定番）テクトニクス

座長：佐藤活志（151-154），小林健太（155-157）

14：00 **O-151**
月探査機かぐやのLRSによる地下探査で推定された，湿りの海における玄武岩の総厚とそのテクトニックな意義．山路　敦・押上祥子・山口　靖・中川広務・熊本篤志・小野高幸・小林敬生

14：15 **O-152**
GPS，地震，地表変位のデータに基づく断層活動の確率論的な長期評価手法．後藤淳一・土　宏之

14：30 **O-153**
京都府北部，上林川断層の横ずれインバージョン．亀高正男・岸本弘樹・梅田孝行・松場康二・東　篤義・山根　博・松井和夫・魚住誠司・岩森暁如・玉田潤一郎・金谷賢生

14：45 **O-154**
三郡-中国帯の二帯並列構造の成因．早坂康隆・宮本隆實・勝部亜矢・藤井正博・伏木　治

15：00 **O-155**
温度上昇による構造運動－白亜紀の西南日本内帯－．豊原富士夫

15：15 **O-156**
砂質片岩中のジルコンの年代分布に基づく三波川帯の再区分．大藤　茂・下條将徳・青木一勝・中間隆晃・丸山茂徳・柳井修一

15：30 **O-157**
ピストン・シリンダー型実験装置を用いた「クラック・フリー」弾性波速度測定．斉藤　哲・石川正弘・有馬　眞・巽　好幸

（定番）岩石鉱物の破壊と変形

座長：大坪　誠（120-121），西川　治（122-125）

16：00 **O-120**
男鹿半島北岸の更新統北浦層中に発達する脈状構造．西川　治

16：15 **O-121**
阿寺断層破砕帯の最新すべり面におけるMn鉱物の形成．大谷具幸・沓名亮輔・小嶋　智・大橋聖和

16：30 **O-122**
有馬－高槻構造線六甲断層に発達する断層破砕帯の幅について．山下和彦・林　愛明

16：45 **O-123**
脈状断層ガウジ：活断層帯の「地震化石」．林　愛明

17：00 **O-124**
ボーリングコアによる中央構造線の延性断層岩の構造．藤本光一郎・重松紀生・古谷直人・木村希生・竹下　徹

17：15 **O-125**
中央構造線の脆性断層岩．重松紀生・藤本光一郎・田中伸明・古谷直人・木村希生・森　　宏・Simon Wollis

講演会場　51

（定番）石油・石炭

座長：大久保　進（117-119）

14：00 **O-117**
津軽堆積盆地に分布する中新統硬質泥岩の石油根源岩評価．下総麻衣子・数田文代・氏家良博

14：15 **O-118**
四国～房総半島付加体の有機物タイプと発生炭化水素量の見積り．三瓶良和・田中孝典・大澤一久・徳平太一・中村隆之

14：30 **O-119**
新潟県小千谷油田の産油層準－基礎試錐「小国」の石油地質（その１）．加藤　進・三輪美智子・平松　力

（定番）堆積相と堆積システム

座長：柴田健一郎（96-99），中条武司（100-102）

15：00 **O-96**
堆積盆埋積様式の類型化その２：２次元変化と砕屑物供給．高野　修・Chris Paola・Paul Heller

15：15 **O-97**
熱河層群の堆積盆テクトニクス．坂井　卓・太田　亨・平野弘道・香西　武・リー　ガン

15：30 **O-98**
韓国西部におけるジュラ紀造山同時堆積作用．江川浩輔・李容鎰

15：45 **O-99**
火山性巨大洪水：十和田カルデラ，奥入瀬渓流，三本木扇状地に見られる証拠．片岡香子

16：00 **O-100**
山形県新庄盆地西縁部の鮮新世古地理の変遷．守屋俊治・鎮西清高・中嶋　健・檀原　徹

16：15 **O-101**
常磐沖の地震波断面中に見られる鮮新統の堆積シーケンス．保柳康一・中村恭之・畑中　彩・柳沢幸夫

16：30 **O-102**
新潟堆積盆地蒲原平野の地下に分布する椎谷層相当層の堆積システム．荒戸裕之・加藤　明・山本尚史・保柳康一

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月5日（土）午後

会場

14：00

講演会場　52

（トピック）「ちきゅう」南海トラフ掘削の成果

座長：橋本善孝（23-27），坂口有人（28）

14：00 **O-23**
熊野沖付加プリズムの発達と前弧海盆の形成．芦寿一郎・青池寛・眞砂英樹

14：15 **O-24**
熊野トラフにおける後期更新世火山灰層序．金松敏也・林　広樹

14：30 **O-25**
熊野灘海底砂層の記載と後背地・IODP第315次航海．眞砂英樹

14：45 **O-26**
南海掘削コア試料の三軸圧縮強度．林　為人・中村敏明・Chang Chandong・多田井修・坂口　真澄・廣瀬丈洋・谷川　亘

15：00 **O-27**
南海トラフ地震コアのビトリナイト．坂口有人・IODP Exp316乗船研究者一同

15：15 **O-28**
沈み込み帯における堆積物の続成過程・ウェッジ形状・地震サイクル．橋本善孝

（定番）付加体

座長：坂口有人（136-138）

15：30 **O-136**
反クリティカル・テイパー理論．阪口　秀・堀　高峰

15：45 **O-137**
古生代後期緑色岩の火成活動，北部秩父帯．辻　智大・渋谷奨・榊原正幸・堀　利栄

16：00 **O-138**
沈み込み帯地震発生帯のESR熱年代学．福地龍郎・今井　登・徐　垣・宋　聖榮

講演会場　54

（定番）環境地質

座長：吉田　剛（231-234），天野敦子（235-238），小荒井　衛（239-242），川辺孝幸（243）

14：00 **O-231**
大分県別府湾の表層堆積物中の重金属元素濃度分布．天野敦子・阿草哲郎・加　三千宣・大森浩二・武岡英隆・杉本隆成

14：15 **O-232**
日本各地における湖沼堆積物中の化石燃料燃焼物質の時空間分布．北瀬（村上）晶子・山崎秀夫・森脇　洋・平川恵梨・吉川周作

14：30 **O-233**
竜の口層に含まれる重金属類含有量と溶出挙動．土屋範芳・荒川淳一

14：45 **O-234**
関東ロームの有する汚染水浄化能力の定量的検討．香村一夫・馬場直紀・遠藤庸弘

15：00 **O-235**
廃棄物埋立跡地での地下空気吸引と地下水揚水による浄化に伴う地盤沈下．楠田　隆・吉田　剛・古野邦雄・笠原　豊・香川淳・西川順二・濱口　聡・宮崎　隆・田村嘉之・石井泰裕・風岡修・加藤晶子・山本真理・酒井　豊

15：15 **O-236**
地下水質と観測井－印西市浦部地区観測井データから－．酒井豊・風岡　修・加藤晶子・楠田　隆・村越道弘・篠田正彦・清水健一・細谷　有・石井　亮・八槇明子・青木勝宏・吉田　剛・山本真理

15：30 **O-237**
地質汚染調査．上砂正一

15：45 **O-238**
航空レーザデータを活用した里山地域の景観生態学的評価．小荒井　衛・中埜貴元・長澤良太・日置佳之

16：00 **O-239**
中国四川省，汶川地震断層の地中レーダ画像．宮田隆夫・洪景鵬・付　小方

16：15 **O-240**
長野市北部地域の後背湿地堆積物と中越沖地震被害ほか．塩野敏昭

16：30 **O-241**
砂丘内陸側斜面下部に見られる液状化－流動化現象．風岡修・佐藤光男・吉田剛・古野邦雄・楠田　隆・香川　淳・酒井豊・原　雄・香村一夫・佐藤賢司・楡井　久

16：45 **O-242**
廃棄物最終処分場のLinerと活地塊．楡井　久

17：00 **O-243**
防災リスク環境の形成素因と防災の要諦．志岐常正・藤田崇・中川康一・小林芳生・小井土由光

講演会場　55

（トピック）希ガス年代測定

座長：角野浩史（1-2，4-6，12），兵藤博信（3，7-11）

14：00 **O-1（招待）**
Noble Gas Geochemistry on Materials from Earth's Interior. Takuya Matsumoto

14：15 **O-2**
マントルのK,Uのバジェット．羽生　毅

14：30 **O-3**
Ar-Ar及びI-Xe法の拡張による極微量ハロゲンの検出．角野浩史・馬上謙一・長尾敬介

14：45 **O-4**
希ガスと年代測定．兼岡一郎

15：00
休憩

15：10 **O-5**
断層帯の熱年代学．田上高広

15：25 **O-6**
(U-Th)/He年代法とその応用．山田国見・花室孝広・島田耕史・梅田浩司・田上高広・高木秀雄・山田隆二

15：40 **O-7**
断層岩を模した摩擦溶融実験でのK-Ar年代の若返り．佐藤佳子・廣瀬丈洋・熊谷英憲・田村　肇・溝口一生・嶋本利彦

15：55 **O-8**
高圧変成岩中の白雲母K-Ar年代の閉鎖温度．郷津知太郎

16：10
休憩

16：20 **O-9**
蔵王火山、最新期噴出物のK-Ar年代測定．武部義宜・佐藤佳子・熊谷英憲・伴　雅雄

16：35 **O-10**
年代標準試料候補MZ94の分析値．岩田尚能・齋藤和男・角野浩史・佐藤佳子

16：50 **O-11**
アルゴン同位体の質量分別線．柳　善榮・兵藤博信・板谷徹丸

17：05 **O-12**
微小試料レーザー$^{40}Ar/^{39}Ar$年代．兵藤博信・板谷徹丸

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月6日（日）午前

会場	ホール	講演会場　44	講演会場　43	講演会場　31
	（シンポ）A special symposium to honor Shouhei Banno：坂野昇平追悼	（シンポ）三次元地質モデル	（シンポ）科学を文化に	（シンポ）中国地方の新生界の諸問題
	座長：T. Hirajima（38-42），M. Enami（43-45）	座長：古宇田亮一（54-57），根本達也（58-61），升本眞二・木村克己（62，総合討論）	座長：藤本光一郎・高清水康博（61-67，総合討論）	座長：酒井哲弥・松原尚志（10-13），入月俊明・沢田順弘（14-17），沢田順弘・尾崎正紀（18-22）
9：00	9：00 Opening remarks．T. Hirajima 9：05 **S-38（招待）** Solid solution and partition equilibria．M. Enami 9：25 **S-39（招待）** Structural petrology in the Sanbagawa belt．S. Wallis & M. Aoya 9：45 **S-40（招待）** Geochronology of Sanbagawa belt. T. Itaya 10：05 **S-41（招待）** Geochronology and tectonics of the Ryoke belt.　T. Nakajima 10：25 **S-42（招待）** Current topics of HT/UHT metamorphism. Y. Hiroi 10：45 **S-43（招待）** UHP Grt peridotites from sea-floor hydrated ultramafic rocks．J.J. Yang 11：05 **S-44（招待）** Contribution of petrologic studies from Western Alps．R. Compagnoni 11：30 **S-45（招待）** Deformation and Structure-formation．M. Toriumi 11：55 Closing remarks．T. Nishiyama	9：00 挨拶．升本眞二 9：05 **S-54** 都市地質研究における三次元モデルとその構築手法．木村克己・石原与四郎・小松原純子・根本達也・江藤稚佳子 9：30 **S-55** 三次元地質モデルの基本要素と地質構造の論理モデル．升本眞二・塩野清治・根本達也・野々垣　進 9：50 **S-56** 地質構造の論理モデルを用いた三次元地質モデリング：データ処理と可視化．根本達也・升本眞二・塩野清治 10：10 **S-57（招待）** 地質調査業における三次元モデル．得丸昌則 10：35 **S-58** 石油業界における３次元貯留層モデリング．高野　修・辻　隆司 10：55 **S-59** 侵食谷形状モデリング．辻　隆司・柏原功治・山田知己・加藤　新・高野　修・岡田欣也 11：15 **S-60** 三次元モデリングと地質情報標準．古宇田亮一 11：35 総合討論	9：00 シンポジウム趣旨説明 9：05 **S-61** 地学教育の現状と今後の方向性．牧野泰彦 9：25 **S-62** 新学習指導要領で目指すもの－高等学校地学を中心に－．三次徳二 9：45 **S-63** 地学履修者を増やすための方策．芝川明義 10：05 **S-64** 京都における地学教育の現状と課題．紺谷吉弘 10：25 休憩 10：35 **S-65（招待）** 地域を生かした岩石・鉱物学習．杉山了三 10：55 **S-66** 教育テーマとしての“津波”とその教材としての“津波堆積物”．七山　太 11：15 **S-67** 知識社会の地学教育．藤林紀枝・中井睦美・藤本光一郎 11：35 総合討論	9：00 **S-10** 中国地方の後期古第三紀から中新世にかけての諸問題．沢田順弘・入月俊明・酒井哲弥・尾崎正紀・松原尚志 9：15 **S-11** 海成古第三系と貝類化石群．松原尚志 9：28 **S-12** 岡山・神戸の古第三紀玄武岩．松浦浩久・妹尾　護 9：41 **S-13** （コメント）瀬戸内海東部沿岸域の古第三紀の貝形虫化石の古海洋および貝形虫の変遷史に関する意義．山口龍彦 9：46 **S-14** 山陰地域の古第三紀コールドロン群のK-Ar年代．今岡照喜・君波和雄・長松　雄・板谷徹丸 9：59 **S-15** 西南日本に分布する始新統～漸新統と日本海開裂の初期過程．鹿野和彦 10：12 **S-16** 島根県東部中新統古浦層に記録された環境の変化．酒井哲弥・古川絢子 10：25 **S-17** 中国山地の海成中新統からの微化石群集．入月俊明・林　広樹・瀬戸浩二・田中裕一郎・松山和馬・岩谷北斗・後藤隆嗣 10：42 **S-18（招待）** 中国地方下の地震活動と地下構造．三好崇之 10：56 S-19 中国地方の漸新統からみた西南日本弧発達の諸問題．尾崎正紀 11：09 **S-20** 西南日本の時計回り回転：到達点と課題．星博幸 11：22 **S-21** Mesozoic opposite tectonic rotations of two blocks along the eastern margin of the Asian continent．Yo-ichiro Otofuji 11：32 **S-22** 西南日本外帯前期中新世形成仮説．高橋雅紀 11：47 総合討論

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月6日（日）午前

会場	講演会場　51	講演会場　52
	（定番）堆積作用・堆積過程	（定番）古生物
	座長：吉河秀郎（103-106），西田尚央（107-110），清川昌一（111-114）	座長：北村晃寿（160-166，170），須藤　斎（167-171，170を除く）
9：00	9：00 O-103 多毛類化石とその生痕の三次元構造と本郷層の堆積環境．金光男・柏原秀雄・池原　研・牧野州明・保柳康一 9：15 O-104 Fluid mud堆積物における「粒状構造」のサイズ分布．西田尚央・伊藤　慎 9：30 O-105 Sr同位体比を用いた仙台湾海浜砂の動態解析．齋藤　有・田村亨・中野孝教 9：45 O-106 砂岩中のジルコン年代による過去の後背地研究．中間隆晃・丸山茂徳・平田岳史・大藤　茂・柳井修一 10：00 O-107 新潟県新津油田，金津層・平層（最上部中新統～下部鮮新統）中の「コンターライト」．栗田裕司 10：15 O-108 鹿児島県薩摩硫黄島長浜湾における鉄沈殿機構の推定．永田知研・清川昌一・二宮知美・坂本　亮・竹原真美・池原　実・小栗一将・後藤秀作・伊藤　孝・山口耕生 10：30 O-109 DXCL掘削報告３：オーストラリア・ピルバラ海岸グリーンストーン帯における32億年前の堆積相復元．坂本　亮・清川昌一・伊藤　孝・池原　実・奈良岡　浩・山口耕生・菅沼悠介・細井健太郎・宮本弥枝 10：45 O-110 太古代の海底熱水系層序：DXCL掘削成果４．清川昌一・伊藤孝・池原　実・山口耕生・奈良岡浩・菅沼悠介・坂本　亮・細井健太郎 11：00 O-111 原生代末期における深海の酸化還元環境　佐藤友彦・磯崎行雄・松尾基之 11：15 O-112 先カンブリア紀の表層海水温の推定．小宮　剛・西澤　学・平田岳史 11：30 O-113 南中国Weng'an地域のエディアカラ紀リン酸塩岩中のリン酸塩と炭酸塩のストロンチウム局所分析とリンのソース．岡田吉弘・澤木佑介・小宮　剛・西澤　学・高畑直人・佐野有司・丸山茂徳 11：45 O-114 原生代後期、南中国Weng'an地域の最古動物胚化石を含む微化石を構成するリン酸塩鉱物のU-Pb３次元コンコーディア年代．村上一輝・澤木佑介・平田岳史・北島宏輝・佐野有司・小宮　剛	9：00 O-160 徳島県上勝町の白亜紀前期エスチュアリ奥部黒色泥岩から産する*Tetoria sanchuensis*の自生産状．箭野敬典・近藤康生・奈良正和・高橋健一・井上紀子・菊池直樹・香西　武 9：15 O-161 中新統田辺層群白浜累層の潮汐低地システムに見られる自生カキ化石層とその成因　下郡裕之・高橋健一・近藤康生・奈良正和 9：30 O-162 中新世汽水性二枚貝シオサザナミ科*Soletellina minoensis*の生息場所と進化古生態学的意義．高橋健一・近藤康生 9：45 O-163 貝形虫化石群集に基づく上部鮮新統　宮崎層群高鍋層の古環境変遷．岩谷北斗・入月俊明・林 広樹・田中裕一郎 10：00 O-164 日本の下部中新統より産出する大型イシガメ科（カメ目）に関する予察的考察．平山　廉・高橋亮雄・薗田哲平・加藤敬史・河野重範・鵜飼宏明・角谷大輔 10：15 O-165 イラン北西部マラゲー産後期中新世有蹄類化石頬歯メゾウエア解析．仲谷英夫・蓮見恵理・宮里奈央・渡部真人 10：30 O-166 岐阜県大野町石山石灰岩の生層序．川合康司・高橋　健 10：45 O-167 福岡県宮若市，脇野亜層群中の石灰岩礫の*Neoschwagerinids*.太田泰弘・阿部哲夫・黒河雅文・太田正道 11：00 O-168 南中国の呉家坪/長興階境界のアンモノイドとコノドント．永広昌之・Shen Shuzhong 11：15 O-169 貝殻理論形態モデルの統一に向けて．生形貴男 11：30 O-170 北海道の後期中新統厚内層における珪藻*Chaetoceros*属休眠胞子急増イベント．須藤　斎・萩本伸太 11：45 O-171 プルームの冬増強版．磯崎行雄

■MEMO■

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月6日（日）午後

ホール

（シンポ）Geotectonic subdivision and evolution of the Japanese Islands：日本列島構造発達史

座長：S. Maruyama（29-31），Y. Isozaki（32-37）

14：00

14：00
Opening remarks．Yukio Isozaki

14：05 **S-29（招待）**
Tectonics of Eurasia and its effect to the history of our planet．A.M.C. Sengor

14：45 **S-30**
Geotectonic framework of Japan updated: re-denifining elements and boundaries of an accretionary orogen．Yukio Isozaki

15：00 **S-31**
Sakawa（Sanbagawa）orogeny revisited: two independent orogenies proposed．Kazumasa Aoki, Shinji Yamamoto, Shigenori Maruyama

15：15
comment．Shigeru Ohto et al.

15：20
short break

15：25 **S-32**
Juvenile Japan．Keitaro Kunugiza, Atsushi Goto

15：40 **S-33**
Japanese and Alaskan ophiolites．Akira Ishiwatari

15：55 **S-34**
Tectono-metamorphic processes in SE-Asia．Yasuhito Osanai, Nobuhiko Nakano, Masaaki Owada, Tetsuo Kawakami, Tomoharu Miyamoto, Masaki Yuhara, Kazuhiro Yonemura

16：10 **S-35**
On-going orogenic processes beneath Japanese islands．Hiroshi Sato, Takaya Iwasaki, Tanio Ito, Susumu Abe

16：25 **S-36**
Izu-Bonin arc subduction under the Honshu arc．Shinji Yamamoto, Shigenori Maruyama

16：30 **S-37**
Geotectonic Evolution of the Japanese Islands．Shigenori Maruyama, Kazumasa Aoki, Shinji Yamamoto, T. Nakama

16：50
Discussion

講演会場　43

（定番）地学教育・地学史

座長：矢島道子（259-264），松田義章（265）

14：00 **O-259**
地学教育委員会の活動．阿部國廣

14：15 **O-260**
兵庫県立加古川東高等学校地学部における研究活動の実際．川勝和哉・青山えりか

14：30 **O-261**
国際地学オリンピックの現状と課題．久田健一郎・瀧上　豊

14：45 **O-262**
地質標本館での小学５－６年生への地層の学習内容．玉生志郎・森尻理恵・澤田結基・徳橋秀一

15：00 **O-263**
生涯学習の場での地学教育．先山　徹・高橋晃・佐藤裕司・平松紳一

15：15 **O-264**
神保小虎の北海道地質調査とその成果．松田義章

15：30 **O-265**
ダーウィンは地質学者．矢島道子

講演会場　31

（定番）深成岩と火山岩

座長：金丸龍夫（187-192），星出隆志（193-198）

14：00 **O-187**
室戸岬斑れい岩かんらん石中の角閃石含有多相固体包有物の起源．星出隆志・小畑正明

14：15 **O-188**
西南日本，領家帯柳井地域に分布する古期花崗岩のマグマ過程．西塚　大・大和田正明

14：30 **O-189**
京都府北部丹後地域における宮津花崗岩の地球化学的研究．西垣貴史・壷井基裕

14：45 **O-190**
大東-横田のマグネタイト系深成岩類を生じたマグマの累進的酸化-純度の高い磁鉄鉱の生成．山口佳昭・川勝和哉

15：00 **O-191**
花崗岩中の石英のカソードルミネッセンスおよびTiの累帯構造とマグマ溜りプロセス．吉倉紳一・横山正敬・西戸裕嗣

15：15 **O-192**
花崗岩体中のカリ長石の秩序化状態と秩序化経路．加納　隆・竹崎　愛・前島裕子

15：30 **O-193**
大崩山花崗岩体における垂直方向組成累帯構造の成因．高橋正樹・岡本康成・藤縄明彦・金丸龍夫

15：45 **O-194**
富山県宇奈月地域に産する閃緑岩複合岩体のマグマ過程．滝沢顕吾・大和田正明

16：00 **O-195**
飛騨帯熊野川地域に分布する斑れい岩複合岩体．上塘　斎・大和田正明・加納　隆

16：15 **O-196**
東南極セール・ロンダーネ山地，ビーデレー山で見いだされた花崗閃緑岩体．柚原雅樹・亀井淳志・大和田正明・志村俊昭・東田和弘

16：30 **O-197**
ゴンドワナ超大陸の分裂に関連した火成活動．大和田正明・志村俊昭・柚原雅樹・東田和弘・亀井淳志

16：45 **O-198**
沈み込み帯の流体プロセスと溶融．岩森光・中村仁美

講演会場　41

（定番）岩石・鉱物・鉱床一般

座長：昆　慶明（225-227），壷井基裕（228-230）

14：00 **O-225**
マイロナイト中のシル分布から推定される下部地殻の変形帯．吉村辰朗・後藤啓治

14：15 **O-226**
山陰地域に分布する横田花崗岩の結晶作用とモリブデン鉱化作用の関係．三谷明日華・亀井淳志・柴田知之

14：30 **O-227**
山陰帯尾原地域に分布する深成岩類の火成活動とモリブデン鉱化作用に関する研究．薬師寺亜衣・亀井淳志・柴田知之

14：45 **O-228**
PET分光結晶におけるバックグラウンド形状の異常．加藤丈典・鈴木和博

15：00 **O-229**
隠岐葛尾火山岩火道アルカリ長石の熱史．中野聰志

15：15 **O-230**
月布ベントナイト中に含まれるジルコンの微量元素組成とU-Pb年代．昆　慶明・高木哲一・平田岳史・茂木賢一・伊藤雅和

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月6日（日）午後

会場

14：00

講演会場　42

（定番）岩石鉱物の破壊と変形

座長：重松紀生（126-130），平内健一（131-135）

14：00 **O-126**
粘土質野島断層ガウジの中速・高速摩擦挙動．澤井みち代・嶋本利彦・東郷徹宏

14：15 **O-127**
中国龍門山断層ガウジの摩擦実験．東郷徹宏

14：30 **O-128**
炭素鉱物の断層すべりに伴う自己断層面潤滑．大橋聖和・嶋本利彦

14：45 **O-129**
台湾チェルンプ断層近傍の母岩試料における比熱と熱拡散係数の実測－それらの温度依存性について－．廣野哲朗・濱田洋平

15：00 **O-130**
付加体泥質岩の摩擦熔融に関する実験的研究．氏家恒太郎・堤　昭人・Yuri Fialko・山口はるか

15：15 **O-131**
分解エンタルピーに基づいたカオリナイト粒子内に働いた仕事量．滝沢　茂・小澤佳奈・八田珠郎・根本清子

15：30 **O-132**
剪断変形実験による人工水晶単結晶の幾何学軟化．武藤　潤・タリスジャン・ヘイルブロンナーレネー

15：45 **O-133**
長石の反応-細粒化への水の役割と輸送機構．福田惇一・奥平敬元

16：00 **O-134**
地下深部の流体移動．嶋本利彦

16：15 **O-135**
圧痕形成に於ける平行四辺形の法則の提唱．増田俊明・櫻井涼子・三宅智也・山之内未来・大森康智・針金由美子・岡本　敦

講演会場　51

（定番）堆積作用・堆積過程

座長：小宮　剛（115-116）

14：00 **O-115**
エディアカラ紀の炭酸塩の炭素・酸素同位体比の正逆相関関係と炭素循環変動．田畑美幸・上野雄一郎・石川智子・澤木佑介・小宮　剛・吉田尚弘・丸山徳茂

14：15 **O-116**
南中国三峡地域の掘削試料から得られるエディアカラ紀～カンブリア紀の安定Ca同位体比層序．澤木佑介・田畑美幸・小宮　剛・丸山茂則・平田岳史

（定番）炭酸塩岩の起源

座長：狩野彰宏（86-89），山田　努（90-92），江崎洋一（93-95）

14：30 **O-86**
Chemostratigraphy of metacarbonates deposited in the "Mozambique Ocean" between East Gondwana and West Gondwana. Satish-Kumar Madhusoodhan・宮本知治・Hermann Joerg・Windley Brian・Grantham Geoff・Dunkley Dan・本吉洋一・小山内康人・廣井美邦・白石和行・和田秀樹

14：45 **O-87**
南中国湖北省で顕著な礁構築様式のレジーム転換－オルドビス紀における地球生物相大変革との関連－．江崎洋一・劉　建波・足立奈津子

15：00 **O-88**
秋吉石灰岩Mid-Carboniferous境界付近の海上露出の証拠および干潟堆積物．比嘉啓一郎・枚山哲男

15：15 **O-89**
Facies analysis of the Middle to Upper Jurassic carbonates of the Blue Nile canyon, north-central Ethiopia. Gilamichael Kidanemariam Domenico・Hiroyoshi Sano・Hiroshi Kurita・Seiichi Toshimitsu

15：30 **O-90**
冷水サンゴのU-Th解放系年代　狩野彰宏・沈洲川・坂井三郎

15：45 **O-91**
多良間島の第四系琉球層群と水理地質的特徴．山田茂昭・與那原信夫・祖父江久徳

16：00 **O-92**
衝突変質炭酸カルシウム．三浦保範

16：15 **O-93**
炭素・酸素同位体組成に基づく地表露出面の認定～宮古島南部ボーリングコアでの検討～．南條貴志・松田博貴

16：30 **O-94**
山口県長登銅山産鍾乳石の炭素・酸素安定同位体組成から読む人間活動と環境変遷．松田博貴・眞崎美穂・吉村和久・栗崎弘輔・杉原真司・横山裕也・冨田麻井・中尾武史・園山幸希・鮎沢潤・岡本　透・中川良平・池田善文・藤川将之・山田　努・馬淵しの

16：45 **O-95**
鍾乳石の炭素・酸素同位体組成に記録された10年規模の周期的な気候変化．山田　努・馬淵しの・松田博貴・財津良太・吉村和久・栗崎弘輔・中尾武史

講演会場　52

（定番）古生物

座長：須藤　斎（172-174）

14：00 **O-172**
諫早湾，ラジウム放射能比・底生有孔虫群集・重金属濃度の分布．秋元和実・田中正和・野村律夫・石賀裕明・島崎英行

14：15 **O-173**
海底洞窟生微小二枚貝の酸素同位体比に基づく過去7,000年間の太陽活動変動に対する東シナ海の応答様式の解明．北村晃寿・山本なぎさ・入野智久

14：30 **O-174**
アラビア海酸素極小層下部の底生有孔虫群集とその地球史における意味．北里　洋・小栗一将・菅寿美・野牧秀隆

（定番）海洋地質

座長：佐藤　暢（72-75），板木拓也（76-79）

14：45 **O-72**
ペルム紀末大量絶滅時の大気酸素濃度の急減．海保邦夫・古賀聖治

15：00 **O-73**
八代海マウンド群頂部から発見された二枚貝の大コロニー．安間　恵・秋元和実・島崎英行・岩渕　洋・七山　太・塩屋藤彦・安藤寿男・須藤雄介・堤　正光

15：15 **O-74**
沖縄島東方沖の古環境．板木拓也・小田啓邦・片山肇・池原　研・下司信夫

15：30 **O-75**
東シナ海北部と日本海南部における過去42,000年の底生有孔虫群集変化の比較　大井剛志・長谷川四郎・内田昌男・板木拓也・小田啓邦・横山祐典・松崎浩之・久保田好美・多田隆治

15：45 **O-76**
IMAGESサイトでの堆積作用．川幡穂高・蓑島佳代・長尾正之

16：00 **O-77**
反射法地震探査から推定した相模湾東部海域の構造発達史．三澤文慶・芦寿一郎・中村恭之・木下正高・岡野　正・徳山英一

16：15 **O-78**
東部南海トラフ三次元反射法探査断面に見られる地層流体の分布を示唆する音響反射面．大塚宏徳・森田澄人・棚橋　学・芦寿一郎・長久保定雄

16：30 **O-79**
水曜海山及び伊平屋北熱水域の地殻熱流量観測から推定した水理構造．正木裕香・川田佳史・木下正高

講演会場　54

（定番）環境地質

座長：風岡　修（244-245），田村嘉之（246-248）

14：00 **O-244**
下総台地東部における降雨と地下水位・湧水の関係．香川　淳・古野邦雄・楠田　隆・吉田剛・風岡　修・山本真理・加藤晶子・酒井　豊

14：15 **O-245**
ローム台地上面湧水地に形成された上部更新統泥炭層と湧水機構．高嶋　洋・楠田　隆

14：30 **O-246**
堆積相解析による透水性と地下水水質の特徴．高清水康博・丸谷　薫

14：45 **O-247**
甲府盆地周辺の地下構造の解明と地下水探査．奥水達司・尾形正岐・小林　浩・内山高・北原　賢

15：00 **O-248**
千葉県地盤沈下・地下水位観測井における孔内地下水の深度方向の温度分布．古野邦雄・香川淳・吉田　剛・風岡　修・楠田　隆・山本真理・酒井　豊・風戸孝之

15：15 **O-249**
GPRを用いた湿原地下非破壊イメージング実験．七山　太・村上文敏・渡辺和明・吉川秀樹・石川智・重野聖之・猪熊樹人・佐藤真太郎・池田保夫

（定番）地域間層序対比

座長：里口保文（68-69），竹下欣宏（70-71）

15：30 **O-68**
長野県南部，伊那盆地における中期更新世テフラの層序と広域対比．竹下欣宏・松島信幸・寺平　宏

15：45 **O-69**
鮮新－更新統層序の同時性と問題．大久保弘

16：00 **O-70**
南房総に分布する千倉層群の鮮新－更新世テフラ層序とその対比．田村糸子・岡田　誠・山崎晴雄

16：15 **O-71**
古琵琶湖層群と東海層群におけるGauss chron初期のテフラ．里口保文

※シンポジウムの講演には（S），トピックおよび定番セッションの講演には（O）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月4日（金）コアタイム　12：30-13：30　25号館4Fまたは8Fポスター会場

（トピック）ジュラ系十

P-1
淡路島南西部における上部白亜系和泉層群西淡層から産するアンモナイト化石・放散虫化石・有孔虫化石とその意義．吉野恒平・松岡　篤

（定番）地域地質・地域層序

P-5
北海道古丹別地域に分布する上部白亜系函淵層．辻野泰之

P-6
北海道奥新冠地域に分布する前期白亜紀付加体の古地磁気．伊藤康人・藤原知美・玉置真知子・植田勇人

P-7
道東　根釧台地沖陸棚・大陸斜面の層序．辻野匠・野田　篤・川村喜一郎・本山　功・佐々木智之・柳沢幸夫

P-8
秋田県南部，百宅火山岩の層序．深井勇年・山本正継

P-9
南部北上帯津谷地域の下部三畳系平磯層の堆積環境と化石床の変化．松本拓也

P-10
更新統三ツ沢川層のテフラのFT年代．立石良・小坂英輝・鎌滝孝信・三輪敦志・儘田豊・今泉俊文

P-11
岩手県奥州市西部～一関市西部に分布する新第三系の層序および地質構造の再検討．内田淳一・渡邊貴央・三輪敦志・鎌滝孝信・小坂英輝・儘田　豊・嶋田智恵子

P-12
仙台平野中部の海成上部中新統のFTおよび珪藻年代．柳沢幸夫・藤原　治・檀原　徹

P-13
関東山地東部，横瀬町～名栗地域の秩父累帯．加藤　潔

P-14
野田図幅地域の更新統下総層群．中澤　努・中里裕臣

P-15
神奈川県大磯丘陵鷹取山に分布する谷戸層について．小田原　啓

P-16
葉山隆起帯南方に隣接するボーリング孔で確認された三浦層群・葉山層群境界部の微化石年代．濱田崇臣・近藤浩文

P-17
フィッション・トラック法から推定される葉山層群の堆積年代．伊藤久敏・三和　公

P-18
５万分の１地質図幅「加茂」地域（新潟県蒲原山地）に分布する足尾帯の地質と付加年代．内野隆之・堀　利栄

P-19
地質図幅「伊勢」と細粒苦鉄質岩．西岡芳晴・中江訓・竹内圭史・坂野靖行・水野清秀・尾崎正紀・中島　礼・実松健造・名和一成・駒澤正夫

P-20
和歌山県湯浅地域の下部白亜系西広層の河川成堆積物およびその古流向と砕屑物供給源．加瀬善洋・前島　渉

P-21
兵庫県三田盆地の古第三紀神戸層群吉川累層に挟在する含カミングトン閃石凝灰岩．谷　保孝

P-22
白亜紀作東コールドロンの地質構造と重力異常．尾嵜聡史・小室裕明

P-23
白亜紀二上山コールドロン北部の火砕岩類と地質構造．小山　薫・野﨑あずさ・小室裕明・亀井敦志

P-24
和久羅山デイサイトと松江層玄武岩の地質学的・岩石化学的研究．佐藤大介・坪田智行・松本一郎

P-25
大山中部火山灰層，大山倉吉軽石層（DKP）の鉱物・記載岩石学的性質の上下変化．小滝篤夫

P-26
島根県西部先ジュラ紀泥質メランジ地帯からの巨大蛇紋岩塊の発見．清水祐也・松本一郎・石賀裕明

P-27
佐賀県嘉瀬川ダム基礎に分布する花崗岩質岩の多様な岩相．石坂岳士・大和田正明・角縁進・中島　修

P-28
熊本県八代山地東域の下部白亜系袈裟堂層の地質学的意義について．田中　均・本多栄喜・利光誠一・高橋　努

P-29
「八代」図幅南部の火山岩類と火砕流の給源．宝田晋治・水野清秀・星住英夫・阪口圭一

P-30
20万分の１地質図幅「八代及び野母崎の一部」の編纂．斎藤　眞・宝田晋治・利光誠一・水野清秀・宮崎一博・星住英夫・濱崎聡志・阪口圭一・大野哲二・村田泰章

P-31
沖縄県北大東島に分布する炭酸塩岩のSr同位体比年代．高柳栄子・中山裕樹・石川剛志・永石一弥・井龍康文

P-32
ポンダウン層のフィッショントラック年代．鍔本武久・ジンマウン　マウンテイン・鈴木寿志・マウン　マウン・岩野英樹・檀原　徹・高井正成

P-33
中央ネパール，ジョムソン－マナン地域における三畳系テチス堆積物の年代層序．大友和夫・永広昌之・吉田孝紀・川村寿郎・鈴木茂之・Dhital Megh Raj

（定番）テクトニクス

P-93
インドチャイナ地塊の古生代後期－中生代の北上過程：古地磁気学的証拠．宇野康司・川面聡一郎・久田健一郎・上野勝美・鎌田祥仁・原英俊・藤川将之・Titima Charoentitirat・Punya Charusiri・Vichai Chutakositkanon

P-94
小断層から推定される天草上島地域の新生代構造発達史．藤内智士・芦寿一郎

P-95
GPS観測と小断層解析を用いた応力変遷；北海道北部幌延地域の例．常盤哲也・浅森浩一・石井英一・舟木泰智

P-96
ヘリウム同位体による未知の活断層の検出．梅田浩司・二ノ宮　淳

P-97
横ずれ断層の変位に伴う岩盤の３次元変形過程－ヘリカルX線CTを用いた断層変位実験による検討－．上田圭一

P-98
四国西部，白亜系和泉層群の堆積盆形成に関する擬似モデル実験．和田達也・宮田隆夫

P-99
六甲山地東部・芦屋断層から分岐する八幡谷断層とそれに沿う堆積物の分布．甲藤寛之・宮田隆夫

P-100
京都府北部，上林川断層の新期活動．山根博・岩森暁如・玉田潤一郎・金谷賢生・亀高正男・梅田孝行・斉藤　勝・松場康二・東　篤義・杉森辰次・魚住誠司・松井和夫・桑島靖枝

P-101
南－中央アルプス横断地震探査による中部日本地殻構造解明中間報告（1）：外帯．村田和則・駒田希充・早川　信・津村紀子・狩野謙一・佐藤利典・宮内崇裕・小嶋　智・岩崎貴哉・池田安隆・佐藤比呂志・阿部信太郎・三宅康幸・大塚　勉・山北　聡・深畑幸俊・河本和朗・金田平太郎・溝畑茂治・阿部　進

P-102
南－中央アルプス横断地震探査による中部日本地殻構造解明中間報告（2）：内帯．駒田希充・早川　信・村田和則・津村紀子・狩野謙一・佐藤利典・宮内崇裕・小嶋　智・岩崎貴哉・池田安隆・佐藤比呂志・平田　直・阿部信太郎・三宅康幸・大塚　勉・山北　聡・深畑幸俊・河本和朗・金田平太郎・川中　卓・須田茂幸・溝畑茂治・阿部　進

P-103
木曽山地東麓駒ヶ根地域における大規模断層破砕帯．山田　友

P-104
新潟県中越，宮沢ルートにおける鳥越断層露頭の構造解析．田中麻衣・小林健太

P-105
北上山地古期岩類のLA-ICP-MS U-Pbジルコン年代．下條将徳・大藤　茂・吉松一橋・柳井修

（定番）ノンテクットニック構造

P-106
メタンハイドレートを疑わせる変形構造と脱水構造．佐々木政和・宮田雄一郎

P-107
岩手・宮城内陸地震の荒砥沢ダム崩壊の偏光顕微鏡写真分析．大角恒雄

（定番）変成岩とテクトニクス

P-136
四国中央部，三波川変成帯中の五良津西部岩体エクロジャイトの変成作用．平下奈奈・高須晃

P-137
四国中央部別子地域三波川変成帯五良津東部岩体の変成P-T経路．岡本康亜・高須　晃・櫻井剛

P-138
四国三波川帯・西五良津岩体のP-T-t経路：チタナイトを含む鉱物共生からの制約．遠藤俊祐・ウォリス　サイモン

P-139
四国新宮地域に産する地殻－マントル捕獲岩から読み取るユーラシア大陸東縁の熱構造．水上知行

P-140
三波川帯・汗見川地域の大規模褶曲．森宏・ウォリス　サイモン

P-141

※シンポジウムの講演には（SP），トピックおよび定番セッションの講演には（P）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

下松～柳井地域の領家変成帯の変成分帯と温度圧力条件．菅原　雄・池田　剛

P-142
山鹿はんれい岩体の構成岩類とその化学組成．宮本知治・榎原　彩

P-143
月蔵山変成岩．小野　晃

P-144
磁気ダイポール異常を示す西南日本外帯蛇紋岩の組織と磁気特性．山口はるか・平内健一・木戸ゆかり

P-145
東南極リュッツホルム岩体超塩基性岩のザクロ石－普通角閃石コロナ．池田　剛

P-146
南インドMadurai岩体北部に産出する含コランダム黒雲母片麻岩の温度圧力履歴．角替敏昭・西宮ゆき・M. Santosh

P-147
南インドMadurai岩体北部の高度変成岩にみられるコロナ組織：高圧変成作用からの減圧の証拠．清水恒子・角替敏昭・M. Santosh

P-148
南インドのゴンドワナ縫合帯の沈み込み－大陸衝突過程．佐藤　桂・M. Santosh・角替敏昭・平田岳史

P-149
チェコ共和国・ボヘミア山塊の藍晶石エクロジャイト中のSr硫酸化物．中村大輔・小林記之・スフォイッカ　マルチン・平島崇男

P-150
コクチェタフ超高圧変成炭酸塩岩中のダイヤモンド包有ザクロ石の顕微ラマンマッピング．寺林優・佐藤秀一・岡本和明・小澤大成

P-151
北アメリカ南西部Knippa及びKilbourne Holeかんらん岩捕獲岩の構造岩石学的特徴．佐津川貴子・道林克禎・Stern Robert J.・Raye Urmidola・Anthony Elizabeth Y.

P-152
地殻流体からのシリカ鉱物析出速度．最首花恵・岡本　敦・平野伸夫・土屋範芳

P-153
高温高圧実験による石英の結晶成長過程の研究．井元　恒・道林克禎

P-154
低温型・高温型蛇紋石の相対強度実験．平内健一・片山郁夫

（定番）応用地質学一般

P-182
堆積岩中における割れ目の形成過程に基づく高透水部の連続方向の推定：北海道北部，幌延地域の珪質泥岩の例．石井英一・平賀正人・藪内聡・横田秀晴・古澤　明

P-183
浅層ボーリング孔で観測された地下水位と地質構造の地下水流動への影響に関する一考察．横田秀晴・山本陽一・前川恵輔

P-184
湖沼性鳥趾状デルタから破堤ローブを伴うベッドロード河川への変遷：京都南部，木津川下流域の地表・地下地質の解析．伊藤有加・増田富士雄

P-185
地中レーダで甲陽断層に沿う旧河川のオフセットをさぐる．平井絢子・宮田隆夫・苦瓜泰秀

（定番）第四紀地質

P-192
埼玉県芝川低地の沖積層層序．小松原純子・中島　礼

P-193
ため池底質に含まれる球状炭化粒子を用いた大気汚染履歴の解明．加藤孝和・金井篤史・北瀬（村上）晶子・香村一夫

P-194
デジタルX線センサーを利用した密度解析．宮地良典・稲崎富士・中西利典・田辺　晋

P-195
野尻湖柱状試料の粒度プロファイルから見た湖水面変動．中村祐貴・井内美郎・中西俊貴・滝口　健・青木優作・近藤洋一・井上卓彦・菅井一磨

P-196
琵琶湖湖底表層堆積物の生物源シリカ含有率から復元した過去の気候変動．中西俊貴・井内美郎・岩本直哉・相沢育美・天野敦子

P-197
島根県大橋川における現生底生有孔虫群の分布と宍道湖－中海水系の同化石群への適用．高田裕行・瀬戸浩二・倉田健悟・野村律夫・Boo-Keun KHIM

P-198
三重県志摩半島における古津波堆積物調査．藤野滋弘・木村治夫・宍倉正展・小松原純子・澤井祐紀・行谷佑一

P-199
松山平野下の第四系上部に挟在する火山灰質堆積物中の火山ガラスの化学組成．高倉清香・榊原正幸

P-200
1792年島原大変津波がもたらした環境インパクト．市原季彦・下山正一

P-201
石英中の不純物中心のESR信号を用いた風送塵起源地の分別．豊田　新・山本裕哉・磯崎裕子・Youbin Sun・多田隆治・長島佳菜・谷篤史・五十嵐康人

※シンポジウムの講演には（SP），トピックおよび定番セッションの講演には（P）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■9月5日（土）コアタイム　13：00-14：00-13：30　25号館4Fまたは8Fポスター会場

（シンポ）都城秋穂追悼

SP-4（招待）
都城秋穂氏，自らを語る．林　　衛
SP-5
都城博士とアパラチア造山帯．宮下　敦・大森聡一・林　　衛・横山一己
SP-6
Adirondack巨晶ざくろ石角閃岩中のジルコン．大森聡一・佐藤　桂・山本伸次・宮下　敦・林　衛・丸山茂徳

（トピック）「ちきゅう」による南海トラフ掘削の成果

P-2
井内浦および海山観測井コアをきる断層面を用いた応力場変遷．大坪　誠・重松紀生・北川有一・小泉尚嗣
P-3
マリアナ海溝南部陸側斜面のかんらん岩の構造と岩石学的特徴．上原茂樹・道林克禎・小原泰彦・石井輝秋
P-4
マリアナ弧蛇紋岩海山から産出される蛇紋岩化したかんらん岩の構造解析．藤井彩乃・道林克禎・石井輝秋

（定番）砕屑物組成・組織と続成作用

P-48
後期古生代火成弧の削剥レベルの指標としての光学的異方性を示す砕屑性Caザクロ石．竹内誠
P-49
ペルム紀付加体砕屑岩の後背地と堆積環境：秋吉帯姫川コンプレックスの例．松澤　希・竹内誠
P-50
和泉層群南部相名手累層の堆積相と砂岩組成．米谷奈々・前島　渉

（定番）炭酸塩岩の起源と地球環境

P-51
最古のコケムシ礁が示す微生物礁から後生動物礁への転換．足立奈津子・江崎洋一・劉　建波
P-52
淡水成ストロマトライトに見られる光合成誘導方解石沈殿．白石史人
P-53
クリスタルガイザーの縞状トラバーチン．奥村知世・高島千鶴・狩野彰宏・嶋本利彦
P-54
炭酸塩砂丘砂層中に見られる陸水性続成作用について．熊井教寿・松田博貴
P-55
沖縄島南西沖の高分解能音波探査．荒井晃作・村上文敏・辻野　匠・井上卓彦

（定番）堆積相と堆積システム

P-56
エジプト，ファイユーム盆地カルン湖北岸の段丘化した完新世ギルバート型デルタ堆積物．前島　渉・猪岡　聖
P-57
河川－陸棚堆積物の粘土鉱物組成変化．柴田健一郎・伊藤　慎
P-58
魚沼層群の堆積システムと新潟トレンドの褶曲形成：前期更新世の褶曲形成による海域侵入の規制と流路変化．市澤恵爾・酒井治孝
P-59
茨城県大子町周辺における新第三系の堆積環境の変遷と棚倉断層の横ずれ運動．及川敦美・松原典孝・天野一男
P-60
海底扇状地堆積物にみられる周期変動と砕屑物供給．杉山直也・宮田雄一郎・吉岡麻里

（定番）堆積作用・堆積過程

P-61
砕屑粒子沈降シミュレーション．川村信人
P-62
海底チャネル・レビーシステムの再現実験．光原奈美・宮田雄一郎
P-63
塊状タービダイト砂岩層中の長波長ベッドフォーム．河野光宏・宮田雄一郎
P-64
島根県出雲市北部に分布する中新統牛切層の重力流堆積物の高分解能単層解析．丸山美智子・酒井哲弥
P-65
粒子配列マッピング法による土石流堆積物の内部構造の可視化．佐々木泰典・弓真由子・瀧井喜和子・石原与四郎
P-66
タービダイト粒度分布の時間的変化：更新統大田代層の単層解析．新井和乃・成瀬　元・長谷川裕樹・伊藤　慎
P-67
粒径頻度プロファイルから検討した堆積過程－石狩低地帯沖積層ボーリングコアの例－．仁科健二・川上源太郎・小松原純子・木村克己・大津　直・廣瀬　亘・高清水康博・岡　孝雄
P-68
ボーリング資料解析に基づく完新世バリアシステムの復元．須藤雄介・安藤寿男・七山　太・熊崎農夫博・重野聖之・嵯峨山積
P-69
暴浪性の波が作る海岸地形を再現する水路実験：底質の粒度分布の特徴の分析．谷口圭輔・福井康至・田村　亨・増田富士雄
P-70
紀伊半島西部和歌山県広川町の有田層に見られるストーム堆積物．井出祐介・前島　渉
P-71
清水海岸沿岸域における土砂移動の季節特性．吉河秀郎・根元謙次
P-72
メガトレンチ掘削による津波痕跡調査と予察的成果．重野聖之・石井正之・七山　太・古川竜太・猪熊樹人・中川　充
P-73
堆積構造と組織からみた火砕流の堆積様式．宮田雄一郎・松尾征二
P-74
複数の手法による未固結堆積物の古流向解析の例．安江健一・郷津知太郎・柳田　誠
P-75
玉湯川三角州の湖底地形・湖底堆積物とその時間変化．酒井哲弥・三井恵輔・山口勝範
P-76
野尻湖表層堆積物の粒度及び元素濃度分布．菅井一磨・滝口　健・青木優作・中西俊貴・井内美郎・近藤洋一・公文富士夫・井上卓彦
P-77
二次元水路実験で生成するオートジェニックな平衡河川．武藤鉄司・キム　ウォンスク・パーカー　ゲイリー
P-78
河道屈曲点と河床勾配急変域の関係．坂本隆彦

（定番）石油・石炭地質学と有機地球化学

P-79
新潟県東頸城丘陵西縁部の地質構造．松永絹子・遠藤　晋・大竹正巳・百瀬　敦・満田信一

（定番）岩石鉱物の破壊と変形

P-80
紀伊半島鳥羽地域の蛇紋岩マイロナイトの変形微小組織．曽田祐介・太田　亨・岡崎一浩・繁田善幸
P-81
岸和田地域の領家帯内部剪断帯，河合マイロナイトの変形組織と変形条件．坂部達哉・石井和彦
P-82
伊豆－小笠原弧衝突域に分布する新第三紀花崗岩類中のマイクロクラックを用いた古応力場の復元とその変遷．原田　尚・高木秀雄
P-83
岩石の粘弾性構成則に基づく余効すべりの時系列パターンの解析．長濱裕幸・川田祐介・内田直希・松澤　暢
P-84
粉砕起源シュードタキライトに発達する高速すべり面および低速すべり面の微細組織：サブミクロン粉砕粒子の形状に基づく判定．小澤佳奈・滝沢　茂
P-85
岩石の熱伝導率測定．多田井　修・林　為人・谷川　亘・廣瀬丈洋・山口飛鳥・坂口真澄
P-86
せん断破壊変形に伴う弾性波速度の変化．坂口真澄・谷川　亘・廣瀬丈洋・多田井　修

（定番）付加体

P-87
北部秩父帯の変玄武岩から発見された地殻内微生物化石．榊原正幸・菅原久誠・辻　智大・池原　実
P-88
岡山県西部ペルム紀前～中期変玄武岩に産する微生物変質様組織および炭素同位体比．菅原久誠・榊原正幸・池原　　実
P-89
関東山地の秩父帯・四万十帯付加コンプレックス境界．原　英俊
P-90
足尾帯ジュラ紀付加体におけるユニット境界断層の性状とその地質学的意義．鈴木孝明・鎌田祥仁
P-91
流体包有物によるメランジュ形成時・形成後の温度・圧力条件の推定の試み～ジュラ紀付加体玖珂層群の例～．鎌田祥仁・森岡順子・森宏
P-92
付加体構造における応力分布の動的変化．宮川歩夢・辻　　健・山田泰広・松岡俊文

（定番）噴火と火山発達史

P-121
阿武火山群，伊良尾火山の火山噴出物の特徴．堀川義之・永尾隆志・清杉孝司
P-122
室生火砕流堆積物基底相の到達範囲．佐藤隆春・茅原芳正・山本俊哉・古山勝彦・別所孝範

※シンポジウムの講演には（SP），トピックおよび定番セッションの講演には（P）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

P-123
阿蘇カルデラ北方におけるAso-4火砕流ユニットの再定義．松尾征二・堀川義之

（定番）深成岩・火山岩

P-124
兵庫県篠山地域の白亜紀アダカイト質安山岩．平松　圭・今岡照喜・大平　武・亀井淳志・板谷徹丸
P-125
マラカンド超苦鉄質岩体．佐野　栄
P-126
舞鶴帯夜久野岩類の岩石学的特徴：舞鶴帯および夜久野オフィオライトの造構史に関する試論．隅田祥光・早坂康隆・伏木　治
P-127
大分県竹田市東部に分布する鬼界アカホヤ火山灰の岩石学的研究．遠藤晴美・榊原正幸
P-128
阿蘇火山Aso-4火砕流　弁利スコリア流におけるマグマ供給系．大鹿淳也・荒川洋二・新村太郎
P-129
大崩山火山深成複合岩体を構成する環状岩脈の帯磁率異方性．金丸龍夫・高橋正樹
P-130
北部北海道，中期～後期中新世フェルシック火山岩におけるSr-Nd同位体比組成の多様性．高梨幸志郎・周藤賢治
P-131
中央北海道南部の漸新世火山岩の岩石化学的特徴．岡村　聡・米島真由子・前田卓哉
P-132
中国バソリスと北九州バソリスの比較研究．長松　雄・今岡照喜・亀井淳志
P-133
日高変成帯のI－タイプトーナル岩マグマの起源に関する新知見．小島　萌・志村俊昭
P-134
背弧域上部マントル融解プロセス：韓国Chugaryong火山．柵山徹也・常　　青・長岡信治・小澤一仁
P-135
Ar-Ar年代に基づく中部地方白亜紀～古第三紀火成岩体の定置年代の再検討．棚瀬充史・曽根原崇文・原山　智・小井土由光

（定番）環境地質

P-173
重金属からみた河川底質物の環境地球化学．松本一郎・Dennis Hoffman・Jason McAlister・June Wolfe・石賀裕明
P-174
摺上川ダム建設によって発生した水質変化．難波謙二・芳賀智也・岸波晃代
P-175
那須塩原地下水水質の季節変化．田村壮礼・難波謙二・皆川絵梨
P-176
天然ガス（上ガス）の噴出する海浜の潮溜まりの白濁現象の機構解明．吉田　剛・風岡　修・古野邦雄・楠田　隆・香川淳・酒井　豊
P-177
高レベル放射性廃棄物処分に対する隆起・侵食に起因する影響評価の検討．川村　淳・江橋健・牧野仁史・稲垣　学・柴田雅博
P-178
中海浚渫窪地に見られるイベント堆積物．一宮大和・井内美郎・柳野勝史・山崎泰弘・三瓶良和・徳岡隆夫・天野敦子
P-179
海砂採取後海域の海底環境変化－愛媛県大三島南方海域－．井手直道・天野敦子・岩本直哉・中西俊貴・井内美郎
P-180
長崎県大村湾における過去約150 年間の底生有孔虫と貝形虫の時系列変化．牧野美里・入月俊明・野村律夫・河野重範
P-181
荒砥沢ダム上流域の大規模すべりの地すべり史的発生要因．川辺孝幸・風岡　修・香川　淳・楠田　隆・酒井　豊・古野邦雄・吉田　剛

（定番）地学教育・地学史

P-186
海洋研究を理科教育に活かす教員研修について．田口康博・川村教一・吉澤　理

■MEMO■

※シンポジウムの講演には（SP），トピックおよび定番セッションの講演には（P）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

（シンポ）中国地方の新生界の諸問題

SP-1
西南日本前弧域の伸張・隆起テクトニクス．高橋雅紀

（シンポ）Geotectonic subdivision and evolution of the Japanese Islands（日本列島構造発達史）

SP-2
Subduction erosion could represent rearrangement rather than removal of forearc materials: Insights from geology in central Hokkaido, Japan.　Hayato Ueda

（シンポ）A special symposium to honor Shouhei Banno（坂野昇平追悼シンポ）

SP-3
Solubility of Fe_2O_3 in Al_2SiO_5 minerals. Kawasaki Toshisuke・Shirakawa Chie・Nakaku Michiko・Ishizuka Hideo

（定番）地域間層序対比と年代層序

P-34
新潟堆積盆七谷層中に見つかった中期中新世広域テフラ．工藤　崇・檀原　徹・岩野英樹・山下　透・柳沢幸夫

P-35
岐阜県瑞浪地域に分布する中部中新統瑞浪層群生俵層の珪藻化石年代の再検討．河邑圭太・須藤　斎・柳沢幸夫

P-36
北海道上部白亜系放散虫化石層序の再検討．小安浩理・平野弘道

（定番）海洋地質

P-37
非造礁性単体六射サンゴ骨格の同位体・微量元素分析．垣内一秀・大森一人・江崎洋一・渡邊剛・徳田悠希

P-38
陸棚堆積物と珪藻化石からみた最終氷期以降の常磐沖古海洋変遷．畑中　彩・石田　桂・保柳康一・長橋良隆・柳沢幸夫

P-39
東地中海の高塩水湖（Meedee Lake）の堆積古環境．泉谷直希・村山雅史・佐川拓也・朝日博史・中村恭之・白井正明・芦寿一郎・徳山英一・北里　洋

P-40
北海道西方，石狩湾～後志トラフの堆積作用片山　肇・井内美郎・池原　研

P-41
北海道太平洋側海域における現世堆積作用．野田　篤・片山　肇

P-42
相模湾西部根府川，白糸川河口周辺海域で観察された地すべり地形．根元謙次・坂本　泉・滝野義幸・吉河秀郎・藤巻三樹雄・奈良宏平・椎野紗和日・佐野弘弥・山本聡一・作田理香・高田真之介・斎藤靖二・平田大二・山下浩之・新井田秀一・石浜佐栄子・小田原啓

P-43
反射法地震探査による熊野トラフの泥火山と周辺堆積盆の地質構造．谷岡　慧・中村恭之・三澤文慶・芦寿一郎

P-44
四国沖表層堆積物の堆積学的研究．坂　耕多・豊村克則・村山雅史・成田尚史・加藤義久

P-45
マンガンクラストの成長過程．臼井　朗・田中真理子

P-46
南西インド洋海嶺Prince Edward断裂帯沿いのかんらん岩礫岩の形成年代と岩石組成．佐藤暢・森下知晃・田村明弘・朝日博史・佐藤太一

P-47
MR09-02，KY07-05航海におけるピストンコアラー性能向上試験の成果．竹友祥平・佐藤悠介・橋本泰志・松浦由孝・林　央之・畠山　映

（定番）古生物

P-108
石狩湾沿岸に漂着した暖流系貝類．鈴木明彦・志賀健司

P-109
現世Macaronichnus生痕：その地質学的意義．清家弘治

P-110
関東平野のボーリングコアにおける化石珪藻Lancineis sp.の分布．納谷友規・八戸昭一・水野清秀

P-111
マレー半島西岸クロントムの河口域における貝形虫の分布と過去10年間の変化．石田　桂・寺倉雅美・塚脇真二・橋詰朝美

P-112
菊川市潮海寺の満水層産軟体動物化石とその古生物地理学的意義．井上恵介・大江文雄

P-113
獣脚類足跡化石に基づくモンゴル産ティラノサウルス類Tarbosaurs bataarの後肢足部骨格の復元．松本幸英・石垣　忍

P-114
モンゴル南ゴビ県Udyn Sayr地域上部白亜系産角竜類プロトケラトプス類の形態．半田直人・松本幸英・渡部真人・鈴木　茂・仲谷英夫

P-115
X線CTによる浮遊性有孔虫の内部構造と三次元形態計測．遠藤孝義・佐々木　理・岩下智洋・尾田太良・長濱裕幸

P-116
新潟県新発田市の鮮新統鍬江層の貝形虫および浮遊性有孔虫化石群集による古環境の復元．後藤隆嗣・入月俊明・林　広樹

P-117
鮮新統宮崎層群佐土原層最上部の微化石群集による堆積年代と古環境村井絢有・入月俊明・岩谷北斗・林　広樹・田中裕一郎

P-118
佐賀県唐津地域の杵島層産古第三紀翼足類．安藤佑介

P-119
生痕化石ロッセリアが記録する古環境情報．奈良正和

P-120
モンゴル国上部白亜系から初産出の花粉・胞子化石群集．梅津慶太・実吉玄貴・鈴木　茂・渡部真人

（定番）岩石・鉱物・鉱床学一般

P-155
北アルプス・仁科山地に見られるAタイプ花崗岩．植木忠正・原山　智

P-156
西南日本弧黒瀬マントル捕獲岩でのマントル交代作用に関与したメルト・流体の特徴．芳川雅子・荒井章司・田村明弘

P-157
島根県中央部大田市仁万地域のゼオライト化変質．大平寛人・藤田祐介

P-158
嶺岡・瀬戸川帯の砕屑性蛇紋岩礫及び粒子の岩石学的性質．高橋直樹・荒井章司

P-159
四国中央部別子地域三波川帯：アラゴナイトとオンファス輝石を含む変泥質岩の産出とエクロジャイトユニットの広がりについて．纐纈佑衣・榎並正樹

P-160
大江山オフィオライトの超苦鉄質マイロナイトと“cleavable olivine”．野坂俊夫・伊藤友紀

P-161
滋賀県南部・田上花崗岩体中のMME．大橋義也・中野聰志・石原舜三

P-162
北アルプス，上高地における滝谷花崗閃緑岩体中の暗色包有岩の記載岩石学的な特徴と産状．加茂圭祐・原山　智

P-163
ロシア極東，ウスチベラヤ・オフィオライトの超苦鉄質岩中の角閃石．町　澄秋・石渡　明・早坂康隆・Ledneva Galina・Sokolov Sergei・Palandzhyan Suren・Bazylev Borys・森下知晃

P-164
CL分光分析による火星隕石（Dhofar 019）構成鉱物の衝撃変成評価．西戸裕嗣・鹿山雅裕・仲里肇洋・蜷川清隆

（定番）情報地質

P-165
小豆島の花崗岩のγ線スペクトロメトリー．野村香織・能美洋介・西村敬一

P-166
衛星データを用いた簡便な解析による堆積盆抽出の試み．鎌滝孝信・立石　良・安江健一

P-167
５万分の１シームレス地質図の展望．井川敏恵・脇田浩二・尾崎正紀

P-168
Web-GISによる３次元地質モデリング－ボーリングデータを用いた大阪平野西部表層部の例－．生賀大之・升本眞二・櫻井健一・三田村宗樹・塩野清治・野々垣進・サラウット　ニンサワット・岩村里美

P-169
地層名検索データベースの構築．巌谷敏光・鹿野和彦・中野　俊・松浦浩久・中江　訓・原英俊・宮崎一博・長谷川功・高橋　浩・西岡芳晴・尾崎正紀

P-170
自律成長する持続可能な大規模地球科学知識基盤の開発・整備計画．伏島祐一郎

P-171
石狩低地における地盤ボーリングデータベースの構築．廣瀬　亘・川上源太郎・大津　直・木村克己・佐藤　明

P-172
関数表現した地形面・地質境界面にもとづく地質境界線の探索．野々垣　進・升本眞二・塩野清治

（定番）地学教育・地学史

P-187
全国の高等学校における地学開講状況の変化２（1999-2008）．柴山元彦

P-188
非火山地域における火山教育－文科系大学の

※シンポジウムの講演には（SP），トピックおよび定番セッションの講演には（P）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

例－．古川邦之・山田明季

P-189

産総研地質調査総合センターによるAPEC国際研修コース2008「都市と沿岸域の防災」．森田澄人・高田　亮・脇田浩二

P-190

ジオトレイル－岡山県立自動会館，地学公園での教育普及効果について．鈴木寿志・市川健吾・溝口昭子・能美洋介・郷津知太郎

P-191

地域振興を目標とした地質観光情報の開発と利用の試み－茨城ジオパーク設立を目指して－．滝本春南・細井　淳・小山剛平・伊藤太久・松原典孝

■MEMO■

※シンポジウムの講演には（SP），トピックおよび定番セッションの講演には（P）の通し番号がついています．
※講演タイトルはスペースの都合上一部略記版を掲載しています．正しいタイトルは講演要旨集をご覧下さい．

■ ランチョン ■

都合により急遽会場が変更になる場合もございますので，会期中の掲示にご注意下さい．

9月5日（土）12：00-13：00

会場44　地域地質部会・層序部会合同（世話人　吉川敏之）部会活動や世話人体制についての議論と情報交換

会場43　火山部会（世話人　石塚吉浩）定例会合

会場31　これからの男女共同参画（世話人　堀　利栄）日本地質学会における女性会員数は増加傾向にありますが，まだまだ常勤職および上級職についている女性研究者の割合は低いままです．これからの男女共同参画活動はどのようにあるのがよいのか？　皆さんのアイデアや要望をぜひお聞かせいただけませんか？　また，若い女性研究者の皆さん，普段困っていることはありませんか？　先輩の知恵や経験に解決策があるかもしれません．昼食を食べながら，これらの問題について皆で一緒に考えてみませんか？　ぜひ気軽にご参加ください．お子様連れも大歓迎です．学会における女性研究者のネットワークの形成と今後の男女共同参画のあり方について話し合う予定．

会場　41　構造地質部会（世話人　松田達生・大坪　誠）定例会合

会場　42　地方地質誌編集委員会

会場　55　Island Arc編集委員会（世話人　竹内圭史）Island Arc誌の編集に関する打合せ

9月6日（日）12：00-13：00

会場43　地学教育委員会（世話人　矢島道子，中井均，藤林紀枝）地学教育に関係する諸事項について報告，議論する．

会場41　岩石部会（世話人　片山郁夫）定例会合

会場42　地質学雑誌編集委員会（世話人　久田健一郎）

会場51　堆積部会（世話人　小松原純子）定例会合

会場52　古生物部会（世話人　北村晃寿）定例会合

会場54　海洋地質部会（世話人　徳山英一・片山　肇・芦　寿一郎・小原泰彦）海洋地質部会の活動に関する議論と情報交換

■ 夜間小集会 ■

都合により急遽会場が変更になる場合もございますので，会期中の掲示にご注意下さい．

9月5日（土）18：00-20：00

会場44　南極地質研究委員会（世話人　本吉洋一）第50次（2008/09）セールロンダーネ山地地質調査報告/第51次（2009/10）観測計画と新南極観測船「しらせ」の概要/第52次（2010-）以降の調査計画について/委員の交代について/その他

会場43　沖積層研究の新展開（世話人　卜部厚志・木村克己・岡孝雄）国内の沿岸低地や内陸部の沖積層に関する研究動向について，話題提供や意見交換を行う．

会場31　考古学への地質学の貢献（9）本邦「地考古学」の問題点（世話人　渡辺正巳・松田順一郎・趙　哲済・井上智博・別所秀高・小倉徹也）松田順一郎・趙　哲済による「ジオアーケオロジーの視点」，「地考古学」の問題点についての講演と討論の予定

会場41　地質学史懇話会（世話人　会田信行・金　光男）地質学史に関する講演２題

会場42　構造地質学の今後の課題（世話人　松田達生・大坪 誠）構造地質学のこれからについて話題提供をいただき，今後の展望に関して参加者間で議論します．

会場51　海跡湖に記録された汎世界的な環境変動と人為的環境変化に関する研究小集会（世話人　瀬戸浩二・高田裕行・廣瀬孝太郎）本集会は，地質学的手法を用いて海跡湖群における近過去の古環境変遷の研究を行うための情報交換会である．

会場52　【ジュラ系+】の集い（世話人　松岡　篤・小松俊文・近藤康生・堀　利栄・尾上哲治・石田直人）ジュラ系の階境界のGSSP設定の状況および世界のジュラ系研究の動向について情報交換を行う．

会場54　環境地質部会（世話人　田村嘉之．風岡　修）環境地質部会の定例会合（講演含む）

会場55　地質学会若手の集い（世話人　大坪 誠・山口飛鳥・山口直文・大橋聖和・池田昌之）若手の交流の場の提供と地球科学研究の今後の展望について参加者で議論します．

試写室　教員養成と地学教育（世話人　藤林紀枝・中井　均・七山　太）教員養成大学・学部の情報交換と，学校教育の地学領域のこれからのあり方について討論することを目的とし，これらの話題に興味のある会員の参加を歓迎する．

9月6日（日）17：30-19：00

会場51　炭酸塩堆積学に関する懇談会（世話人　山田 努・松田博貴）炭酸塩堆積学に関する最近の話題・トピックスについて討論するとともに，最新研究動向・情報について意見交換を行う．

会場52　後期中新世南西アジアの環境変動と哺乳類動物相変遷（世話人　仲谷英夫）後期中新世の環境変動と類人猿を含む哺乳類動物相変遷についてイランマラゲーの調査で明らかできることは？

■ 関 連 行 事 ■

特別講演会
「地質学と医学の融合　ー癌発生のメカニズムー」

中村栄三（岡山大学地球物質科学研究センター）
日時：**9月4日（金）**13：30～14：30
会場：ホール（岡山理科大学25号館８階）

日本地質学会学術大会116年の歴史の中で岡山地区開催は初めてです．タイムリーにも表層地質学を出発点に地球惑星科学研究を始めた岡山地区研究者が，癌発生メカニズムに関する新しいモデルを構築し論文を発表しました．本論文は体内での微量元素の濃縮過程とそれに伴う放射性元素による内部放射線被曝を明確に示す画期的なものです．世界が注目する研究内容であり，今後様々な方面で話題沸騰することが大いに期待される内容です．

最新の研究成果の紹介とともに，若い表層地質学研究者へのエンカレッジとなる講演を予定しています．

【発表論文題目】Accumulation of radium in ferruginous protein bodies formed in lung tissue: association of resulting radiation hotspots with malignant mesothelioma and other malignancies. Proc. Jpn. Acad., Ser. B 85（2009), in press.
by Eizo NAKAMURA, Akio MAKISHIMA, Kyoko HAGINO and Kazunori OKABE

地質情報展2009おかやま
ーワクワク発見　瀬戸の大地ー

日時：**9月5日（金）～6日（日）**10：00～17：00
（６日のみ16：00まで）（入場無料）
＊４日（金）13：00～17：00に団体・プレス向けの内覧会を実施します．体験コーナーは，コーナー毎に開始・終了時間が異なります．
会場：岡山市デジタルミュージアム（岡山駅徒歩１分）
主催：独立行政法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター・日本地質学会・林原自然科学博物館
後援：岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・香川県教育委員会・NHK岡山放送局・山陽新聞社・四国新聞社・岡山日日新聞社・中国地質調査業協会・四国地質調査業協会，（以下，申請中）岡山大学・岡山理科大学・香川大学

展示テーマ（予定）：岡山・香川の地質（瀬戸内地域の地質のまとめと大地のなりたち），花こう岩の天然記念物と文化財，岡山県地盤図の紹介，高校生・大学生・高校教員による岡山・香川の地質の紹介，地下の恵み（金属鉱物資源，地下水），瀬戸内海の環境・生物，ジオパークなど
体験コーナー（予定）：自分だけの化石レプリカを作ろう！　足跡化石から恐竜の体を考えてみよう！　石の楽器をたたいてみよう！　石を割ってみよう！　顕微鏡で石を観察してみよう！　地層のできかたをみてみよう！　ペットボトルで地盤の液状化を再現！　マンガン団塊を採ろう！　パソコンで地学クイズにチャレンジ！　キッチン火山実験　磯の生物に触ってみよう！　自然の不思議「鳴り砂」
講演会（予定）：車窓からジオを楽しむ，寒川なまず博士の地震と活断層の話
特別展示：
◯**地学オリンピック**：国際地学オリンピックとは/日本地学オリンピックとは/第２回フィリピン大会の様子（昨年９月）/第３回台湾大会について（9/14-22）
写真などを使って地学オリンピックについてご紹介いたします．また過去の問題なども展示いたします．
◯**地学教育委員会関連**：地学教育委員会の活動紹介/「小さなEarth Scientistのつどい－小・中・高校生徒地学研究発表会－」優秀ポスター（兵庫県立加古川東高校）/杉山了三会員の教育実践（県立宮古高校教諭，東レ理科教育賞・文部科学大臣賞受賞）
ミニ講演会：岡山のたたら，サヌカイトの石器，岡山の化石について

お問い合せ先
地質調査総合センター地質情報展開催事務局
URL：http://www.gsj.jp/Info/event/2009/johoten_2009/
e-mail：g09okayama@m.aist.go.jp
TEL：029-861-3754　　Fax：029-861-3746

ジオパークワークショップ：
ジオパークによる地域活性化をめざして
ー地域と地質学者の連携のあり方をさぐるー

日本地質学会ジオパーク支援委員会は，ジオパークによる地域活性化，Geoheritageの保全および地学の普及のために，地域の方々と地質学者がどのように連携して活動していけばよいかをさぐるために，ワークショップを開催します．本ワークショップでは，実際にジオパークの運営に携わる人と地質学会員が，各地の実践例の発表を元に，地域と地質学者の連携のあり方を議論します．発表者はジオパーク支援委員会が現在依頼中です．ジオパークに関心のある，行政担当者，地域の方，研究者などの皆様の参加を期待します．

日時：**9月5日（土）**13：00-17：30
場所：岡山市デジタルミュージアム４階
主催：日本地質学会ジオパーク支援委員会
共催：日本ジオパークネットワーク（予定）
後援：産総研地質調査総合センター
プログラム（予定，発表者は依頼中）
第一部　13：00-　日本初の世界ジオパークにおける実践例
第二部　14:：45-　各地の実践例の発表と討論

お問い合わせ先：
日本地質学会ジオパーク支援委員会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル
TEL：03-5823-1150　　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

※なお，ご希望の地域には，９月５日10：00－12：00の日程で日本地質学会ジオパーク支援委員会によるジオパーク個別相談（事前予約制）を行いますので，上記連絡先までご連絡ください．

市民講演会
「大地から考える地球環境
ー地質と生物・農業の深い関係ー」

日時：**9月5日（土）13：30〜16：30**（入場無料・事前申込必要）
会場：さん太ホール（岡山市柳町2-1-1，JR岡山駅から徒歩15分
　　または，路線バス５分「山陽新聞社前」下車）
講演者と講演内容：
「地質と生き物と人々の生活―ヨーロッパそして岡山の風景―」
波田善夫（岡山理科大学学長）
各地の森の様子やそこに生えている植物を調査しながら，その下の地形や地質との関係，森が育んだ地域の文化などを考えています．岡山の森や植生やそこに生きる生き物や人々と地形・地質との関係を，ヨーロッパの嶺を交えながらお話します．
「おいしいワインのできる畑の地球環境」
武田　弘（東京大学名誉教授）
世界の有名なワイン産地のぶどうとその畑の地質・土質・土壌・地形・気候との関係からはじめて，広く地球環境のお話をいたします．

座談会では，司会者も含め，地球環境問題や，農産物の安全問題などの最近の課題も含め，地質環境とその上ではぐくまれる植生・農産物，そしてそれに依存して生きる動物や人間との関連，文化，あるべき制度の問題などを大きな視点で論じたいと思います．

小さなEarth Scientistのつどい
〜第７回　小，中，高校生徒「地学研究」発表会〜

日本地質学会地学教育委員会では，地学普及行事の一環として，地学教育の普及と振興を図ることを目的として，学校における地学研究を紹介する「地学研究」発表会をおこなっています．岡山大会でも，小・中・高等学校の地学クラブの活動，および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を募集いたしました．会場は研究者も発表するポスター会場内に，特設コーナーを用意いたします．同時並行で研究者の発表も行われますので，児童・生徒同士のみならず，研究者との交流もできます．この会を通じて生徒，研究者，市民の交流が進み，地質学，地球科学への理解が深まって，未来を担う生徒たちの学習意欲への良い刺激と励みになることを願っております．
日時　**9月6日（日）**９：00〜16：00
場所　日本地質学会年会ポスター会場（25号館８F）
後援　秋田県教育委員会・秋田市教育委員会
参加校（７月10日現在）岡山県立朝日高等学校・岡山県立林野高等学校・早稲田大学高等学院・兵庫県立加古川東高等学校・福岡県立八幡高等学校・伊勢市立五十鈴中学校
問い合わせ・申し込み先：
日本地質学会地学教育委員会（担当　三次）
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F
TEL：03-5823-1150　　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

一般向け講演会
岡山で生まれた地球深部探査船「ちきゅう」の活躍

主催　海洋研究開発機構
共催　日本地質学会
日時：**9月6日（日）午後**
会場：講演会場55（岡山理科大25号館５F）

岡山で誕生した地球深部探査船「ちきゅう」の南海トラフ地震発生帯の掘削の成果と，今後「ちきゅう」を用いた掘削が予定されている「プロジェクトIBM（伊豆ー小笠原ーマリアナ）」や「モホール」は何を目指しているのか．岡山市民の方々にご紹介したいと考えています．

内容：「ちきゅう」の概要，南海トラフ掘削成果速報，今後の計画のねらい，などを一般向け講演として行います．同会場の展示ブース（25号館１F）における展示内容（「ちきゅう」模型も展示予定）と連携した内容の講演を行います．

ワクワク発見 瀬戸の大地

地質情報展2009おかやま

岡山・香川を中心とした瀬戸内地域の地質をはじめとして、最新の地質学の成果を分かりやすく体験的に展示・解説します。小学校入学前のお子様からお年寄りまで、皆さんに楽しみながら「地質」を学んでいただけるイベントです。
また、さまざまな体験コーナーを用意しており、実験や実演を通して地質学をわかりやすく体験的に学ぶことができます。
ぜひ、「地質情報展2009おかやま」にご来場ください。

2009年9月5日(土)・6日(日)

岡山市デジタルミュージアム 4F（企画展示室）

時間：10:00 ～ 17:00（6日(日)は16:00まで。）

入場無料

常設展（5F）の入館料は別途必要になります。
高校生・大学生：200円
一般：300円
※中学生以下は無料です。

化石レプリカ作り！

顕微鏡で石の観察！

ペットボトルで地盤の液状化実験 エキジョッカー！

とび出す火山のペーパークラフト！

石割体験！

水槽で地層作り！

自然の不思議 鳴り砂！

瀬戸内海の生き物！

火山の噴火実験！

サヌカイトの楽器・石器・顕微鏡観察！

ミニ講演会（地質学会主催）
9月5日（土）10:30～12:00（各30分）
会場：4F講義室（企画展示室隣）
「岡山のたたら」・「サヌカイトの石器」
「岡山の化石」

「地質情報展特別講演会」と「石の楽器の演奏会」
9月6日（日）
会場：4F講義室（企画展示室隣）
● 午前：
「ジオ鉄：自然を楽しむ鉄道旅行のすすめ」
「サヌカイト楽器の演奏会」
● 午後：
「寒川なまず博士の地震と活断層の話」
「サヌカイト楽器の演奏会」

主催：（独）産業技術総合研究所 地質調査総合センター・日本地質学会
共催：林原自然科学博物館
後援：岡山県・岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・香川県教育委員会・NHK岡山放送局・山陽新聞社・四国新聞社・岡山日日新聞社・中国地質調査業協会・四国地質調査業協会

■■ お問い合わせ先 ■■
産業技術総合研究所地質調査総合センター地質情報展開催事務局
E-mail: g09okayama@m.aist.go.jp
TEL: 029-861-3754
URL: http://www.gsj.jp/johoten/

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．

現金書留または郵便振替　00140－8－28067

40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生4割引，正会員2割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ2割引

地 質 学 論 集

第40号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒340円

第42号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年4月刊，会員頒価3,100円，〒340円

第43号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円

第44号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒340円

第45号　~~シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249pp., 1995年8月刊，会員頒価2,500円，〒340円~~（売り切れました）

第46号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年9月刊，会員頒価1,900円，〒290円

第47号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年4月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第48号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia（IGCP350）Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188pp.，1997年6月刊，会員頒価2,100円，〒340円

第49号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年3月刊，会員頒価2,500円，〒340円

第50号　構造地質　特別号―21世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年7月刊，会員頒価2,500円，〒340円

第51号　地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162pp.，1998年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第52号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー10pp.，1999年9月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第53号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒450円．

第54号　タフォノミーと堆積過程―化石層からの情報解読―小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第55号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，221pp.，2000年1月刊，会員頒価2,800円，〒340円．~~（売り切れました）

第56号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年3月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第57号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年9月刊，会員頒価2,800円，〒340円．

第58号　地震イベント堆積物―深海底から陸上までのコネクション―藤原　治ほか編，169pp., 2004年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第59号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年5月刊，会員頒価2,400円，〒340円．

リーフレットシリーズ

大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995年4月発行　会員価格200円（非会員300円）

大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo－Pollutions 1997年2月発行　会員価格200円（非会員300円）

大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001年5月発行　会員価格300円（非会員400円）

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ

1．箱根火山たんけんマップ―今、生きている火山　2007年5月発行　会員価格300円（**20部以上購入の場合割引あり**）

2．屋久島地質たんけんマップ―洋上アルプスは不思議な地質がいっぱい―　2009年3月発行　会員価格300円（**20部以上購入の場合割引あり**）

国立公園地質リーフレットシリーズ

1．箱根火山　2007年7月発行　会員価格1,000円（**20部以上購入の場合割引あり**）

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1枚200円（非会員300円）

講演要旨集ほか

第115年見学旅行案内書（2008年秋田）　会員頒価2,500円，〒500円

第114年学術大会講演要旨（2007年札幌）　会員頒価4,000円，〒500円

第114年見学旅行案内書（2007年札幌）　会員頒価2,400円，〒500円

※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知．見学旅行案内書は，2003年静岡，2004年千葉，2005年京都に残部があります．

フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価1冊500円．

日本地質学会*News*

Vol.12 No.7 July 2009

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６Ｆ
編集委員長　坂口有人
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

planetearth®
Earth Sciences for Society
2007 – 2009

Contents

巻頭　日本地質学会第116年学術大会（岡山大会）プログラム記事 ……（1）－（28）

日本地質学会第116年総会記事 ……2
議事録ほか/2009年度名誉会員推薦理由/2009年度50年会員顕彰者/2009年度日本地質学会各賞受賞理由

ご案内 ……17
第18回日本水環境学会市民セミナー/第59回東レ科学講演会/海底地形名称の提案募集

各賞・研究助成 ……17
2009年度「朝日賞」候補者推薦依頼のお知らせ/第31回沖縄研究奨励賞推薦応募/平成21年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦/第30回猿橋賞推薦募集

公募 ……18
山口大学大学院理工学研究科（地球科学分野）教員公募/平成21年度福井県職員（古生物学）募集

CALENDAR ……19

表紙紹介：たまねぎ状風化によりコアストーンが発達した花崗岩地形（郷津知太郎・能美洋介） ……19

紹介 ……20
地学のツボ・地球と宇宙の不思議をさぐる　鎌田浩毅著（高橋宏和）/軽石：海底火山からのメッセージ　加藤祐三著（林信太郎）

地質の日イベント報告 ……22
日本地質学会近畿支部：地球科学講演会「ヒマラヤ山脈の誕生とモンスーン気候の始まり」（中条武司）

委員会だより ……22
ジオパーク支援委員会：日本地球惑星科学連合大会一般公開セッション「ジオパーク」報告－地域の人が語る地域の地質－（渡辺真人）

追悼 ……23
名誉会員　加納　博先生を偲んで（黒田吉益）

一般社団法人日本地質学会：2009年度総会議事録ほか ……24

第116年学術大会（岡山）：事前参加登録受付中

参加を予定されている皆様にはお早めのご登録をお願いいたします．懇親会，見学旅行などは定員になり次第締切となりますので，ご注意下さい．詳しくは，ニュース誌４月号予告記事，もしくは大会HPをご参照下さい．なお，講演申込は，６月23日（火）で申込受付を終了しています．

事前参加登録締切：Web：８月17日（月）18：00
郵送/FAX：８月10日（月）必着

参加登録費（要旨集付き）
正会員　7,500円（当日　9,500円）
院生割引適用　4,500円（当日　6,500円）

事務局営業カレンダー

お休み　＊印は振替休日です

7月/July

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13*	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月/August

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

夏期休業：8/13-14

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都千代田区外神田６－３－３

日本地質学会第116年総会記事

議　事　録

日時：2009年５月17日（日）17：45－18：54
会場：幕張メッセ　国際会議場302会議室
（千葉市美浜区中瀬2-1）
開会　（進行：斎藤行事担当理事）
＜議長・副議長・書記の選出＞
議長：長谷部徳子；副議長：小荒井衛
書記：森田澄人・尾上哲治

＜１号議案＞2008年度事業経過報告

渡部常務理事による報告と説明．理事会議決・評議員会評議事項について，とくに編集規則の改正内容に触れ，インパクトファクターに関連し引用文献の英語表記が必要で，９月号の原稿から採用することなどが説明された．会員の動静としては，今年度末は昨年に比して会員数104名の減．となり，2009年４月末現在，会員総数4,266名であった．

今年度中に逝去された会員に黙祷を捧げた．

質疑応答：とくになし
採決確認：拍手で承認（出席82；委任42；議決行使賛成24；合計148）
出席者数確認：
議決権総数　203名（代議員182，理事17，監事２）
出席者数　148名（会場出席者82；委任状：42；議決行使書：24）
出席者総数が議決権の過半数を充足し，総会は成立．
＊以下、議案ごとに数字が違うのは，会場出席者数の変化によるものです．

＜２号議案＞2008年度決算報告

向山会計担当理事による説明
青野監事による会計監査報告
質疑応答：
質問）支出の部の特定引当金の各繰入額が50万円で一律である意味は何か？具体案があるのか？
回答）具体案はまだない．法人化後に必要となる見込みで，いずれ具体性が出てくると思われる．引当金の一部を基本財産へ移動の見込みである．
採決確認：拍手で承認（出席83；委任42；議決行使賛成24；合計149）

＜３号議案＞2009年度事業計画について

渡部常務理事による説明
採決確認：４号議案と合わせて審議し，一括議決とする．

＜４号議案＞2009年度予算案について

向山会計担当理事による説明．

特に法人への移行を見据えて，引当金等の整理検討を行うこと，その一環として特に基本財産額を年間経費の半分まで引き上げるため，引当金を取り崩して増額することが説明された．

質疑応答：なし
採決確認：３号議案とともに拍手で承認（出席85；委任42；議決行使賛成23；合計150）

＜５号議案＞名誉会員の推薦について

佃委員長による説明
質疑応答：
質問）この度逝去された品田芳二郎氏は環境地質部会から名誉会員に推薦されていた．亡くなったために名誉会員への推挙はなかったが，これまでの選考経緯を明らかにしてほしい．大学教官でない会員の草の根活動による社会貢献に対して表彰を求める．
回答）規約のため死亡者は名誉会員には選出できない．また選考過程を明かすことはできない．しかし，ニュース誌への掲載など何らかの手法で品田氏の貢献を知らせることを検討している．推薦者からの投稿も一つの手段である．
採決確認：拍手で承認（出席87；委任42；議決行使賛成22・保留1；合計152）

＜６号議案＞任意団体日本地質学会の解散について

藤本副常務理事による説明
質疑応答：
コメント）社団法人になったら大きなビジョンで活動してほしい．国境問題にも踏み込んだ地質学会ならではの活動を期待する．
採決確認：拍手で承認（出席88；委任42；議決行使賛成23；合計153）

閉会（長谷部議長）

2009年５月17日

以上，決議を明確にするため，この議事録を作成し，議長及び出席理事がこれに記名押印する．

議長　長谷部徳子　印
会長　宮下純夫　　印
理事　藤本光一郎　印

2008年度事業経過報告

１．報告事項

１）会員の動静

2009年４月末現在の会員は，賛助会員30社，名誉会員72名，正会員4143名（うち院生割引126名），準会員30名，会員総数4266名，2007年４月末と比べて104名の減少であり，その内訳は次のとおりである．

入会者　152（賛助１社，正会員136名〔うち院生割引89名〕，準会員15名）
退会者　144（賛助３社，正会員139名〔うち院生割引11名〕，準会員２名）
除籍者　91（正会員91名）
逝去者　21（名誉会員８名，正会員13名）
名誉会員：八木健三（08/7/18），都城秋穂（7/24?），中川久夫（8/5），坂野昇平（8/19），藤田和夫（12/1），加藤磐雄（12/27），松本達郎（2009/2/7），勘米良亀齢（4/6）
正会員：金子史郎（2008/3/14），山崎達雄（4/18），村山正郎（6/4），林　行敏（6/16），関　全寿（8/20），田中　武（8/21），内藤源太朗（9/4），本田　裕（10/13）遠藤勝壽（11/30），吉村尚久（12/5），堀江正治（08年秋），鎌田泰彦（09/1/10），品田芳二郎（3/18）

２）学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動

＜第115年総会＞
日時：2008年５月25日　17：30～19：00
会場：幕張メッセ　国際会議場303会議室
出席者：前半＝理事・代議員：出席87名，委任状提出者35名，議決権行使35，合計157，定足数102名，後半＝事・代議員：出席93名，委任状提出者35名，議決権行使38，合計166，定足数102名
審議事項：１）2006年度事業経過報告，２）2006年度決算報告，３）選挙結果報告，４）2007年度事業計画案，５）2007年度予算案について，６）名誉会員の推薦
＜2008年度臨時総会＞
日時：2008年11月30日　14：00～15：00
会場：学士会館　本館　210会議室
出席者：理事・代議員：出席55名，委任状提出者41名，議決権行使54，合計152，定足数102名
＜委員会等の開催＞
・理事会（14回）議事内容，報告等については，随時HP，ニュース誌に掲載
・定例評議員会（４回）議事内容，報告等については，随時HP，ニュース誌に掲載．
・その他委員会：総務委員会（会計委員会），広報委員会（インターネット委員会），行事委員会，地質学雑誌ならびにアイランドアーク編集委員会，各賞選考委員会（選考検討委員会，アイランドアーク賞選考委員会を設置し，該当賞の選考を諮問），地質基準委員会，名誉会員推薦委員会，女性地球科学者の未来を考える委員会，法務委員会学会，選挙委員会など，メールによる会議を含め，随

時開催.

3）行事の開催

＜第115年年会＞

会期：2008年９月20日-22日

会場：秋田大学

参加者：791名（会員727名，非会員64名）

日本鉱物科学会　同時開催（合同懇親会・１シンポ・４セッション共催）

・一般発表：484件（申込み492件）：口頭276件（申込み278件），ポスター208件（申込み214件）

・シンポジウム：8件（58講演演），緊急展示：2008年岩手・宮城内陸地震関連１件

・地質災害現地報告会：9月22日（月）2008年四川大地震：1件/2008年岩手・宮城内陸地震：７件

・優秀ポスター賞の授与：12件（ポスター発表のみ）

・見学旅行：実施11コース

・ランチョン：専門部会を中心に９件

・夜間小集会：９件

・就職支援プログラム：2008年９月21日参加企業６社

＜日本地質学会各賞の授与式・記念式典＞

日時：９月20日（土）

会場：秋田大学手形キャンパス教育文化学部３号館大講義室

・日本地質学会賞記念講演「微小領域分析と変成岩」（榎並正樹会員）

・日本地質学会柵山雅則賞受賞記念スピーチ「とにかくやってみる」（片山郁夫会員）

・日韓地質学会学術交流協定調印記念式典，講演　韓国地質学会会長　李 鉉具氏（忠南大学）

＜年会関連行事＞

・地質情報展2008あきた－発見・体験！地球からのおくりもの－　2008年９月19日～21日

共催：（独）産業技術総合研究所（秋田市民交流プラザ　ALVE1Fの「きらめき広場」及び４Fの「自然科学学習館」）参加者：約1900名

・市民講演会「大地の成り立ちと人びとの生活・歴史－男鹿半島・大潟村・豊川油田をジオパークに－」共催：日本地質学会ジオパーク支援委員会．2008年９月20日，参加者：約130名．講師：薄井伯征・佐々木榮一・佃　栄吉・佐々木詔雄

・地学教育委員会

小さなEarth Scientistのつどい～第６回小・中・高校生徒地学研究発表会：2008年９月21日，参加校10，11件，うち２件に優秀賞を授与．

第７回理科教員対象見学旅行：2008年９月20日，見学旅行C班「地学教育の素材としての男鹿半島」秋田地学教育学会共催．

4）出版物の刊行

＜地質学雑誌＞

・114巻４号（2008年４月）～115巻３号（2009年３月）を刊行した．総ページ数は650ページ．

・地質学雑誌補遺：秋田大会見学旅行案内書　冊子版およびCD-ROM版．

＜日本地質学会ニュース＞

・11巻４号（2008年４月）～12巻３号（2009年３月）を発行した．総ページ数は340ページ．

＜Island Arc＞

・Island Arc 編集委員会の編集により，Wiley-Blackwell社よりVol.17, Issue 2～Issue 4 Vol.18, Issue 1 を刊行した．総ページ数は654ページ．

＜リーフレット＞

・国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ２「屋久島地質たんけんマップ」

＜その他＞

・地方地質誌　関東地方（朝倉書店より）

・一般向け広報誌の名称を「ジオルジュ」と決め，９月に準備号1000部を印刷し，アンケートをとり，今後の本格的発行にむけて広報委員会が検討を継続中．

5）関連外部委員会への協力

下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員を通じて，これまでに引き続きそれぞれの活動，関連学会の発展と連携に協力した．

日本地球惑星科学連合：評議員（宮下純夫），連絡委員（久田健一郎），プログラム委員（七山　太，大坪　誠），キャリアパス支援小委員会委員（佐々木和彦），環境・災害対応委員会-災害の委員（横山俊治），環境・災害対応委員会-環境の委員（小荒井衛），学術出版委員会委員（井龍康文），教育問題検討委員会（阿部国広，矢島道子，芝川明義，中井睦美），国際委員会（副委員長　公文富士夫），地質科学関連学協会連合（天野一男），自然史学会連合（斎木健一），地理関連学会連合（藤本光一郎），地質技術関連学協会継続教育協議会（CPD，公文富士夫），日本技術者教育認定機構（JABEE，天野一男），国際惑星地球年（IYPE）日本委員会（佃　栄吉），地質の日実行委員会（委員　藤林紀枝）原子力総合シンポジウム（運営委員，高橋正樹），アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会（運営委員，小笠原正継），地質情報活用機構（GUPI）技術者の認定制度創設のための委員会委員（山本高司）富士学会：富士山科学看板設置調整委員会（専門委員　高橋正樹），日本ジオパーク委員会（委員　高木秀雄），大学評価・学位授与機構の専門委員など．

6）その他報告事項（主なもの，そのほかはNews誌，HPに掲載の理事会議事録，評議員会議事録参照）

＜特に他学協会との共催・後援，賛行事，開催年月日に関りなくこの期間に依頼のあったもの＞

・日本工業新聞社より，2008年地球環境保護土壌・地下水浄化技術展（10/1-3）の協賛．

・埼玉県理化研究会（会長　大下仁）研修会「東京と伊豆大島の見学：案内者　小幡喜一会員」（8/26-27）の後援

・21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム実行委員会より「第９回子供のためのジオカーニバル」の後援.

・計測自動制御学会，第34回リモートセンシングシンポジウム（11/6-7，東京）の協賛．

・6th International Conference on Asian Marine Geology（8/29-9/1，高知，徐委員長）の後援．

・朝日新聞社「第６回ジャパン・サイエンス＆エンジニアリング・チャレンジ2008（JSE2008）」2008年９月－2009年６月，後援．

・ゼオライト学会，国際会議「ZMPC2009（International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2009）」（2009年8/3-7，早稲田大学）の共催．

・筑波大学より朝永振一郎記念第３回「科学の芽」賞を後援，

・ゼオライト学会「第25回ゼオライト研究発表会」（11/7-8）の共催．

・琉球大学熱帯生物圏研究センター共同利用研究会「有殻原生生物プランクトン研究はどこに向かうのか」（11/28-29）の後援．

・石専門の写真家須田郡司氏より，「世界石巡礼」（2009年４月開始）の後援．

・日本ジオパーク委員会の記念式典の後援（2/20）．

・茨城大学主催のシンポジウム「茨城県北地域振興の新たな可能性をさぐる－茨城県北ジオパークをめざして－」（2/1）の後援．

・日本原子力学会，原子力総合シンポジウム2009（５月開催）の共催，運営委員：高橋正樹．

・2009年度地球化学会年会（9/15-17，広島大学）共催．

・第53回粘土科学討論会（粘土学会，9/10-11，岩手大学）の共催

・日本科学技術振興財団より，「青少年のための科学の祭典2008」の後援．

・科学教育研究協議会，第56回全国研究大会（さいたま市，8/1-3）の後援．

・日本アイソトープ協会：第46回アイソトープ・放射線研究会の共催．運営委員：小笠原正継．

7）支部の活動

＜北海道支部＞

＊2008年支部幹事会の体制：支部長　宮坂省吾，事務局（庶務）：高清水康博，吉本充宏（会計）・中川充・岡村　聡・渡邉　剛・重野聖之（北海道地質百選兼

任）・安元和己・川上源太郎・千葉恵美，会計監査：岡　孝雄，災害専門委員：川村信人，ジオパーク支援委員：田近　淳北海道地質百選選定グループ：石井正之・小板橋重一・田近　淳・垣原康之・鬼頭伸治

1．北海道支部総会（2008年５月10日）

・個人講演会（７件）

・特別講演会「知られざるシレトコ―知床半島の地質―」（３件）

2．「地質の日」記念企画　2008年４月29日（火）～６月１日（日）

・北海道大学総合博物館企画展示「ライマンと北海道の地質―北からの日本地質学の夜明け―」
日本応用地質学会北海道支部・北海道大学総合博物館との共催

3．2009年北海道大学総合博物館企画展示「支笏火山と私たちのくらし」の実行委員会の立ち上げ

＜東北支部＞

1．2008年度は支部としての活動は特に行わなかった．

2．第115年学術大会（秋田）は，開催校である秋田大学の実行委員会の奮闘により，無事終了した．

＜関東支部＞

1．地質技術伝承講演会―技師長が語る地質工学余話シリーズ―の開催

第１回（４月19日）　トンネル地質学（講師　石井正之（明治コンサル））

第２回（５月10日）　建設に伴う活断層調査をささえた地質技術屋のはなし－中部海上国際空港との地質調査（講師　豊蔵勇（ダイヤコンサル））

第３回（６月７日）　斜面災害対策と地質屋の役割（講師　上野将司（応用地質））

2．地質見学会（５月17日～18日）
「箱根火山見学会」（案内者　高橋正樹（日大））参加者18名

3．支部総会と第２回研究発表会（６月８日）支部長講演，口頭発表６件，ポスター発表21件

4．柏崎原発トレンチ調査見学会（７月９日）

＜中部支部＞

1．中部支部総会・シンポジウム「ひずみ集中帯とフォッサマグナ」，新潟大学にて（６月28日）

2．個人講演（ポスターセッション）（６月28日）

3．巡検「 中越東頸城丘陵の地形と地質構造」，案内者：小林健太・豊島剛志・立石雅昭（新潟大学）（６月29日）

4．2010年地質学会年会開催地の調整．富山大学を中心として中部支部として開催する．

＜近畿支部＞

1．近畿支部総会・合同例会（2008年６月29日，兵庫県人と自然の博物館）

・公開講演会：「丹波の恐竜化石発掘」三枝春生（兵庫県立人と自然の博物館）

・シンポジウム　「篠山層群周辺の地質発達史：兵庫県中央部の中生代」

・発表：口頭発表　６件，ポスター発表10件，参加者：76名

2．後援

・山陰海岸「地質の日」見学会（2008年５月11日）（日本地質学会近畿支部・山陰海岸ジオパーク推進協議会主催），参加者：69名

・第四紀国際学術講演会（2008年４月４日）大阪市立大学文化交流センター，講演：５件，参加者：38名（日本第四紀学会，日本地質学会　近畿支部，日本応用地質学会関西支部共催）

＜四国支部＞

・巡検：三波川変成岩中の藍晶石（12月20日，午前）　案内者：皆川鉄雄（愛媛大）

・第８回四国支部総会・講演会（12月20日，午後）　愛媛大学メディアホール

＜西日本支部＞

1．2008年度の支部体制

・支部長：大木公彦，幹事：佐野　弘好・宮本　隆実・仲谷　英夫・松田　博貴，事務局：松田博貴，庶務：磯部博志，会計：小松俊文

2．2008年度行事

1）第156回西日本支部例会（近畿・西日本・四国　三支部合同例会）

・日時：平成20年６月29日（日）

・場所：兵庫県立人と自然の博物館

・公開講演会：「丹波の恐竜化石発掘」（三枝春生氏・兵庫県立人と自然の博物館）

・シンポジウム：「篠山層群周辺の地質発達史：兵庫県中央部の中生代」

・講演：ポスター　10件（うち西日本支部会員　１件）

2）第157回西日本支部例会・2008年度総会

・日時：2008年２月14日（土）

・場所：九州大学国際ホール

・講演：口頭　26件，ポスター　10件

・次期幹事校：長崎大学

3．日本地質学会第116年学術大会岡山大会（2009）準備・実行支援事業

・大会準備委員会（準備委員長　板谷徹丸，事務局長　鈴木茂之）のもと，岡山大会の準備・運営を支援．

・西日本支部事務局が，見学旅行案内書の編集業務を担当．

8）部会研究会等の活動

1．男女共同参画委員会（委員長　堀　利栄）

・金沢―石川県能登半島周辺 でワークショップを開催（３月29日－30日）

2．構造地質部会（部会長　竹下徹）

・構造地質夏の学校の開催（8/21-23）千葉大学

・構造地質部会2008年度例会（3/14-16）新潟県長岡市

2．理事会議決・承認事項および評議員会評議，承認事項

1）2007年度評議員会議長及び副議長の選出，任期１年　議長：保柳康一，副議長：小山内康人

2）各賞選考委員会委員の選出（任期２年，2010年度まで）
新任委員（2010年総会まで）：高橋正樹，滝田良基，渡辺真人，村山雅史，吉川敏之
留任委員（2009年総会まで）：卜部厚志，北里　洋，高木秀雄，中川光弘（選考委員長），堀　利栄
職責委員：現，前，正副編集委員長（アイランドアーク含む）：狩野謙一，宮下純夫，久田健一郎，小嶋　智，岩森　光，石渡　明，Simon WALLIS，井龍康文，前川寛和

3）2009年年会開催地：西日本支部，岡山地区，会場：岡山理科大学　会期：2008年９月４日～９月６日

・実行委員長：板谷徹丸会員（岡山理科大），事務局：鈴木茂之会員（岡山大）ほか．

・岡山大会テーマ：「桃太郎と学ぶ地質学」

・岡山大会の事前及び当日の業務委託について，イベント会社（株）アカデミックブレインズと請書を交わした．岡山大会を日本地球化学会との共催とした．

4）産業技術総合研究所と前年度に引き続き，2008年度も共同研究契約を締結：研究題目：「地質科学分野におけるオンライン化の将来動向に関する研究」

5）2008年度の地学オリンピック（フィリピン）の協賛（協賛金50万円）をした．

6）韓国地質学会の李鉱具会長を秋田大会に招待した．

7）ジオパーク支援委員会は，ジオパークの広報宣伝用パンフレット作成し，地方自治体その他関係者に配布，支援した．

8）名誉会員推薦委員会の設置：委員長；佃　栄吉副会長
各支部長（５名）：宮坂省吾（北海道），大槻憲四郎（東北），中山俊雄（代理：関東），原山　智（中部），宮田隆夫（近畿），高橋治郎（四国），大木公彦（西日本），階層別委員（４名）：大学：岡村眞，小中高：紺谷吉弘，官公所：植村和彦，会社：足立勝治，理事会（１名）：石渡　明

9）2010年年会開催地：中部支部富山地区会場：富山大学　会期：2010年９月18日～20日
委員長：竹内　章，事務局長：大藤　茂

10）現行任意団体との並行運営，組織体制，一般社団法人定款案，細則案，理事会規則案とうの検討を行い，評議員会に諮り，定款の認証，臨時総会を経て，12月１日に一般社団法人の登記を完了した．

11）共同利用施設拠点認定のための要望書提出の要請に応え，以下の大学に要望書を提出した．
高知大学海洋コア総合研究センター，埼玉大学地圏科学研究センター，信州大学山岳科学総合研究所
12）地球惑星科学連合への加盟登録申請をした．
13）富士学会「富士山に科学（学術）的説明看板を設置する運動」へ参加し，看板設置の要請書を提出した．
14）日本地質学会賞および柵山賞の選考について選考検討委員会を設置し選考を諮問した．委員長：宮下純夫，委員：木村学，榎並正樹，磯崎行雄，平　朝彦，久田健一郎，狩野謙一，井龍康文，前川寛和，石渡　明，Simon WALLIS，永広昌之，川幡穂高
・Island Arc賞については，Island Arc編集委員会に選考を諮問した．
15）次の14名の会員を50年会員として顕彰することとした．
鹿島愛彦　小池敏夫　小林忠夫　小村精一
坂口和則　高山俊昭　手塚高清　野田浩司
町田　洋　松山幸弘　丸山順康　森　　啓
盛谷智之　山崎貞治
16）一般社団法人日本地質学会との間で業務委託(月額６万円)等の覚書を交わした．
17）2008年度（2008年４月～2009年３月）決算案を承認した．（２号議案）
18）2009年度（2009年４月～2010年３月）の事業計画ならびに予算案を承認した．（３号・４号議案）
19）名誉会員推薦委員会から提案された下記の５名の会員を総会に推挙することとした．（５号議案）
須鎗和巳会員，飯山敏道会員，相原安津夫会員，原郁夫会員，石崎国熙会員
20）各賞選考委員会より提案された下記の各賞受賞者を承認した．
・日本地質学会国際賞
太田昌秀（元　ノルウエー極地研究所），対象研究テーマ：極域の地質学
・日本地質学会賞（２件）
鳥海光弘（東京大学大学院　新領域創成科学研究科），対象研究テーマ：造山帯とマントルの力学的側面の研究．
石渡　明（東北大学　東北アジア研究センター）対象研究テーマ：オフィオライトと東北アジアの地質学的研究
・日本地質学会柵山雅則賞（１件）
水上知行（金沢大学　理工学域自然システム学類地球学コース），対象研究テーマ：マントル構造岩石学
・日本地質学会小澤儀明賞（２件）
小宮　剛（東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻），対象研究テーマ：先カンブリア時代のテクトニクスと地球史の解読
須藤　斎（名古屋大学環境学研究科地球環境科学専攻），対象研究テーマ：「珪藻化石生層序を用いた地質学的および古海洋学的研究」
・日本地質学会論文賞（２件）
高橋雅紀，2006，日本海拡大時の東北日本と西南日本の境界．地質学雑誌，第112巻，第１号，p.14-32.
守屋俊治・鎮西清高・中嶋　健・壇原徹，2007，山形県新庄盆地西縁部の鮮新世古地理の変遷－出羽丘陵の隆起時期と隆起過程－．地質学雑誌，第114巻，第8号，p.389-404.
・日本地質学会小藤賞（１件）
嶋田智恵子・佐藤時幸・工藤美幸・山崎誠，2008，IODP, Exp. 303航海で得られた北大西洋の中部第四系から産出した絶滅珪藻種Neodenticula kamtschaticaの意義．地質学雑誌，第114巻，第１号，p.47-50
・日本地質学会研究奨励賞（２件）
石井英一（日本原子力研究開発機構地層処分研究開発部門）
対象論文：石井英一・中川光弘・齋藤宏・山本明彦，2008，北海道中央部，更新世の十勝三股カルデラの提唱と関連火砕流堆積物：大規模火砕流堆積物と給源カルデラの対比例として．地質学雑誌，第114巻，第７号，no.2，p.348-365.
坂口真澄（高知大学理学部）
対象論文：Masumi Sakaguchi and Hideo Ishizuka，2006，Subdivision of the Sanbagawa pumpellyite-actinolite facies region in central Shikoku, southwest Japan. The Island Arc, vol. 17, no. 3, 305-321.
・日本地質学会 Island Arc賞（１件）
授賞論文: Tethyan ophiolites and Pangea break-up ,Island Arc, 14, 442-470 （2006）．著者: Bortolotti, V. and Principi, G.
・日本地質学会表彰（１件）
秋吉台科学博物館（館長　高橋文雄）
表彰業績：秋吉台研究に関する調査研究・教育普及活動
21）法人化への移行方針，スケジュール等と任意団体の解散について総会に諮ることとした．（６号議案）
22）編集規約と投稿規定を一本化した新しい編集規則を策定し，2009年９月から施行することとした．
23）リーフレットの出版を活発にするため「企画出版委員会」（委員長　高橋正樹）を設置することとし，委員会規約案を承認した．
24）法人としての支部規約のモデル案を作成し，各支部に示し，検討を依頼した．

2009年度事業計画骨子

事業基本方針：社団法人への学会事業の完全移転と公益法人への早期移行をめざし，地質学と地質学の社会への寄与・貢献の発展

Ⅰ．公益的事業の展開
１．地質学に関する学術活動推進
1－1．秋季岡山大会の成功
1－2．春季連合大会への参加促進と，地質学会の主催・共催セッションの充実と成功
1－3．学術雑誌の充実と成果の発信
・地質学雑誌充実を図り，インパクトファクター登録雑誌へ
・一般販売の推進とWebでの早期公開の検討
・Island Arcの充実と隔月化の早期実現
1－4．国際交流の強化
・アジア諸国との連携強化
日韓および日タイ学会間の連携と交流のさらなる推進．
モンゴル，フィリピン，ベトナム等の地質学会との協力協定の締結推進．
・国際的な学術研究の推進
1－5．学協会との連携推進
２．普及・教育・啓発活動
2－1．最終年度の IYPE活動展開（シンポジウムほか）
2－2．「地質の日」事業・イベントの推進と定着化
2－2．ジオパーク支援の展開と自治体との連携強化
2－3．地学オリンピックへのさらなる支援と人材育成への貢献
2－4．広報誌「ジオルジュ」の定期的発行と出版活動展開
2－5．学術・教育情報の発信の強化
2－6．理科教育に関する提言活動，連合教育問題検討委員会との連携
2－7．地質学関連の教材等の開発とその普及
３．社会貢献事業
3－1．自然災害対応の充実・強化（他学会との連携体制の確立）
3－2．地質関連人材養成・派遣・斡旋事業の新展開
3－3．地質技術者支援事業の展開
3－4．Web上で地質学関連業界などと連携

Ⅱ．組織整備と会員サービスの強化
１．組織整備強化
1－1．公益認定への加速（法人化委員会の発展・強化）
1－2．法人としての中長期ビジョンの策定と実行
1－3．事務局体制の強化と学会事務所の整備推進
1－4．公益事業執行体制の確立
1－5．学会事業の社団法人への移転準備完了
２．会員サービスの強化
2－1．情報高度化による会員サービスの強化（英文化を含むWebの充実，システムの高度化）
2－2．地質学関連用品の開発と会員への提供
2－3．学生・院生会員への就職情報の提供と支援

2008年度（平成20年度）会計収支計算書

（2008年4月1日～2009年3月31日）　（単位：円）

収入の部	08年予算	08年決算	差　異
1. 会費収入	47,750,000	48,844,739	−1,094,739
賛助会員	2,100,000	1,850,000	250,000
正会員	43,500,000	44,994,739	−1,494,739
院生割引正会員	2,000,000	1,874,000	126,000
準会員	150,000	126,000	24,000
2. 事業収入	13,742,000	14,713,058	−971,058
論集収入	400,000	335,880	64,120
雑誌販売収入	3,500,000	3,606,720	−106,720
雑誌印刷負担金収入	1,500,000	1,260,800	239,200
別刷収入	1,000,000	864,991	135,009
広告料収入	500,000	728,000	−228,000
年会開催収入[1]	6,042,000	7,289,067	−1,247,067
参加登録料	4,705,000	5,431,000	−726,000
予稿集売上	815,000	1,385,500	−570,500
展示収入	500,000	370,000	130,000
雑収入	22,000	102,567	−80,567
普及資料等販売収入[2]	800,000	627,600	172,400
3. 補助金等収入	0	0	0
4. その他	2,570,000	4,105,398	−1,535,398
受取利息	40,000	49,903	−9,903
引当金受取利息	80,000	135,055	−55,055
基本財産受取利息	50,000	58,030	−8,030
雑収入[3]	400,000	675,105	−275,105
アイランドアーク関連収入[4]	2,000,000	2,780,261	−780,261
寄付金	0	407,044	−407,044
5. 基本財産受け入れ収入	0	0	0
6. 特定引当預金取崩収入[5]	25,700,000	19,260,666	6,439,334
事業準備引当預金取崩	5,000,000	0	5,000,000
退職金手当引当預金取崩	19,000,000	18,560,666	439,334
普及書出版引当預金取崩	700,000	300,000	400,000
年会開催補助費引当預金取崩	600,000	0	600,000
構造地質部会特別引当預金取崩	400,000	400,000	0
当期収入合計	89,762,000	86,923,861	2,838,139
前期繰越収支差額	18,143,290	18,143,290	0
収入合計	107,905,290	105,067,151	2,838,139

支出の部	08年予算	08年決算	差　異
1. 事業費	55,202,000	48,983,049	6,218,951
(1)集会費	11,662,000	11,466,405	195,595
総会開催費[6]	200,000	432,610	−232,610
年会開催費[7]	6,042,000	5,019,110	1,022,890
会場費・会場設営費	840,000	638,704	201,296
機器賃借料	580,000	434,375	145,625
資料印刷費	1,950,000	1,784,409	165,591
アルバイト人件費	1,200,000	951,431	248,569
文具費・郵送費	180,000	224,245	−44,245
旅費・交通費	430,000	441,140	−11,140
雑支出	862,000	544,806	317,194
年会普及事業開催費	600,000	131,440	468,560
資料・ポスター印刷費	300,000	96,600	203,400
雑支出	300,000	34,840	265,160
年会地質情報展開催費	200,000	200,035	−35
会場費	100,000	0	100,000
資料・ポスター印刷費	100,000	199,185	−99,185
雑支出	0	850	−850
諸集会費	1,120,000	952,320	167,680
理事旅費	800,000	771,980	28,020
支部長会議旅費	200,000	45,000	155,000
会計監査委員旅費	20,000	20,000	0
その他集会費	100,000	115,340	−15,340
事業計画関連費[8]	3,500,000	4,730,890	−1,230,890
(2)出版費	22,350,000	19,049,249	3,300,751
アイランドアーク事務局費	1,500,000	1,556,683	−56,683
地質学雑誌ニュース誌印刷費	15,000,000	12,144,162	2,855,838
地質学雑誌編集費	350,000	205,515	144,485
雑誌・ニュース誌送本費	4,700,000	4,843,089	−143,089
リーフレット・普及書刊行費	800,000	299,800	500,200
(3)研究奨励費	500,000	418,335	81,665
(4)補助費	2,700,000	1,147,170	1,552,830
支部補助費	1,000,000	621,200	378,800
専門部会・研究委員会	1,000,000	434,050	565,950
普及活動補助費	700,000	91,920	608,080
(5)学界交流助成費	500,000	184,500	315,500

(6)事業費関連管理費[9]	17,490,000	16,717,390	772,610
人件費	12,000,000	11,821,634	178,366
通信費	450,000	370,351	79,649
旅費・交通費	280,000	220,915	59,085
会議費	90,000	80,764	9,236
事務所賃借料	2,500,000	2,487,864	12,136
光熱費	300,000	281,466	18,534
什器備品賃借料	1,000,000	696,510	303,490
消耗品費	600,000	441,421	158,579
雑費	270,000	316,465	−46,465
2. 管理費	33,770,000	32,397,177	1,372,823
人件費[10]	27,000,000	26,441,756	558,244
退職金外部積立掛金	360,000	460,000	−100,000
通信費	450,000	370,351	79,649
役員選挙費	700,000	0	700,000
旅費・交通費	20,000	8,225	11,775
会議費	210,000	188,451	21,549
事務所賃借料	2,500,000	2,770,576	−270,576
光熱費	300,000	281,466	18,534
什器備品賃借料	1,000,000	696,511	303,489
消耗品費	600,000	441,422	158,578
雑費	630,000	738,419	−108,419
3. 基本財産繰入支出	0	0	0
4. 特定引当金繰入支出[11]	1,500,000	4,372,271	−2,872,271
事業準備金引当金繰入	500,000	500,000	0
名簿刊行費引当金繰入	500,000	500,000	0
退職金手当内部引当金繰入	500,000	565,092	−65,092
普及書出版費引当金繰入		900,808	−900,808
年会開催補助費引当金繰入		1,903,846	−1,903,846
研究奨励費引当金繰入		2,525	−2,525
5. 予備費	1,000,000	0	1,000,000
当期支出合計	91,472,000	85,752,497	5,719,503
当期収支差額	−1,710,000	1,171,364	−2,881,364
次期繰越収支差額	16,433,290	19,314,654	−2,881,364

＜注＞
1)鉱物科学会との同時開催相乗効果.
2)新規リーフレット刊行遅れのため収入伸びず.
3)法人の業務委託費4か月分含む.
4)W-B社から編集費アップ
5)収入で補えるものは取り崩さず,事業が半分しか実行されず必要分のみ取り崩し.
6)定例ならびに臨時総会の2回開催
7)実行委員会の努力と鉱物科学会との会場その他のシェア効果.
8)広報事業, 地質の日, IYPE, ジオパーク、地学オリンピック, 法人への拠出金, 事務局室の整備および会計ソフト.
9)事業管理費と一般管理費を割合によって分けて計上.
10)定年退職金含む
11)地質調査の基本-地質基準－編集委員会、フィールドジオロジー2の著者、デジタル地質学用語集編集委員会,
地方地質誌関東地方各編集委員会から印税の一部が寄付され普及書出版引当金に繰り入れた.
また, 秋田大会余剰金を年会開催補助金に繰り入れた.

正味財産増減計算書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

(単位;円)

科目	金額		
Ⅰ 増加の部			
1. 資産増加額			
当期収支差額	1,171,364		
(1)基本財産増加額	0		
(2)その他の固定資産増加額			
特定引当預金増加額			
事業準備引当預金繰入額	500,000		
名簿刊行費引当預金繰入額	500,000		
退職手当引当預金繰入額	565,092		
年会開催補助費引当預金繰入額	1,903,846		
普及書出版引当預金繰入額	900,808		
研究奨励引当預金繰入額	2,525		
特定引当預金増加額合計	4,372,271		
資産増加額合計		5,543,635	
2. 負債減少額			
引当金減少額			
退職手当引当金取崩額	18,560,666		
普及書出版引当金取崩額	300,000		
構造地質部会特別引当金取崩額	400,000		
特定引当金取崩額	19,260,666		
負債減少額合計		19,260,666	
増加額合計			24,804,301
Ⅱ 減少の部			
1. 資産減少額			
(1)その他の固定資産減少額			
特定引当預金減少額			
退職手当引当預金取崩額	18,560,666		
普及書出版引当預金取崩額	300,000		
構造地質部会特別引預当金取崩額	400,000		
	19,260,666		
資産減少額合計		19,260,666	
2. 負債増加額			
引当金増加額			
事業準備引当金繰入額	500,000		
名簿刊行費引当金繰入額	500,000		
退職手当引当金繰入額	565,092		
年会開催補助費引当金繰入額	1,903,846		
普及書出版引当金繰入額	900,808		
研究奨励引当金繰入額	2,525		
特定引当金増加額合計	4,372,271		
負債増加額合計		4,372,271	
減少額合計			23,632,937
当期正味財産増加額			1,171,364
前期繰越正味財産額			40,143,290
正味財産合計額			41,314,654

貸　借　対　照　表

2009年3月31日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現　金	380,482		
預　金	73,437,689		
未収金	102,000		
立替金	1,646		
仮払金	118,550		
流動資産合計		74,040,367	
2. 固定資産			
(1)基本財産			
預　金	20,000,000		
基本財産合計	20,000,000		
(2)その他の固定資産			
敷金・保証金	2,000,000		
特定引当預金	48,752,973		
事業準備引当預金	20,300,000		
名簿刊行費引当預金	1,200,240		
退職手当引当預金	8,605,329		
年会開催補助費引当預金	6,084,008		
普及書出版引当預金	3,213,777		
総目録刊行引当預金	2,613,464		
研究奨励引当預金	3,526,155		
構造地質部会特別引当預金	3,210,000		
その他の固定資産合計	50,752,973		
固定資産合計		70,752,973	
資産合計			144,793,340
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
預り金	1,831,071		
未払金	18,860,466		
前受金	34,034,176		
流動負債合計		54,725,713	
2. 固定負債			
引当金	48,752,973		
事業準備引当金	20,300,000		
名簿刊行費引当金	1,200,240		
退職手当引当金	8,605,329		
年会開催補助費引当金	6,084,008		
普及書出版引当金	3,213,777		
総目録刊行引当金	2,613,464		
研究奨励引当金	3,526,155		
構造地質部会特別引当金	3,210,000		
固定負債合計		48,752,973	
負債合計			103,478,686
Ⅲ　正味財産の部			
正味財産			41,314,654
(うち基本財産)			(20,000,000)
(うち正味財産増加額)			(1,171,364)
負債及び正味財産合計			144,793,340

計算書類に対する注記（2008年度）

1. 重要な会計方針

1)引当金の計上について

・事業準備引当金：将来的な事業，前年度未完事業などのために引当．
・名簿刊行費引当金：次年会員名簿作成のために必要経費の一部を引当．
・年会開催補助費引当金：年会事業収支の余剰金を不足が生じた場合に備え引当．
・退職手当引当金：期末要支給額を見込んで引当．
・普及書出版引当金：地質学会名で出版社から刊行した出版物の著者からの印税寄付金以後の出版に備え引当．
・総目録刊行費引当金：目録刊行取りやめのため，使用方針が決まるまで据え置き．
・研究奨励引当金：会員の研究奨励のために会員からの寄付金および必要に応じて引当
・構造地質部会特別引当金：旧構造地質研究会の残余金を暫定的に引当．

2)資金の範囲について

資金の範囲には現金，預金，未収金，立替金，仮払金，預り金，未払金，前受金を含める．なお，期末残高は下記に示すとおりである．

2. 基本財産の増減はなし，残高は次のとおりである．

科　目	期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
預　金	20,000,000	0	0	20,000,000
合計（基本財産）	20,000,000	0	0	20,000,000

3. 次期繰り越し収支差額の内容は，次のとおりである．

科　目	前期末残高	当期末残高
現金（切手残高含）	162,530	380,482
預　金	54,028,485	73,437,689
未収金	86,000	102,000
立替金		1,646
仮払金		118,550
合　計	54,277,015	74,040,367
預り金	1,498,725	1,831,071
未払金	0	18,860,466
前受金	34,635,000	34,034,176
合　計	36,133,725	54,725,713
次期繰越収支差額	18,143,290	19,314,654

財　産　目　録

2009年3月31日現在

（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現金（現金及び切手手元有高）	380,482		
預貯金	73,437,689		
未収金	102,000		
立替金	1,646		
仮払金	118,550		
流動資産合計		74,040,367	
2. 固定資産			
(1)基本財産			
預　金	20,000,000		
基本財産合計	20,000,000		
(2)その他の固定資産			
敷金・保証金(井桁ビル預け)	2,000,000		
特定引当預金	48,752,973		
事業準備引当預金	20,300,000		
名簿刊行費引当預金	1,200,240		
退職手当引当預金	8,605,329		
年会開催補助費引当預金	6,084,008		
普及書出版引当預金	3,213,777		
総目録刊行引当預金	2,613,464		
研究奨励引当預金	3,526,155		
構造地質部会特別引当預金	3,210,000		
その他の固定資産合計	50,752,973		
固定資産合計		70,752,973	
資産合計			144,793,340
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
預り金（アイランドアーク購読料，社保料他）	1,831,071		
未払金（退職金他）	18,860,466		
前受金（09年4月以降の会費他）	34,034,176		
流動負債合計		54,725,713	
2. 固定負債			
引当金	48,752,973		
事業準備引当金	20,300,000		
名簿刊行費引当金	1,200,240		
退職手当引当金	8,605,329		
年会開催補助費引当金	6,084,008		
普及書出版引当金	3,213,777		
総目録刊行引当金	2,613,464		
研究奨励引当金	3,526,155		
構造地質部会特別引当金	3,210,000		
固定負債合計		48,752,973	
負債合計			103,478,686
正味財産			41,314,654

2009年5月13日

日本地質学会
会長　宮下　純夫　殿

日本地質学会会計監査
山本　正司
青野　道夫

2008年度(平成20年度)会計監査報告

2008年度（平成20年度）の決算報告及び財産目録，並びにそれらに関連した帳簿，伝票，預金通帳などを監査した結果，これらはすべて正確であり，かつ適正に会計処理されたものであることを認めます．

以上

2009年度（平成21年度） 一般会計収支予算

（2009年4月1日～2010年3月31日）　（単位：円）

収入の部	09年予算	08年予算
1. 会費収入[1)]	46,830,000	47,750,000
賛助会員	1,800,000	2,100,000
正会員	43,000,000	43,500,000
院生割引正会員	1,900,000	2,000,000
準会員	130,000	150,000
2. 事業収入	15,200,000	13,742,000
論集収入	300,000	400,000
雑誌販売収入	3,000,000	3,500,000
雑誌印刷負担金収入	1,300,000	1,500,000
別刷収入	1,000,000	1,000,000
広告料収入[2)]	900,000	500,000
年会開催費[3)]	7,700,000	6,042,000
参加登録料	5,500,000	4,705,000
予稿集売上	1,400,000	815,000
展示収入	700,000	500,000
補助金・寄付金	0	0
雑収入	100,000	22,000
年会普及事業開催費	0	0
普及資料等販売収入	1,000,000	800,000
3. その他	4,005,346	2,570,000
受取利息	40,000	40,000
引当金受取利息	80,000	80,000
基本財産受取利息	50,000	50,000
雑収入	1,335,346	400,000
アイランドアーク関連収入	2,500,000	2,000,000
寄付金	—	0
4. 特定引当預金取崩収入[4)]	17,300,000	25,700,000
事業準備引当預金取崩	13,000,000	5,000,000
名簿刊行費引当預金取崩	1,200,000	0
退職金手当引当預金取崩	0	19,000,000
普及書出版引当預金取崩	800,000	700,000
年会開催補助費引当預金取崩	1,400,000	600,000
研究奨励費引当預金取崩	500,000	0
構造研究部会特別引当預金取崩	400,000	400,000
当期収入合計	83,335,346	89,762,000
前期繰越収支差額	19,314,654	18,143,290
収入合計	102,650,000	107,905,290

支出の部	09年予算	08年予算
1. 事業費	58,090,000	55,202,000
(1)集会費	15,970,000	11,662,000
総会開催費	200,000	200,000
年会開催費[5)]	8,900,000	6,042,000
会場費・会場設営費	2,000,000	840,000
機器賃借料	1,300,000	580,000
資料印刷費	2,100,000	1,950,000
アルバイト人件費	1,000,000	1,200,000
文具費・郵送費	200,000	180,000
旅費・交通費	400,000	430,000
業務委託費	1,600,000	0
雑支出	300,000	862,000
年会普及事業開催費	400,000	600,000
資料・ポスター印刷費	200,000	300,000
雑支出	200,000	300,000
年会地質情報展開催費	250,000	200,000
会場費	100,000	100,000
資料・ポスター印刷費	150,000	100,000
諸集会費	1,220,000	1,120,000
理事旅費	900,000	800,000
支部長会議旅費	200,000	200,000
会計監査委員旅費	20,000	20,000
その他集会費	100,000	100,000
事業計画関連費[6)]	5,000,000	3,500,000
(2)出版費	22,060,000	22,350,000
アイランドアーク事務局費	1,500,000	1,500,000
アイランドアーク購読費	260,000	0
地質学雑誌ニュース誌印刷費	13,000,000	15,000,000
地質学雑誌編集費	300,000	350,000
雑誌・ニュース誌送本費	5,000,000	4,700,000
名簿刊行費	1,200,000	—
リーフレット・普及書刊行費	800,000	800,000
(3)研究奨励費	1,050,000	500,000
(4)補助費	2,200,000	2,700,000
支部補助費	700,000	1,000,000
専門部会・研究委員会	1,000,000	1,000,000
普及活動補助費	500,000	700,000
(5)学界交流助成費	600,000	500,000
(6)事業費関連管理費[7)]	16,210,000	17,490,000
人件費	10,800,000	12,000,000
通信費	450,000	450,000
旅費・交通費	240,000	280,000
会議費	90,000	90,000
事務所賃借料	2,500,000	2,500,000
光熱費	300,000	300,000
什器備品賃借料	900,000	1,000,000
消耗品費	600,000	600,000
雑費	330,000	270,000
2. 管理費	13,060,000	33,770,000
人件費	7,200,000	27,000,000
退職金外部積立掛金	120,000	360,000
通信費	450,000	450,000
役員選挙費	0	700,000
旅費・交通費	10,000	20,000
会議費	210,000	210,000
事務所賃借料	2,500,000	2,500,000
光熱費	300,000	300,000
什器備品賃借料	900,000	1,000,000
消耗品費	600,000	600,000
雑費	770,000	630,000
3. 基本財産繰入支出[8)]	10,000,000	0
4. 特定引当金繰入支出[9)]	0	1,500,000
事業準備金引当金繰入	0	500,000
名簿刊行費引当金繰入	0	500,000
退職金手当内部引当金繰入	0	500,000
5. 予備費	1,000,000	1,000,000
当期支出合計	82,150,000	91,472,000
当期収支差額	1,185,346	−1,710,000
次期繰越収支差額	20,500,000	16,433,290

＜注＞

1) 会員減少傾向を考慮して前年予算より減.

2) 名簿の広告期待.

3) 前年実績も加味して2割強増.

4) 基本財産増額繰入,08年度持ち越し事業,名簿発行,年会業務の一部業者委託費用，普及出版事業,国際賞などの費用を見込んで.

5) 年会費用は基本的に収支相殺,ただし業者委託費分として支出増.

6) 広報事業及び広報誌の発行,地質の日,IYPE，ジオパーク,地学オリンピックなど,実績に応じて増加.

7) 事業管理費と一般管理費の割合を決めて分割.

8) 年間基本経費の約半額を基本財産とするために増額.

9) 現状の積立金としては十分と判断して今年度の積立なし.

2009年度名誉会員推薦理由

須鎗和巳会員（1926年3月10日生，83歳）

須鎗和巳会員は1948年に東北大学理学部地質学古生物学教室を卒業された．同年，東北大学理学部副手として採用され，1949年理学部文部教官三級を経て，1950年に徳島大学学芸学部助手に転任，1952年同講師，1960年同助教授に昇任，1965年徳島大学教養部助教授に配置換えの後，1966年に徳島大学教養部教授になられた．

四国赴任後の須鎗会員は，秩父累帯の層序と生層序の研究に着手，その成果を1961年に東北大学博士論文「Geological and paleontological studies in central and eastern Shikoku, Japan」としてまとめるとともに，黒瀬川構造帯の一連の共同研究を推進された．その後，和泉層群の堆積学的研究にも着手，北縁部の浅海相と中軸部タービダイト相の指交関係や，阿讃山脈の地質構造の解析に貢献された．須鎗会員は，地の利を生かした野外調査を基本とする研究を推進し，その領域は，秩父累帯，領家帯和泉層群，四万十帯，室戸半島第四系，中央構造線と吉野川平野の鮮新-更新統，御荷鉾帯・三波川帯の原岩堆積年代ほかに大別できるように，古生代から第四紀まで，四国の全ての地質体に及んでいる．中でも御荷鉾帯と三波川帯の源岩堆積年代の解析は，同会員がその探求に特に情熱を注いだ感のある共同研究であり，「四国西部三波川帯主部よりの後期三畳紀コノドントの発見」（須鎗ほか，1980）により，日本地質学会小藤賞を授与された．

教育面では東北大学，徳島大学はもとより，非常勤講師を勤められた高知大学，愛媛大学等においても，同僚や後進にさまざまな指針を与え，教科書「地球科学概論」（朝倉書店，1984）をはじめとする執筆出版を通じて，地球科学の普及に大いに尽力された．指導を受けた多数の学生は，大学・研究所や教育機関に留まらず，社会の第一線で活躍しており，須鎗会員の教育・研究に対する深い理解と熱意は，世代を超えて受け継がれている．また須鎗会員は1970～72年には徳島大学教養部長，その前後の1969～77年には同評議員を歴任，大学行政と教育・研究の発展にも尽力された．

また，須鎗会員は「日本の地質８　四国地方」（共立出版，1991）の代表編集委員を務め，20万分の１四国地方表層地質図（高知営林局，1977）の編纂や，土地分類基本調査など，地質学の成果を世に広め，後世に残すための仕事にも力を注がれた．

以上の理由により，須鎗和巳会員を名誉会員として推薦する．

飯山敏道会員（1927年10月25日生　81歳）

飯山敏道会員は，1957年から20年間にわたってフランスで活躍され，帰国後は地質学全般にわたる活発な教育研究活動や日仏交流のキーパーソンとして多大な貢献をされている．

飯山会員の研究は広範囲にわたるが，本領は実験といえよう．フランス滞在中に行った鉱物と熱水溶液間のイオン交換平衡を用いた元素の分配や固溶体の熱力学的性質に関する研究は今でも高い評価を受けている．自ら装置を設計されたばかりでなく旋盤で金属を加工するなど技術的な面にも造詣が深く，内熱型高温高圧実験装置を東京大学や千葉大学に先駆的に導入して多くの成果をあげるなど，熱水実験の意義を広く認識させた功績も大きい．

1976年に東京大学地質学教室の第三講座（鉱床学）の教授として帰国されてからは，スカルンを中心とする鉱床の研究や交代作用の研究，花崗岩の研究，社会問題ともなったセメントのアルカリ骨材反応の研究など，さらに広い分野の研究に取り組まれたことは多くの人々の知るところである．

1984年に開始された日仏KAIKO計画における日本側計画代表としての活躍も特筆される．同計画は潜水艇による潜行調査や海底探査，広範囲の地質調査など海陸を統合する大規模なプロジェクトであり，飯山会員はフランスとの結びつきを生かして計画の実現に尽力し，島弧海溝系の理解と日本のテクトニクスの解明にインパクトを与えたことは記憶に新しい．

これらの業績に対して，フランス政府はフランス国家功労賞騎士号，同士官号などを授与し，飯山会員を称えている．また，飯山会員は熱水実験を中心に鉱床学，鉱物学，地球化学など幅広い分野において第一線で活動している後進を数多く育成された．

1981年の日本地質学会第88年学術大会に際しては，1968年以来の懸案であった東京大学開催を大会準備委員会の責任者として成功裏に実現させた．1992年に京都で開催された第29回万国地質会議に関しては，世界的に活躍する諸外国の研究者との深い連携を背景に準備段階から組織委員として活躍され，同会議が大きな成果をあげるよう尽力された．これらは広く学界への貢献として特筆されるべきことである．

さらに，1984年に東京大学理学部助手の福山博之氏と柵山雅則氏（両名とも日本地質学会員）と学生１名がアイスランド調査中の事故で亡くなった際には，飯山会員は東京大学評議員として公務災害認定のために学内外で奔走された．公務災害適用への道を切り開かれたことは危険と隣り合わせで調査する地質学研究者とその家族を保護する上で歴史的な意味があったといえよう．

大学を辞められても今なお，房総地学会の活動に積極的に関わるなど地質学の普及教育に尽していると伺っている．

以上のような長年の地質学に対する貢献により，飯山敏道会員を名誉会員に推薦する．

相原安津夫会員（1930年５月28日生　79歳）

相原安津夫会員は1954年に東京教育大学理学部地質鉱物学科を卒業後，三井鉱山（動力炉・核燃料開発事業団およびサンコーコンサルタント出向）を経て，1974年に九州大学理学部地質学科石炭地質学講座の助教授として着任された．1987年に教授昇任，学内では石炭研究資料センター委員や自然災害科学西部地区部会事務局などを務め，1994年に退職後はダイヤコンサルタント顧問，国際協力事業団のインドネシア派遣専門家，福岡教育大学非常勤講師などを歴任されている．

相原会員は，石炭地質学分野で地質学に重要な貢献を残した．とりわけビトリナイト反射率を用いた有機埋没変成史と古地熱環境の情報から，九州・北海道などの堆積盆発達史や付加体テクトニクスなどに多くの知見をもたらしたことは周知のとおりである．教育面においては，九州大学在職中の20年間で理学部および教養部の教育に携わったほか，国内外10以上の大学で非常勤講師として石炭地質学の講義をされた．集中講義の受講生の中には卒・修・博論で九大の石炭顕微鏡の恩恵に浴したものも少なくない．日本国内の石炭産業が縮小撤退を余儀なくされていた折，教育研究の場で石炭地質学の維持と有機地球科学への転換を担われた．これらの成果は，2006年に開催された国際堆積学会議における石炭堆積学のセッションで，日本人発表者のすべてが相原スクール出身であったことにも現れている．

国際的には，国際石炭組織・有機岩石学委員会（ICCP）で，日本の唯一のフルメンバーとして，変動帯の炭田形成から有機変成に関わる地質特性を紹介すると共に，内外情報や研究動向の交流に携わり，新たなアソシエイトメンバーの導入につとめた．遡って1960年代はじめにオーストラリアで当時未詳であったボウエン炭田の石炭資源調査に従事し，その後の炭田開発や日本への石炭安定供給の基礎を築いた．その業績が評価され，燃料協会（現　日本エネルギー学会）および鉱山地質学会（現　資源地質学会）の技術賞を受賞された．同会員の学識は石油地質学や応用地質学の領域でも遺憾なく発揮されている（例えば，相原（1979）石炭鉱床.佐々木昭ほか編.地球科学14，岩波書店など）．日本地質学会が社会に向けての情報発信や普及に対する組織的な取り組みを行う前から，同会員は「『科学の公園』をつくる会」などの活動にも参画し，児童・生徒および保護者が地質学に

興味や関心を持つ場の創出に尽力している．

上記の功績により相原安津夫会員を名誉会員に推薦する．

原　郁夫会員（1932年11月２日生，76歳）

原会員は，1955年に広島大学地学科を卒業後，同大学大学院を経て，広島大学助手，助教授，教授を歴任され，1996年の定年退職時に広島大学名誉教授となられた．この間，ダルムシュタット工業大学鉱物学教室客員研究員として４度ドイツに留学された．また，定年退職後は，2007年まで応用地質（株）で現役の地質技術者として活躍された．

原会員は，構造地質学およびテクトニクスの分野，特に石英の変形ファブリック，層状岩体褶曲作用および日本列島変成帯テクトニクスに関する研究で多大な業績を上げ，国内外で高く評価されている．石英の変形ファブリックや褶曲作用の研究は，研究者として比較的初期（1961-1977）に行われたが，当時日本に構造地質学（構造岩石学）が育っていなかった状況の中で，原会員は国際的なレベルで先端的な研究を行われた．これらの研究成果の一部は1970年代後半にシドニー，ライデン，バルセロナおよびゲッチンゲンにおいて開催されたMicrotexture Analysis Conferenceにおいて公表されたが，原会員が一連の会議に論文（内２編はTectonophysicsに印刷されている）を提出した唯一の日本人であったことは特筆される．当時の欧米は，プレートテクトニクスが開花した頃であるが，一方では1950年代後半に岩石・鉱物変形実験が開始され，プレートテクトニクスを可能にしている地球内部（固体）の流動を，変形物理条件の関数として解き明かそうとしていた時代にあった．この様な動きは，日本では漸く論文集「固体の流動」，上田誠也編，東海大学出版会（1974）に見てとれるが，この論文集においても，地質学者として論文を提出しているのは原郁夫と伊藤英文のみであり，当時原会員が孤軍奮闘されていた様子が窺える．

その後，原会員は研究テーマを日本列島変成帯（特に三波川変成帯）および領家帯・中央構造線の研究に転向する（1973-1996）．一連の研究は，小島丈兒，秀敬らを中心とする広島学派により1950年代から開始された徹底した地質調査に基づく地域地質学的研究であるが，一方で詳細な微細構造の解析と大量の鉱物化学組成のデータに基づく変成条件および変成温度―圧力履歴の推定を行っており，まさに総合的なテクトニクスの研究である．また，科研費の総合研究を企画し，市川浩一郎名誉会員や水谷伸治郎名誉会員らとともに日本の中・古生界のテレイン・テクトニクスの発展にも貢献されている．三波川変成帯のテクトニクスの研究は，Hara et al.（1992）にもっと良く纏められているが，本論文は101ページを費やし，118図を用いた超大作で，引用回数の非常に多い論文となっている．上記すべての研究は，構造地質学・テクトニクスの進展に大きく貢献するものであり，1995年に原会員の功績に対して日本地質学会賞が授与された．

以上，原会員は並はずれたバイタリティーと洞察力をもって，日本の構造地質学の黎明期に次々と世界第１線の研究を成し遂げたほか，構造地質学と変成岩岩石学を結び付け変成帯のテクトニクスの研究を世界レベルで展開した功績は大きい．さらに，原会員のパイオニア的研究に刺激を受け，現在日本では第２世代，第３世代および第４世代の構造地質学研究者が育ち活躍するなど，原会員が後進に残した影響は計り知れない．応用地質（株）に移られてからもそれは全く変わることなく，熱意を持って指導力を発揮された．原会員はまた，14の国立大学で非常勤講師として集中講義を行い，後進の指導に努めてこられた．

以上，長年わたる多大なる地質学への貢献により，原郁夫会員を名誉会員に推薦する．

石崎国熙会員（1934年１月25日生　75歳）

石崎会員は昭和32年に徳島大学学芸学部を卒業した後，東北大学大学院理学研究科地学専攻に進学し，修士課程では高知市近郊に分布する古生界の地質学的研究に従事した．同課程修了後は博士課程に進み，昭和37年に「Stratigraphical and paleontological studies of the Onogahara and its neighbouring area, Kochi and Ehime Prefectures, southwest Japan」の研究で理学博士の学位を授与された．博士課程修了後は，日本学術振興会の特別研究生を経て，昭和37年東北大学理学部地質学古生物学教室に助手として就任されて以来，同大学の助教授，教授として，35年間の永きにわたって地質学・古生物学に関する教育と研究に活躍され，平成９年３月末に退官された．

石崎会員は主として四国に分布する秩父帯の地質および紡錘虫の生層序学的研究に精力的に取り組んだ後，当時の将来的研究の発展をいち早く展望し，微化石の一種である，節足動物甲殻類の貝形虫化石に関する古生物学的・古生態学的研究へと転じ，我が国のこの分野のパイオニアかつ第一人者として長年活躍された．

石崎会員の貝形虫に関する研究は，それまでほとんど手を付けられていなかった古生代の貝形虫化石の分類学的研究に始まった．その後，日本各地の現世堆積物中の貝形虫の生態や分布様式，貝形虫群集とそれをとりまく環境との因果関係の解明，および詳細な分類学的研究に基づいて多くの新種記載を行い，今日のこの分野の礎を築かれた．さらに，このような現世貝形虫に関する知見に基づいて，地質学的イベントと群集形成や種の移動・消滅との関連性，鮮新－更新世における海洋環境の変動の解明など数多くの成果を挙げられた．特に，当時は十分に汎用化されていなかったコンピューターを用いて微化石群集の検討にいち早く多変量解析の手法を導入し，古環境変動を定量的に復元することに成功した．当時の古生物学における先駆的なこの試みは，この分野における嚆矢となり，数多くの研究論文として公表されただけでなく，「微古生物学」（朝倉書店，1976共著）「微化石研究マニュアル」（朝倉書店，1978共著）や「古生物学各論」（築地書館，1980共著）などの解説書の中でもまとめられた．これらは現在でも古生物学者の重要な参考書であり，国内外の数多くの研究者に研究手法が引き継がれ，地質学・古生物学の発展に多大なる貢献となっている．このような石崎会員の一連の業績に対して，昭和54年に日本古生物学会から学術賞が授与された．石崎会員は東北大学はもちろんのこと，非常勤講師を勤めた大学でも後進の指導にも熱心にあたられ，ご自身の研究分野のみならず，堪能な英語能力を生かし，東北大学で学生の学術論文の英文添削や，博士論文作成のための英語指導等を一手に引き受けた．このおかげで数多くの指導学生が国際誌への成果の公表や博士号の取得を行うことができ，現在，大学，研究所，および企業の第一線で活躍している．また，国内外の関連学会や社会貢献活動にも多大な功績を残しており，文部省の科研費審議会のメンバー，国際古生物協会（IPA）のもとでの国際研究グループのメンバー，英国のBritish Micropalaeontological Societyが発行していたStereo-Atlas of Ostracod Shellの編集委員，日本古生物学会が発行する学術誌の編集委員や編集委員長を歴任された．さらに，日本で開催された３つの国際会議，第９回貝形虫国際シンポジウム，第３回テチス浅海域に関する国際シンポジウム，第４回底生有孔虫国際シンポジウムにおいて，幹事や組織委員を務められ，会議を成功へと導かれたほか，フランス・エジプトなどの研究者を受入れるなど，国際共同研究・国際交流活動を活発に行われている．

以上，石崎会員の長年に渡る古生物学分野の研究業績と日本の地質学に対する多大な貢献により石崎会員を名誉会員として推薦する．

2009年度
50年会員顕彰者（1959年入会者）

鹿島愛彦　小池敏夫　小林忠夫　小村精一
坂口和則　高山俊昭　手塚高清　野田浩司
町田　洋　松山幸弘　丸山順康　森　　啓
盛谷智之　山崎貞治（14名．敬称略）

2009年度
日本地質学会各賞受賞理由

日本地質学会賞（２件）

受賞者：鳥海光弘（東京大学大学院　新領域創成科学研究科・教授）
対象研究テーマ：造山帯とマントルの力学的側面の研究

鳥海光弘氏は1975年に関東山地三波川変成帯の変成岩岩石学の研究で学位を取得した．その後，一貫して，『力学が造山運動を支配した』という信念に基づき，日本，カリフォルニア，アルプスなどの変成帯の構造と変成岩の組織（形，サイズ，方向性）の解析から，造山帯が発展する過程を定量的に復元する手法の開発と解読を実践してきた．それらを列挙すると，（１）広域変成作用時の応力の定量的解析法の開発（放散虫の変形を利用した応力，応力ひずみ），（２）変成再結晶時の鉱物の移動の解析（曹長石斑状変晶と集合ざくろ石の成因），（３）太平洋型造山帯の変成鉱物ファブリックの形成機構と応力の解析である．これらの研究は，それまでの構造地質学の伝統的な手法とは異なり，地質学に粉体力学や流体力学を持ち込み，変形組織から応力やひずみを定量化して，既存の定性的な造山運動論を近代化しようとする独創的な試みであった．鳥海氏のもう一つの貢献は，実験岩石学からマントルの流動特性の定量化である．660km深度で滞留するスラブの原因を反応曲線の傾斜が負になることによる浮力の獲得だけでなく，変成再結晶作用による結晶粒の微粒化による粘性の局所的低下が滞留を促進することを実証した．更に応力計の開発や『歪み速度計』を考案した．鳥海氏が提案した計算レオロジーは，今後のマントルの研究に，物質科学分野だけでなく地球物理学分野にも大きな影響を与え，固体地球の理解に大きく貢献するだろう．

以上の研究は極めて独創的で，造山帯の力学とマントルダイナミクスを理解する上で，極めて重要な貢献をしたと思われる．そして鳥海氏は，これらの分野で欧米の主要な国際雑誌17誌に，1978年から2008年までに合計44論文を発表した．地質学雑誌などに投稿した論文（和文，英文）を併せると75論文が発表されている．

これらの研究に加えて，鳥海氏は岩波書店発行の地球惑星科学教科書シリーズを通じて編集者として，　地球科学の体系化に貢献するとともに，著作，総説などで積極的に地球科学の普及にも努めた．更に，鳥海氏は地質学雑誌の編集委員を５年にわたって務め，1995-1997年には編集委員長を務め，地質学会の発展にも貢献した．

以上の業績を踏まえ，鳥海光弘氏を地質学会賞に強く推薦したい．

受賞者：石渡　明（東北大学　東北アジア研究センター・教授）
対象研究テーマ：オフィオライトと東北アジアの地質学的研究

石渡　明氏は，卓抜した地質調査センスと岩石学分野の知識を融合させた研究により，特に「オフィオライト」をキーワードとして，日本列島を含む東アジアのテクトニクスの解明に多大な貢献をしている．夜久野岩類の研究では，火成岩・変成岩岩石学的手法を導入し，それらがペルム紀の島弧とホットスポットにともなう縁海盆に由来する異常に厚い海洋地殻の断片であることを明らかにした．これは，本邦に産するオフィオライトの系統的な研究の先駆けとなった．さらに，同氏は，アルプスやロシア極東域など，世界に産する主要なオフィオライトおよびそれに関連する変成岩や火成岩の研究を続け，総説を含めて多くの研究成果を公表するとともに，第29回万国地質学会議（IGC）京都大会でオフィオライト・シンポジウムを主催した．また，深海底掘削計画の立案や実施にも積極的に参加し，統合国際深海掘削計画（IODP）科学立案評価パネル（SSEP）共同議長を務めるなど，国内外の関連分野の進展に重要な役割を果たしている．氏が代表者となり現在も継続しているロシア極東域の日露共同調査の成果は，同地域と西南日本の地質構造の連続性を明らかにし，環太平洋顕生代多重オフィオライト帯の提唱に結実した．また，中国蘇魯―大別山超高圧変成帯の日中共同研究では，特に超高圧変成帯にともなう超苦鉄質岩の産状や岩石学的特徴に関していくつもの重要な知見を報告すると同時に，日本列島の基盤の形成には中生代初期におこった中朝地塊と揚子地塊の衝突型造山運動が深く関わっていたとするモデルを提唱している．また，火山岩類に関しても，グリーンタフ火山岩類の特徴を地質学的，岩石学的，地球化学的に再検討したことや，美濃-丹波帯からプルーム活動に関連したペルム紀海台由来の緑色岩類を報告するなど，多くの重要な研究を行っている．

同氏は，学会や個人のHPを通じて寄せられる地球科学関連の質問への回答，オフィオライト関連データベース「AILIS」および「偏光顕微鏡による主要造岩鉱物の簡易鑑定表」の公表や，調査グループを組織して行った平成19年能登半島地震の調査など，地球科学の教育・普及にとって，そして社会的にも重要な多くの活動を続けている．また，２期４年間，編集長としてIsland Arcの国際化に尽力するとともに，現在は同編集顧問，日本地質学会理事を努め，学会の発展にも多大なる貢献をしている．

以上のように，石渡明氏は地質学分野の研究をはじめとする多方面にわたり，多くの重要な功績・実績・貢献があり，日本地質学会賞に相応しい候補者として推薦します．

日本地質学会国際賞（１件）

受賞者：太田昌秀（元ノルウエー極地研究所）
対象研究テーマ：極域の地質学

太田昌秀博士は，1972年以来ノルウェー極地研究所の主席研究員として，スバールバル諸島やロシア～カナダにかけて北極圏の地質研究を主導し，多くの著作や地質図を発表された．特にスバールバル諸島の古生代前期～先カンブリア時代後期（Grenvilliann）の変動とその年代の解明に貢献され，高圧変成岩類がカレドニア造山運動の前期サブダクション期にあたることを明らかにし，プレートテクトニクスの開始時期に関する重要なデータとして注目を集めた．またノルウェー政府派遣の交換科学者として日本の南極観測隊でも活躍され，北半球の夏は北極，冬は南極と，両極の地質研究を精力的に展開された．1980年代以降の日本人地質家によるスバールバル諸島の研究や，同諸島ニーオルスン国際科学村に日本が観測基地を設けることは，博士の助言や尽力なくしては困難であった．さらに日本のみならず，英米独仏露南ア・スウェーデン・ポーランドなどとの共同研究を通じて極域の地質学の発展と国際交流に大きな役割を果たされた．

太田博士は，1933年長野県に生まれ，1962年北海道大学大学院博士課程修了後1972年まで同大学理学部に勤務された．若き日の博士は，飛騨変成帯や隠岐島後を研究対象とし，1959～63年にかけ多数の論文を発表された．また光学的手法により長石が互いに癒合しながら斑状変晶を形成する過程を解明したり，ザクロ石斑状変晶の立体構造を解析する方法を開発するなど，独創的な研究をされた．博士は，1969-70年に北海道大学ヒマラヤ学術調査隊副隊長としてネパールの調査を行い，ヒマラヤの地質学にも大きな功績を残された．それまでの探検的調査の域から出て，科学的成果として「Geology of the Nepal Himalayas」というモノグラフに集大成されたのは博士の手腕によるところであり，同調査グループとともに1973年度秩父宮記念学術賞を受賞された．

太田博士は，常々科学者の視野の狭さを戒められた．ナンセンの大部の著書「フラム号」を翻訳されたのは，そうした思いからと思われる．北極圏は，冷戦時代には軍事的に，現在は地球環境問題や資源開発に，重要な地域である．博士は，1992-99年に日露ノルウェーの北極海航路プロジェクト委員としても貢献され，2006年にノルウェー極地研究所を退職された今もオスロにあって，極域の科学の普及と国際交流に努められている．これらの功績をたたえて国際賞に推薦する．

日本地質学会Island Arc賞（１件）

授賞論文: Bortolotti, V. and Principi, G., 2005, Tethyan ophiolites and Pangea break-up Island Arc, 14, 442-470.

This paper provides a masterful tectonic-petrologic-geochemical synthesis of the rifting and dispersion of Pangea based on the newly generated Tethyan oceanic crust now preserved in the Alpine mountain belts. It compiles Triassic to middle Jurassic ophiolitic bodies in the Tethyan and Caribbean regions in detail and proposes that the breakup of Pangea and the development of the Tethyan ophiolites progressed from east (Middle-Late Triassic) to west (Late Jurassic-Early Cretaceous). It presents the role of ophiolites in the elucidation of the timing and mechanisms of the breakup of Pangea as well as the development of Tethyan basins throughout the Mesozoic.

Based on the Thomson Science Index for the year 2007, this paper had the greatest number of citations of the candidate Island Arc papers published in 2005-2006. The first author has long worked in the fields of regional geology and geodynamics of the Northern Apennines and the peri-Mediterranean chains. He has energetically studied the stratigraphy, tectonics, and geodynamic evolution of the internal areas of these orogenic chains, in particular the successions pertaining to the Tethyan Ocean. He has published many articles on regional geology concerning the ophiolitic successions from Cyprus, the Pontic Ranges, Hellenides, Albanides, Dinarides, Romanian Apuseni, and Northern Apennines and has made great contributions in this field. We believe that this paper will contribute to future research on the geologic and geodynamic evolution of the Eurasia-Pacific region. In view of the scientific impact of the paper and the international scientific activity of the first author, the Judge Panel recommends this paper for the 2009 Island Arc Award.

日本地質学会小澤儀明賞（２件）

受賞者：小宮　剛（東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻）
対象研究テーマ：先カンブリア時代のテクトニクスと地球史の解読

小宮　剛氏は地球史解読の研究において顕著な業績をあげてきた．氏の研究は野外地質学を根幹とし，火成岩・変成岩岩石学や同位体地球化学的手法を駆使して，地球史全体に及ぶ長時間スケールの中でのテクトニクス様式の変遷，マントルおよび核の進化プロセス，さらには地球表層環境の進化の解明を試みている．これまでに氏が国内外の共同研究者達と明らかにした多くの成果は国内外において高く評価されている．

氏が中心となって進めた研究の中でも特に世界的に大いに注目されている業績として，地球におけるプレートテクトニクスの開始時期を限定したグリーンランド，イスア地域の研究がある．日本で1980年代に確立された付加体地質学の視点と手法を用いて，従来受動的大陸縁の堆積岩とみなされていた約38億年前のイスア表成岩体について詳しい野外調査と岩石学的分析を行った結果，海洋プレート層序やデュープレックス構造を認定し，その地質体が実は世界最古の付加体であることを解明した．これは，現在とほぼ同様なプレートテクトニクスが，誕生して約８億年たった初期地球において既に機能していたことを世界で初めて示した画期的な研究成果である．イスア地域からは，世界最古の生命の存在を示すデータが報告されており，氏の研究成果は世界の地質学界に大きな衝撃を与えた．先カンブリア時代の岩石・地層を産しない日本で育った地質学者が，初期地球テクトニクスの研究でこのような学問的貢献をした例はこれまでになかった．さらに小宮氏はグリーンランドの岩石試料の他に，西オーストラリアやアフリカ南部の試料についても同時に詳しく化学分析し，太古代から原生代にかけてマントルの温度の経年変化を調べた．その結果，マントルの温度が段階的に低下したことを具体的に示した．最近では研究対象をさらに広げ，地球表層で形成された種々の堆積岩についても多様な同位体地球化学的分析を行い，過去の大気・海洋中の酸素濃度変化の推定を試みており，今後得られる成果に大きな期待が寄せられている．小宮氏はこれまでに42編の学術論文（査読のある国際誌31編，著書２編うち筆頭著者分９編；国内誌９編，うち筆頭５編）を公表した．被引用回数は300回に達しつつあり，現在も急増中である．

以上のように小宮　剛氏の業績は，特にその質の高さで群を抜いており，日本地質学会小澤儀明賞に値する．

受賞者：須藤　斎（名古屋大学環境学研究科地球環境科学専攻）
対象研究テーマ：珪藻化石生層序を用いた地質学的および古海洋学的研究

須藤　斎氏は，大学院以来一貫して珪藻化石生層序学と海洋環境変遷の研究に取り組んできた．その研究は大きく分けて，「野外地質調査に基づく珪藻化石生層序を用いた新生界の地質学的研究」と「海生珪藻キートケロス属の休眠胞子化石生層序を用いた古海洋学的研究」に分けられる．

前者に関しては，同氏は関東から常磐地域の陸上新第三系に対して珪藻化石生層序に基づく詳細な年代層序を確立し，堆積相と珪藻化石群集の変化から中部日本の新第三紀の海洋古気候変遷を明らかにした．また，産業技術総合研究所が実施している地震動予測のための平野地下構造解明の研究にも参画し，関東・新潟および常磐地域の新第三系の地下構造の解明に貢献している．後者に関しては，三陸沖，ノルウェー沖，アフリカ南西沖の深海コア，日本各地・カリフォルニアの陸上セクションを用いて，光学・走査型電子顕微鏡による形態観察と層序学的分析を行い，キートケロス属休眠胞子化石13属85種（９新属69新種を含む）の詳しい記載を行い，世界で初めて休眠胞子化石の分類体系を確立し，4,000万年前から現在に至るグローバルな時空分布と進化史を解明した．この研究によって3,370万年前にキートケロス属が短期間に種数と産出量を爆発的に増加させ，その時代まで主要な海洋一次生産者であった渦鞭毛藻類からキートケロス属を中心とする珪藻類に置き換わるという大生物イベントがあったという新事実を明らかにした．このイベントは，南極大陸に初めて本格的な氷床が発達し温室地球から氷室地球へと変化した急激な寒冷化イベントと一致し，さらに，珪藻を食べる甲殻類等を餌とするヒゲクジラ類が大量に分化していることから，海洋生態ピラミッドの上位の生物群に対しても，甚大な影響を与えた可能性を示唆している．このような成果により同氏は，統合国際深海掘削計画（IODP）の第302次航海の珪藻化石担当乗船研究員に抜擢され，世界初の北極海深海底掘削（ACEX）の研究ミッション遂行に貢献した．その成果はNatureにいち早く発表され，古海洋学に大きなインパクトを与えており，珪藻休眠胞子化石の分類を礎とする同氏のユニークな古海洋学的研究は，今後もさらなる発展が期待される．

以上の理由により，須藤　斎氏を小澤儀明賞候補者として相応しいと判断し，ここに推薦する．

日本地質学会柵山雅則賞（１件）

受賞者：水上知行（金沢大学　理工学域自然システム学類地球学コース）
対象研究テーマ：マントル構造岩石学

「国内初天然ダイヤモンドの発見」はNHK全国ニュースなど多くのマスメディアに取り上げられ，発見者である水上知行君は一気に脚光を浴びることになった．ダイヤモンドの発見は，前弧地域におけるマントル流動を見直すきっかけとなり，画期的な研究成果である．今回の発見の背景に，今までの水上知行君のマントル岩石に関する高度な知識と幅広い研究成果の蓄積が必要不可欠であった．その特筆すべき例として，2004年「Nature誌」に

出版されたカンラン石のLPOに関する発表が挙げられる．この論文は，カンラン石の<a>軸がマントル流動方向に対して垂直に配列し，かつ３軸集中するいわゆる「B-type」のLPOを天然試料から世界で初めて記載したもので，そのLPO形成と沈み込みプロセスとの関係を明確に示した．マントルの主要鉱物であるカンラン石のLPOは，マントルの物性に強い影響を与えており，マントルの地震学的異方性とマントル流動の関係を明らかにするための重要な情報である．同君は，この研究成果についてアメリカ地球物理連合及び日本地球惑星科学連合大会で招待講演を行っている．また，水上知行君は四国・三波川変成帯の高変成度部に位置する東赤石超塩基性岩体の研究にも取り組んできた．険峻な山岳地帯にもかかわらず，同地域の綿密な野外調査を行い，構造地質学的・岩石学的手法を組み合わせることにより，単調な岩相からなる東赤石岩体が記録している複雑な変形・圧力・温度履歴を見事に読み解いた．その結果，東赤石岩体は100キロ以深に由来し，沈み込み帯－ウェッジマントル系の様々な情報を保持している可能性が高いことが明らかとなった．このような岩体は世界でも非常にまれで貴重なものであり，現在では国内外で多くの研究者の注目を集めている．さらに，水上知行君は高圧実験及びラマン分光法を研究に取り入れ，既に両分野で優秀な業績を挙げている．

以上のように，水上知行君は，マントル岩石の地質学的な履歴を究明するために，様々な研究手法を融合した独自の研究スタイルを築いてきた．また，確度の高いデータにもとづいた慎重な議論を行い，確実な研究成果を上げる貴重な研究者でもあり，同君は今後も地質学的分野の研究に大きく貢献できるものと確信される．よって，水上知行君を，日本地質学会の柵山賞の候補者として強く推薦する．

日本地質学会論文賞（２件）

受賞論文：高橋雅紀，2006，日本海拡大時の東北日本と西南日本の境界．地質学雑誌，第112巻，第１号，p.14-32.

我が国の地帯構造とその発達史の研究では，新第三系と中古生界の研究者のあいだの議論がこれまで活発ではなかった．中古生界の地体構造は古第三紀までに大略完成し，新第三紀になると，日本海拡大時にブロック化して多少の相対運動をしたにすぎないと思われていたわけである．高橋氏はこの論文で，著者自身を含む多くの研究者によって蓄積されたデータを使って，そうした見方にたいして説得力のある反論を展開した．それによって，例えば中央構造線がどこに連続するかというような，日本列島の地帯構造論の重要問題を解くために，新第三紀なかんずく中新世前半のテクトニクスの理解が不可欠であることを示した．このことは，我が国の地質構造発達史の研究のありかたに，変更をせまるものである．以上の理由により本論文を，日本地質学会論文賞を受けるにふさわしい論文として推薦する．

受賞論文：守屋俊治・鎮西清高・中嶋　健・檀原　徹，2008，山形県新庄盆地西縁部の鮮新世古地理の変遷ー出羽丘陵の隆起時期と隆起過程ー．地質学雑誌，第114巻，第８号，p.389-404.

本論文は，出羽丘陵新庄盆地西縁部に分布する鮮新世の地層群について，堆積学的手法を用いてその隆起史を明らかにしたものである．筆者らは，これまで未解決であった出羽丘陵の形成史について，詳細な地質調査に基づき層序の見直しを行い，堆積学的解析により16の堆積相とそれらの組合せによる６つの堆積組相に区分し，その堆積環境の推定を行った．また複数見られる海進・海退サイクルを基準に同時間面を認定し，堆積シーケンスに区分し，堆積組相の分布パターン・古流向解析・等層厚線図をもとに，堆積時の古地理を復元した．その上で，出羽丘陵の隆起過程と隆起時期について，地層群中に含まれる凝灰岩のフィッショントラック年代値と合わせて議論している．このように，本論文は基本的な堆積学的解析手法を駆使して，古地理変遷・構造発達史の解明と堆積盆解析を実施した例として堆積学の模範となる論文である．よって，論文賞に値するものと考えられる．

日本地質学会小藤賞（１件）

受賞論文：嶋田智恵子・佐藤時幸・工藤美幸・山崎　誠，2008，IODP, Exp. 303航海で得られた北大西洋の中部第四系から産出した絶滅珪藻種*Neodenticula kamtschatica*の意義．地質学雑誌，第114巻，第1号，p.47-50.

第三紀末に絶滅した１つの珪藻種が北大西洋の中部第四系から産出するという興味深い事実を報告し，その原因を考察した短報である．この珪藻化石は再堆積であるとしても，この珪藻種は大西洋では未報告とのことで，ベーリング海峡成立以後，パナマ陸橋成立以前の太平洋と大西洋のつながりを示す重要な資料であり，これについての考察は非常に面白い．この論文はグローバルな重要性を持つ事実をタイムリーに報告し，その意義を明確に論じた短報として，十分に小藤賞に値する．

日本地質学会研究奨励賞（２件）

受賞者：石井英一（日本原子力研究開発機構）

受賞論文：石井英一・中川光弘・齋藤　宏・山本明彦，2008，北海道中央部，更新世の十勝三股カルデラの提唱と関連火砕流堆積物：大規模火砕流堆積物と給源カルデラの対比例として．地質学雑誌，第114巻，第７号，no.2，p.348-365.

上記論文は，北海道中央部十勝三股地域周辺に分布する給源不明の火砕流堆積物群において，分布・累重様式・層相解析・年代測定・全岩および鉱物化学組成等を調べ，これらが一連の火砕噴火で生じたことを明らかにした論文である．さらに，このデータを基に地球物理学的データとの比較・検討を行い，同火砕流堆積物が十勝三股盆地を給源とすることをつきとめ，その盆地がカルデラであることを実証した．この研究は，主著者自らが行った堆積物の露頭観察・分析に基づいている点や，長い間不明だった１Ma頃の大規模火砕噴火の復元に成功した点で，火山地質学を研究する醍醐味を体現しており，大変に魅力的な論文である．主著者である石井英一さんは，対象期間内に火山学のみならず地下水理特性など幅広い内容の論文を多数発表しており（主著３・副著２），その活躍は火山学の枠に留まらず，今後の活躍が大いに期待される若手研究者である．よって，本論文は研究奨励賞に十分に値すると考えられる．

受賞者：坂口真澄（高知大学）

受賞論文：Masumi Sakaguchi and Hideo Ishizuka，2008，Subdivision of the Sanbagawa pumpellyite-actinolite facies region in central Shikoku, southwest Japan. Island Arc, vol. 17, no. 3, 305-321.

この論文は四国中央部の三波川変成帯低温部（パンペリー石・アクチノ閃石相）における詳細な鉱物組合せ・鉱物化学組成の検討から，別子ユニットと大歩危ユニットとの間の「ナップ境界」に変成温度のギャップはなく連続的であることを明らかにした力作である．地質学において，岩石の性質が空間的にある方向へ連続して変化するということを自前の十分なデータによって証明するのは忍耐を要する困難な仕事であり，特に変成温度の低い変成岩については尚更である．これは多数のNa輝石の発見につながり，それによってミカブ帯の変成作用との連続性も明らかになった．この研究結果は三波川帯低温部の変成作用がナップ形成の後に行われた可能性を示唆し，今後の三波川帯研究へのインパクトも大きい．困難な研究に敢えて挑戦し，重要な結果を導き出したこの論文は研究奨励賞に値する．

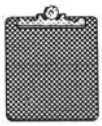
日本地質学会表彰（１件）
受賞者：秋吉台科学博物館（代表：館長　高橋文雄）
表彰業績：秋吉台研究に関する調査研究・教育普及活動

秋吉台科学博物館は，山口県美祢郡秋芳町立博物館（現在は美祢市立）として，「秋吉台の自然保護」と「学術研究の発展」を目的として，1959年10月１日に設立された．その後，増・改築を行い，現在は展示室・講座室・研究室・資料室・レクチャールームを持つ，秋吉台の自然の研究拠点として活動を続けている．

秋吉台科学博物館では，資料収集保存・調査研究・教育普及・展示を基本として様々な活動に取り組み，特に調査研究活動と外部研究者への研究支援について，設立以来，一貫して継続されてきた．昭和30年代後半の秋芳洞精密測量，秋芳洞潜水調査に始まり，その後も鍾乳洞群の学術調査，学術ボーリング調査，地下水調査など，多くの学術調査が外部団体との連携のもと実施された．これら一連の調査研究により秋吉台研究は大幅に進展し，特に帰り水を中心にした秋吉台の地質研究に新しい一頁が開かれると共に，フズリナ生層序学，古生代後期の礁形成史等の知見が飛躍的に増大した．また近年では，自然観察会を定期的に開催すると共に，児童・生徒ならびに地域住民を対象に，秋吉台の自然に関する体験学習などの教育普及活動に尽力してきている．

秋吉台科学博物館において特筆すべきことは，町立のために財政的に苦しい中，これまで入館料を徴収することなく，多くの来訪者・研究者に対し，限られた学芸員で献身的に研究支援・教育普及活動を続けてきたところにある．この１～２年においても，年間１万人にのぼる修学旅行・見学団体に対し，講演・化石採集・見学会などの対応を行い，多い日には５～６校の児童・生徒に，秋吉台と地質学の面白さ・素晴らしさを伝えてきている．学術研究においても多忙な館運営の中，研究成果は昭和36年創刊以降，継続的に発行されている「秋吉台科学博物館報告」により公表されると共に，調査報告書やパンフレットなどの普及本の形で広く社会に還元されてきている．さらに外部研究者の調査基地として様々な形で研究支援を行い，これまでに多くの優秀な地質研究者をサポートしてきた．

このような秋吉台科学博物館の秋吉台研究を通じてなされた我が国地質学発展に対する多大な貢献は，日本地質学会表彰に値するものと考え，ここに推薦する次第である．



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

第18回日本水環境学会市民セミナー

「温暖化，水とくらしはどうなる？どうする？（Ⅱ）～水環境における賢い適応へ向けて～」

主催　（社）日本水環境学会
期日　2009年８月25日（火）10：00～16：30
場所　地球環境カレッジホール（東京および大阪）
プログラム
10：00～11：40　水環境管理と温暖化適応策　須藤隆一（埼玉県環科国際セ/東北大院）
13：00～14：00　上水道における適応策　秋葉道宏（保健医療科学院）
14：10～15：10　下水道における適応策　花木啓祐（東大院）
15：20～16：20　地域水環境モニタリングと適応策　風間ふたば（山梨大院）
参加費　3,000円（テキスト代含），高校生以下無料
定　員　300名（各会場150名）（先着順）
申込方法　FAX，E-mailまたはハガキに①参加者氏名（フリガナ），②会員・非会員の別，③会員の場合は会員番号，④希望受講会場，⑤連絡先（所属団体名，住所およびTEL・FAX番号）をご記入の上，下記宛お申し込みください．入金を確認後，参加証（ハガキ）をお送りいたします．
申し込み・問い合わせ先
（社）日本水環境学会セミナー係
〒135-0006　東京都江東区常盤2-9-7-201号
Tel : 03-3632-5351　Fax : 03-3632-5352
E-mail：yamamoto@jswe.or.jp
詳しくは，http://www.jswe.or.jp/kais/jour/event.html

第59回　東レ科学講演会

日時：2009年９月18日（金）17：00～20：00
場所：有楽町朝日ホール（東京都千代田区有楽町2-5-1　有楽町マリオン11階）

テーマ：**第三の科学としてのコンピュータシミュレーション－理論・実験に続く科学の方法－**
Ⅰ．大規模計算は科学や技術をどう変えたか
東洋大学計算力学研究センター長：矢川元基（東京大学名誉教授）
Ⅱ．ものづくりに新しい価値を創造する計算科学
東京工業大学大学院理工学研究科教授：萩原一郎
入場無料・予約不要・当日会場先着順（定員630名）ご来聴の方には，後日講演記録を進呈いたします．

問合せ先　財団法人　東レ科学振興会
千葉県浦安市美浜1-8-1
Tel : 047-350-6103　Fax : 047-350-6082
E-mail : torayzaidan@tgnts.toray.co.jp
http://www.toray.co.jp/tsf/index. html

海底地形名称の提案募集

海上保安庁では，海図や海底地形図などに記載する海底地形の名称を決定する「海底地形の名称に関する検討会」を下記のとおり開催します．

開催にあたり，関係学会等に広く海底地形名称を募集することとしましたのでお知らせします．同検討会で決められた海底地形名は，海上保安庁海洋情報部のホームページで紹介しております．http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KOKAI/ZUSHI3/topographic/topographic.htm

「海底地形の名称に関する検討会」
日時：2009年７月６日（月）15：00から
場所：海上保安庁海洋情報部会議室（東京都中央区築地5-3-1）
主な議題：海洋調査機関などから提案された日本列島周辺の海底地形名称の検討
出席者：学識経験者（地理学，海洋底地球科学の各専門家）及び日本地理学会，関係機関（産業技術総合研究所，水産庁，東京大学海洋研究所，海洋研究開発機構，海上保安庁海洋情報部）の職員からなる委員10名
検討会の趣旨：海洋調査機関などの海底調査で明らかになった海底地形に学術的な名称を付与して，無用な混乱を防ぐことを目的としています．海底地形の名称を決定する国内唯一の検討会です．
提案に関する問い合せ先：提案地名がある場合は，以下の問い合せ先にご連絡いただければ提案書を送付致します．提案期限は随時とし，今回の検討会に間に合わない場合は次回検討会に提案いたします．

問い合せ先：
海上保安庁海洋情報部航海情報課
主任海図編集官　細萱（ほそがや）
電話　03-3541-4201　FAX　03-3541-4388

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

2009年度「朝日賞」候補者推薦依頼のお知らせ

朝日新聞文化財団より，2009年度「朝日賞」候補者推薦の依頼がありました．朝日新聞文化財団は，朝日新聞社が文化活動支援を公益的な立場から行うため，1992年に設立され，朝日賞の受賞事業を継承しております．この賞は，1929年（昭和４年）に朝日新聞社が，創立50周年を記念して創設したもので，人文や自然科学など，我が国のさまざまな分野において，傑出した業績をあげ，文化・社会の発展，向上に多大な貢献をされた個人または団体に贈られています．

推薦書は８月31日（月）までに，所定様式送付となりますので，**推薦を希望される方は８月14日（金）までに，理事会宛にご連絡下さい．**

推薦票は下記URLからダウンロードできますが，パスワードが必要です．希望される方は学会事務局までお問い合わせ下さい．
http://www.asahi.com/shimbun/award/asahi/suisen/

問い合わせ先：
朝日新聞社事業本部メセナ・スポーツ部
「朝日賞」事務局
〒104-8001　東京都中央区築地5-3-2
TEL　03-5540-7453　FAX　03-3541-8999
http://www.asahi.com/shimbun/award/asahi/

第31回沖縄研究奨励賞推薦応募

沖縄研究奨励賞は，沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し，育成することを目的としています．本奨励賞は，沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究（自然科学，人文科学又は社会科学）を行っている新進研究者（又はグループ）の中から，受賞者３名以内を選考し，奨励賞として本賞並びに副賞として研究助成金50万円を贈り表彰するものです．

応募資格は，学協会，研究機関若しくは実績のある研究者から推薦を受けた50歳以下（平成21年７月15日現在）の方で，出身地及び国籍は問いません．

応募方法：
(1) 所定の「沖縄研究奨励賞推薦応募用紙」に所要事項を記入し，

(2) 研究成果物（論文３点以内，著書がある場合は１冊），
(3) 提出する研究成果物の要旨（Ａ４判横書き各1,000字以内），
(4) 研究業績リスト（著書，論文等30点以内．Ａ４判横書き）を添えて郵送により提出していただきます．

応募書類の提出先：〒112-0004　東京都文京区後楽1-2-9 エー・ゼットキュウブビル５Ｆ　財団法人沖縄協会　沖縄研究奨励賞係

応募締切：**2009年９月30日（当日消印まで有効）**

問い合わせ先：財団法人沖縄協会
〒112-0004　東京都文京区1-2-9
エー・ゼットキュウブビル５Ｆ
TEL：03-5803-2341　FAX：03-5803-2581
http://homepage3.nifty.com/okinawakyoukai/index.htm

平成21年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦

１．東レ科学技術賞

候補者の対象　貴学協会が関与する分野で，下記に該当するもの/学術上の業績が顕著なもの/学術上重要な発見をしたもの/重要な発明をして，その効果が大きいもの/技術上重要な問題を解決して，技術の進歩に大きく貢献したもの

科学技術賞　２件前後．１件につき，賞状，金メダルおよび賞金500万円

候補者推薦件数　１学協会から２件以内

推薦締切期日　**平成21年10月９日（金）弊会必着（学会締切９月10日必着）**

２．東レ科学技術研究助成

候補者の対象　学協会が関与する分野で国内の研究機関において自らのアイディアで萌芽的基礎研究に従事しており，今後の研究の成果が科学技術の進歩，発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者（原則として推薦時45才以下）

研究助成金　総額１億３千万円．１件３千万円程度まで10件程．

候補者推薦件数　１学協会から２件以内

推薦締切期日　**平成21年10月９日（金）弊会必着（学会締切９月10日必着）**

＊各推薦書用紙は，ホームページからもダウンロードできます．
http://www.toray.co.jp/tsf/index.html

問い合わせ先
財団法人東レ科学振興会
〒279-8555　千葉県浦安市美浜1-8-1
TEL（047）350-6103
FAX（047）350-6082
E-mail torayzaidan@tgnts.toray.co.jp

第30回猿橋賞推薦募集

対象：推薦締切日に50才未満で，自然科学の分野で，顕著な研究業績を収めている女性科学者

表彰内容：賞状，副賞として賞金30万円，１件（１名）

応募方法：当会のホームページ　http://www.saruhashi.net/から推薦書類をダウンロードし，Ａ４用紙に印刷して，(1) 推薦者（個人・団体，自薦も可）・受賞候補者の略歴，(2) 推薦対象となる研究題目・推薦理由（800字程度），及び (3) 研究題目に関連する主な業績リスト（指定は１頁です．やむを得ない場合でも追加は１頁までです）を記入して，主な論文別刷10編程度（２部ずつ，コピーも可）を添え，下記送付先までお送り下さい．

締切日：**2009年11月30日（月）**

推薦書類送付先：
〒247-0022　横浜市栄区庄戸　5-14-3
女性科学者に明るい未来をの会
saruhashi2010@saruhashi.net

公募　教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

山口大学大学院理工学研究科（地球科学分野）教員公募

公募人員　准教授，講師又は助教　１名

所　　属　大学院理工学研究科地球科学分野（理学部地球圏システム科学科）

専門分野　地球科学（特に鉱物資源科学分野）

担当科目　共通教育科目，学部及び大学院専門科目

任　　期　助教のみ５年（再任１回可）

応募資格　(1) 博士の学位を有する方，又は着任までに取得見込みの方 (2) 鉱物資源科学分野の講義・実験・実習等を担当でき，フィールド教育（野外実習や野外巡検等）に熱意をもって取り組める方　(3) 当学科ではJABEE（日本技術者教育認定機構）認定プログラムに基づき，教育を実施しており，当分野のスタッフと協調して，このプログラムに沿って高度技術者となりうる人材の養成に積極的に取り組める方

応募締切　**2009年８月28日（金）（必着）**

提出書類　(1) 履歴書（写真を貼付し，連絡先（住所，電話番号，可能ならば電子メールアドレス，Webサイト）を明記すること．）(2) 研究業績リスト（研究論文，著書等に分けて，査読の有無や印刷中，投稿中のものはその旨を明記すること．）(3) 業績リストに記した主要研究論文の別刷又はコピー（５編以内）(4) これまでの研究経過と将来の研究計画（Ａ４判で２枚以内）(5) 着任後の教育に対する抱負（Ａ４判で１枚）(6) 競争的外部資金の獲得状況 (7) 応募者について照会可能な２名の方の氏名と連絡先（所属・職名・勤務先住所・電話／Fax番号・電子メールアドレスなど）

書類送付先
〒753-8512　山口県山口市吉田1677-1
山口大学大学院理工学研究科　地球科学分野　教授　大和田正明

問合せ先　大和田正明　TEL 083-933-5751
E-mail：owada@yamaguchi-u.ac.jp
詳しくは，http://www.sci.yamaguchi-u.ac.jp/geo/Koubo.html

平成21年度福井県職員（古生物学）募集

１　職務内容および採用予定人員

(1) 職務内容　古生物学職として，主に恐竜を中心としたハ虫類化石に関する資料収集，調査研究，展示，教育普及活動に従事します．（主に県立恐竜博物館に勤務）

受験資格

(1) 生年月日　次の各号のいずれかに該当する者
①昭和50年４月２日から昭和61年４月１日までに生まれた者　②昭和61年４月２日以降に生まれた者で大学院博士前期（修士）課程を修了の者（平成22年３月31日までに大学院博士前期（修士）課程を修了見込みの者を含む）または同等の学歴を有する者

(2) 学歴　大学または大学院で古生物学，地質学の専門課程を専攻し，国際的な視点に立った研究活動，フィールドを中心とした調査活動等を含む博物館活動に対し十分な知識，経験，意欲を有する者で，修士以上の学位を有する者（平成22年３月31日までに博士前期（修士）課程修了見込の者を含む）または同等の学歴を有する者

試験の方法

(1) 第１次試験　提出された研究・活動概要，業績目録，研究論文などによる書類審査により行います．

(2) 第２次試験　適性検査　公務員として職務遂行上必要な素質および適性について検査を行います．

(3) 第３次試験　口述試験　第２次試験合格者に対し，受験者の職務遂行能力等について人事委員会による面接を行います．

締切　**平成21年９月11日（金）まで（消印有**

効）

受験申し込みおよび問い合わせ先

福井県観光営業部 ブランド営業課
〒910-8580　福井市大手３丁目17-1
電話　0776-20-0227（直通）

詳しくは，http://www.pref.fukui.jp/doc/jinji-i/jinji1-senkou.html

CALENDAR

2009.7～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

2009年

8月　August

○科学教育研究協議会埼玉大会
８月１日（土）～３日（月）
場所：小松原高等学校（さいたま市南区南浦和3-21-8）
後援：日本地質学会ほか
http://www.geocities.jp/saitamakakyokyo/index_zenkoku.html

○ZMPC2009国際会議
International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2009
８月３日（月）～７日（金）
会場：早稲田大学（東京都新宿区）
http://www.zmpc.org/

○堆積学スクール2009
「第四紀サンゴ礁堆積物の層序，堆積相，化石相」
８月４日（火）～６日（木）
会場：琉球大学ほか
http://sediment.jp/04nennkai/2009/school.html

○地学団体研究会第63回総会
８月21日（金）～23日（日）
場所：下仁田町文化ホール（群馬県甘楽郡）
http://www.geocities.jp/obt_kk/2009soukai/index.html

○第18回日本水環境学会市民セミナー
「温暖化，水とくらしはどうなる？どうする？（Ⅱ）～水環境における賢い適応へ向けて～」
８月25日（火）10：00～16：30
場所：地球環境カレッジホール
http://www.jswe.or.jp/kais/jour/event.html

9月　September

☆日本地質学会第116年学術大会
９月４日（金）～６日（日）
会場：岡山理科大学ほか
http://geosociety.jp

○日本鉱物科学会2009年年会
会場：北海道大学
９月８日（火）～10日（木）
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jams3/index.html

○第53回粘土科学討論会
９月10日（木）～11日（金）
会場：岩手大学
http://wwwsoc.nii.ac.jp/cssj2/

○第３回国際地学オリンピック台湾大会（国際大会）
９月14日（月）～22日（火）（予定）
場所：台湾
http://www.jeso.jp/

○第12回日本水環境学会シンポジウム
９月14日（月）～15日（火）
会場：お茶の水女子大学
http://www.jswe.or.jp/

○2009年度日本地球化学会年会
９月15日（火）～17日（木）
会場：広島大学理学部
共催：日本地質学会ほか
http://www.geochem.jp/index.html

10月　October

○日本火山学会2009年度秋季大会
10月10日（土）～12日（月・祝）
場所：神奈川県立生命の星・地球博物館
http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/

○日本地震学会2009年秋季大会
日時：10月21日（水）～23日（金）
場所：京都大学吉田キャンパス
http://www.zisin.or.jp/meeting/2009/

○平成21年度日本応用地質学会研究発表会
10月22日（木）～23日（金）
場所：山形テルサ（山形市双葉町1-2-3）
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jseg/

○日本地理学会2009年度秋季学術大会
10月24日（土）～25日（日）（26日：巡検）
場所：琉球大学
http://www.ajg.or.jp/

11月　November

○第25回ゼオライト研究発表会
11月25日（水）～11月26日（木）
会場：西日本総合展示場新館展示場（北九州市小倉）
http://www.jaz-online.org/

表紙紹介：たまねぎ状風化によりコアストーンが発達した花崗岩地形

写真　文　**郷津知太郎**（株式会社蒜山地質年代学研究所），
能美洋介（岡山理科大学総合情報学部）

花崗岩岩体には方状節理などの規則的な割れ目に沿ったたまねぎ状風化（たまねぎ状構造）が認められる．これは同心円状に表面からはがれるために生じた多殻球状構造であり，表面と内部との膨張量の差や，割れ目に沿った化学的風化作用により累進的に形成される．したがって，多殻球状構造の中心付近は外縁部に比べて相対的に新鮮であり，特にコアストーンと呼ばれている．

瀬戸内海沿岸の花崗岩分布地域では，温暖少雨の気候によって，コアストーンが選択的に残存し，巨岩を積み重ねたような特異な地形を形成する場合がある．

写真は岡山県倉敷市と玉野市の境界に位置する王子が岳頂上付近より撮影したものである．王子が岳から瀬戸大橋がかかる鷲羽山周辺地域は，このような巨石による特異な地形が発達しており，また瀬戸内海の島々と海浜の風景を一望できることから，瀬戸内海国立公園の一角をなす景勝地となっている．なお，この地域の花崗岩は，山陽帯の南部を構成する白亜紀後期の広島型花崗岩である．

玉野市では市街地に隣接した丘陵地の地表面にコアストーンが散在し，落石災害が懸念されていることからコンクリートやアンカーなどで補強した上で公園として生かされている例もある．

紹　介

地学のツボ
地球と宇宙の不思議をさぐる

鎌田浩毅　著

筑摩書房新書版　2009年２月発行，
171ページ，ISBN978-4-480-68804-0 C0244，
定価860円（税別）

「地学」はあらゆる時間，あらゆる空間を扱う壮大な学問である．そして，「地学」は数学，物理学，化学，生物学などを基礎とした総合科学であり，他の様々な分野の発展とともに進歩してきた．一方「地学」は歴史科学でもあり，１度きりの出来事の積み重ねのため，因果関係もなかなか明快でなく，実験を含めた「状況証拠」をもとに論証していくことが多い．そこをどれだけうまく伝えられるかが腕の見せ所で，本書の登場した意義がある．

本書の著者のメッセージは明快である．地学は面白い，役に立つ．ところが，高校の地学Ⅰ履修者は，教科書の採択数の調査から，理科「Ⅰ」（物理Ⅰ・化学Ⅰ・生物Ⅰ・地学Ⅰ）の全履修者の約５％というお寒い現状なのである．そこで，一般読者に対する「地学」についてのリテラシー，または「地学」へのナビゲーターとして，本書がこの現状を打開し，より多くの人たちに「地学」を理解してもらえると大きく期待するところである．

本書は，著者が大学教養科目の主に文系学生に向けた「地球科学入門1」の講義をベースに書き上げられている．大学生といえども，地学の知識は中学校の理科２分野で習った程度で，高校理科総合Ｂ（地学分野）を履修していれば儲けものという困った状態である．

著者は読者に読み続けてもらうために，様々な工夫をしている．まず，平易な文章であるため読者に優しいことである．著者はシンプルな内容を心がけ，内輪の議論を避けている．また，無定義な用語を文中に入れないで，話の展開上必要な場面で用語を解説し，話の流れをスムーズにして読者の理解を助けている．次に，読者の直感的な理解を助ける図表を数多く載せている．研究者が作成した図表は情報量が多すぎて知識のない読者に理解されにくいので，複雑な書き込みを取り除くとともに一部を改変・デフォルメした図や，高校の教科書に掲載されている簡略化された図を利用して，読者が読みながらイメージをつかみやすくしている．

ただ，著者が本文のp.85で推奨している，わからない言葉の理解にあまり時間を費やさず，覚えられない情報は無視して，とにかく先に読み進む「棚上げ法」は，人によって理解の仕方やこだわりがあり難しいところである．しかし私は，１度読み終えて内容のあらましがわかったところで，もう１度読むことをお勧めしたい．そうすれば，著者の意図する「全体像」がより鮮明に読者の頭の中に浮かび上がるであろう．

著者の思惑すなわち本書の特徴が，第１章「地球は生きている　地震と火山」に最も良く表れていると思われるので，まずそれを例に紹介したい．

世界の地震によるエネルギーの約１割が日本で放出されていると言われている．そこでまず地震がどのようにして発生するのか，そのメカニズムについてプレート・テクトニクスの考えをもとにやさしく説明している．地震は地下の断層活動によるもので，断層のタイプによって分類されている．そこで，読者の理解を助けるために断層のタイプについて図とともにわかりやすく記述している．そして，1995年の兵庫県南部地震は逆断層型の地震で，約2000年の周期で活動する「活断層」であることを明快に伝えている．また，海溝付近で発生する巨大地震が放出するエネルギーの大きさについては，マグニチュード（M）にふれなくてはならない．そこでマグニチュードについて簡単に説明して読者に知識を与えるとともに，クイズを出してその理解を深め，大きさを想像させることに成功している．さらに著者が大学で防災（減災）の研究に関わっていたことから，いつ起きてもおかしくない地震に備えるための家具の止め方など具体的な対策まで触れている．

日本において大きな被害をもたらす地震には２つのタイプがあり，１つは兵庫県南部地震に代表される内陸直下型地震，もう１つは海溝付近で起こる海溝型地震でＭ８クラスの巨大地震が発生する．著者は「科学とは予測と制御の学問である」と述べていることをふまえて，海溝型地震には周期性があり，東海・東南海・南海地震は連動して起こりやすいことをこれまでの資料から指摘し，21世紀半ばには起こると予想される地震の性質を地震学者の考えとして紹介している．

続いて，著者の専門である火山について書かれている．日本には世界全体の１割くらいの活火山が存在する．火山の噴火予知は地震の予知に比べれば，部分的には実用段階にある（ただし常時観測している火山について）と言われている．著者は噴火予知の話に入る前に，読者に火山噴火のメカニズムについて説明している．マグマだまりから火口に至る火道をマグマが上昇するときの徴候として，まず火山性の地震が発生し，その震源が次第に浅くなってくる．それとともに山体が膨張し，噴火が始まる．噴火を終えてマグマがマグマだまりの方へ下降すると山体も収縮する．観測の具体例として，鹿児島県の桜島火山，ハワイのキラウェア火山の噴火が取り上げられ，特に後者では短周期，長周期の２種類の火山性地震の回数・山体の膨張（斜面の傾き）と噴火時期の関係が詳しく紹介されている．それぞれの火山には特有の「くせ」があるので，継続的な観測により前兆現象から噴火に至るパターンを探り出し，噴出する火山ガスや火山灰の成分分析を加えて，次の噴火の時期，場所，様式，規模，推移の「噴火予知の五要素」を予測するわけである．

さらに誰でも関心のある富士山の噴火にも触れている．富士山の最後の噴火は1707年の宝永の大噴火であるが，古文書を繙くと平安時代に活発に活動していた過去の噴火の歴史（時期）がわかる．最後の噴火から300年も経つが，文中のクイズにあるように活火山は最近１万年間に噴火したことのある火山で，昔あった休火山という言葉は使われない．火山の寿命はおよそ100万年といわれる中で富士山はまだ10万年ほどと若く，これからが「本番（カルデラの形成を伴う巨大噴火）」というわけなのである．火山の噴火によって噴出した火山灰は上空の偏西風によって東に運ばれ，広い地域に被害を及ぼすことになり，９万年前の九州の阿蘇山の巨大噴火を例に北海道まで火山灰が10cmも積もったことが紹介されている．最後に火山のマイナス面（災害）だけでなく，風光明媚な景観を作り出し，温泉や湧水など我々に癒しの場やおいしい水を提供してくれているプラス面も強調している．

以下，第２章「地面は動く！地学におけるコペルニクス的転換」，第３章「地球の歴史」，第４章「地球変動による生物の大絶滅と進化」，第５章「大気と海洋の大循環」，第６章「地球の外はどうなっているか－太陽系と地球」，第７章「進化し続ける宇宙の探求」という章立てで，現在の地球観から生物進化，地球表層の物質循環，地球の惑星としての進化など，最新の考えをもとに解説している．とにかくまず書店に行って本書を買い，熟読すること．そうすれば，知らなかったことをたくさん知ることができ，今まで分かっていた積もりになっていた曖昧な部分や疑問に思っていた部分が減り，さらに「地学」にもっと興味が湧くこと間違いなしである．一般読者に強く本書を薦める次第である．

（高橋宏和）

軽石
海底火山からのメッセージ

加藤祐三　著

八坂書房　2009年４月発行，264ページ，
ISBN978-4-89694-930-8,
定価2,400円（税別）

琉球大学名誉教授，加藤祐三氏の「軽石 海底火山からのメッセージ」が発売された．普通の火山関係の本とは異なり，「軽石」と言う，ただでも狭い題材をさらに絞って，「海と何らかの関係がある軽石にだけを取り上げ」一冊の本とした驚くべき本である．本書を読むと地質学の楽しさや面白さが高密度に感じられる．広く地質学関係者に一読をお勧めしたい．特に，大学の教養教育授業やジオパーク運動に関わっている方に本書をお勧めする．本書は，魅力的に地質現象を語るための手本として有用だからである．

始めにこの本の内容を簡単に紹介しよう．本書は，以下の10章から構成されている．

１章　海岸に漂着した軽石
２章　西表海底火山
３章　軽石に関わる用語
４章　火山ガス
５章　軽石の性質と判別法
６章　北海道駒ヶ岳
７章　福徳岡ノ場
８章　西表島群発地震
９章　遺跡から出てくる軽石
10章　漂流できなかった変わり種材木状軽石

１章　海岸に漂着した軽石：著者と漂流軽石との出会いのエピソードが書かれた短い章である．著者は，琉球大学へ転勤直後，家族とともに沖縄の「あこがれの白い砂浜と青い海」をみようと砂浜に出かけたのだが，漂着物のゴミの中から軽石を見つけてしまうのである．家族サービスで出かけたはずが，思わずサンプリングしてしまうシーンは，地質学者なら誰でも覚えがあるだろう．

２章　西表海底火山：沖縄県の西表島の北方の1924年の噴火と漂着軽石，噴出した軽石の探索談などから構成されている．本書の６分の1を占める気合いの入った章である．1924年の噴火については新聞記事や写真など史料を活用して，当時の津波騒ぎの様子をリアルに描いている．また，明神礁について書かれた節の著者の語り口は，人を引きつける語りをしたい時にとても参考になる．実はこの書評の筆者も，この部分を参考にして講演を行い，聴衆におおいに受けた．

３～５章は本書で使用された専門用語の解説のための章である．

３章　軽石に関わる用語：軽石に関わる専門用語の解説を行うための章である．標準的な解説のように見えるが，日本語の岩石・鉱物名の合理性や，岩石の色について書いてある部分は，大学の授業の参考になる．特に岩石の色については重要な解説である．地質学会の会員の皆様は，中学校理科の教科書に「ねばりけの弱いマグマが固まった岩石は黒っぽく，ねばりけの強いマグマが固まった岩石は白っぽい」と，例外の多い事実が一般化されて書かれているのはご存知だろうか？本書の岩石の色の科学的な解説は，火山学者により初めて書かれた岩石の色の解説ではなかろうか？学校教員養成に関わるすべての研究者が参考とすべき部分であろう．硬い内容が書かれている章であるが，それでもユーモアが登場するあたりはさすが加藤氏である．

４章　火山ガス：軽石の発泡の原因である，火山ガスについての解説の章である．火山ガスの成分，火山ガスの採集方法，三宅島やニオス湖の火山ガスについての解説がある．７ページの短い章である．

５章　軽石の性質と判別法：軽石の形成過程について解説してから，軽石の発泡の程度や鉱物や化学組成による軽石の分類方法について述べている．食べ物に例えた火山噴出物の解説が登場する．

６章　北海道駒ヶ岳：大量の漂流軽石が発生した北海道駒ヶ岳1929年噴火のプリニー式噴火について書かれている．海に落下した軽石が漂流し，函館や下北半島に流れ着いた．下北半島の泊港では，漂着した軽石の厚さが厚さ90センチメートルにもなり，漁船が出入りできなくなった．

７章　福徳岡ノ場：1986年琉球列島のあちこちに灰色の軽石が漂着し始めた．本章で灰色軽石の漂着の状況や，その起源が福徳岡ノ場であることを証明するまでの過程，海流の測定方法，軽石漂流と海流の関係が書かれている．話はさらに黒潮と沖縄の温暖な気候との関係や，軽石に付着する生物など，意外な方向に展開する．

８章　西表島群発地震：噴火はないのに漂着軽石が出現した西表島群発地震について，書かれている．石垣が崩れる程度終わった被害，「沖縄には地震がない」という迷信退治の役に立ったこと，漂着軽石の成因について書かれている．

９章　遺跡から出てくる軽石：著者が遺跡発掘に関わった話を中心として広域火山灰からAT，鬼界アカホヤ噴火にまで話は広がっている．

10章　漂流できなかった変わり種　材木状軽石：著者が沖縄トラフでみつけた材木そっくりに細長い気孔が並んだ材木状軽石をめぐる話が書かれている．著者は，潜水艇「しんかい」による潜航で，沖縄トラフ伊平屋海凹の熱水噴出地点を発見した．この記録は，まるで冒険映画を見ている様な面白さを感じさせる．ここを読めば，筆者の話術のたくみさがわかる．

この他に附録として「野外観察の手引き」，「室内観察の手引き」22ページがある．軽石の野外観察や室内観察を中心に書いてあるが，一般的な観察の手引きとして学生実習などに活用できる．

さて、本書の特徴はどんなところにあるだろうか？

第１に，歴史史料がしばしば引用されていることである．著者の「軽石」以外のもう一つの専門は津波石に関する歴史史料を駆使した研究である．本書でも，大正時代の新聞記事から倭名類聚抄まで、様々な史料が登場する．これらの史料は噴火や軽石と社会の関わりを考えさせる素材として有用である．最近，文理融合が一部の大学で流行している．本書には，真正性の高い文理融合型学問の姿がある．

第２にあげたいのは，本書のユーモアたっぷりな語り口である．著者の加藤氏は，琉球大学の「名物教授」であったと．私は伝え聞いている．講義こそ聞いていないが，加藤氏の学会講演はとにかくおもしろい．控えめなユーモアをたくみに使って，適度な強さで聴衆の笑いのツボを刺激する．笑いの効果で観客の集中力が維持され，講演の内容が良く伝わるのである．本書でも，食べ物ネタ，ややお色気のあるネタなど，氏独特のユーモアが様々な場面で登場する．氏のユーモアを交えての語り口は「名人芸」の域に達しているので，なかなか凡人にはまねすることはできない．しかし、専門的な内容を日常的なものに例えたり，あるいは身体感覚に訴えたりして説明する方法－溶結レンズをせんべいに例えたり，マグマ水蒸気爆発の噴出物の速度をピストルに例えたりするーは参考になる．最近，全国各地でジオパークを設立する動きが見られる．パークの利用者に，魅力的に地質現象を語ろうとする時、本書はおおいに参考になるだろう．

第３にあげたいのは，この本には「魂」がこもっている．著者の科学に対する思いや人柄が強烈に伝わってくる．この本を読まれる方は「あとがき」を，ぜひ最後に読んでほしい（もっとも，あとがきを先に読む人はいないと思うが）．ノンフィクションでも，著者の人柄を感じることは読書の楽しみの一つである．ぜひ，はじめから順に読んで，この本の面白さをじっくりと味わっていただきたい．

（林信太郎）

5月10日は 地質の日

「地質の日」に関連して各地で開催された，様々なイベントをご紹介していきます．地質の日関連イベントは，http://www.gsj.jp/geologuday/もご参照ください．

日本地質学会近畿支部

地球科学講演会
ヒマラヤ山脈の誕生とモンスーン気候の始まり

主催：地学団体研究会大阪支部，日本地質学会近畿支部，大阪市立自然史博物館
実施日：2009年５月９日（土）
会場：大阪市立自然史博物館　講堂
講演者：酒井治孝氏（京都大学大学院理学研究科教授）
参加者：190名以上

同講演会は，自然史博物館において毎年開催され，回数は26回を重ねる．昨年度からは「地質の日」の事業の一環として開催しており，地学団体研究会大阪支部，日本地質学会近畿支部，大阪市立自然史博物館の３団体の共催での開催となった．

今年の講演では，地質学のダイナミズムを実感していただける話題として，京都大学の酒井治孝氏をお招きし，話題提供いただいた．世界の屋根といえるヒマラヤ山脈での地道な地質調査から，その形成過程を知る事ができると地質学の王道とも言えるお話しから，ヒマラヤ山脈の形成と気候変動の関わりなど地球環境全体にも関わってくることまで，幅広くお話しをいただいた．

講演会風景（奥平敬元撮影）

ヒマラヤの地形や地質構造を，食パンやハム，チーズといった食材を用いて説明を行ったり，実物のアンモナイトを手にとってもらったりと，一般の方々にも理解しやすいような工夫をこらされた講演会であった．そして，多くの地形，地質構造の写真を交え話されるうちに，あたかも私たちがヒマラヤへ地質トレッキングに行っているかのように錯覚するほどでもあった．酒井氏の講演を通して，地質学のスケールの大きさ，ロマン，そして重要さを市民にアピールできた講演会だったのではないかと思う．

中条武司（大阪市立自然史博物館）

委員会だより

☆ジオパーク支援委員会

日本地球惑星科学連合大会一般公開セッション「ジオパーク」報告
ー地域の人が語る地域の地質ー

京丹後市長，室戸市長をはじめとして，地域の人自らが「日本海の拡大」「付加体」と言った単語を織り交ぜながら，それぞれの地域の地形・地質の素晴らしさを語った．話が科学的に正しくしかも上手なこと，そして地元の地史を自分の言葉で語っていることに驚いた人も多かったと聞く．５月17日午後に行われた，日本地球惑星科学連合大会の一般公開セッション，「ジオパーク　―地球科学がつくる持続的な地域社会－」でのことである．

このセッションには，ジオパークに関心のある地球科学の広い分野の研究者，各地域でジオパークの運営に携わる行政関係者，教育関係者や博物館の学芸員，といった人が集まった．140人収容の会場の座席はほとんど埋まり，立ち見が出る盛況だった．５月16日に日本ジオパークネットワークの設立総会が開かれ，そこへ参加した19地域の人たちの多くがこのセッションにそのまま参加してくれたことも，参加者が多かった一因である．セッションの前半は，ジオパークにおける自然環境保護，ジオツアー，人材育成，大学と地域との協力などに関して，研究者が話をした．後半は，前述の二市長を含む，昨年12月に日本ジオパーク委員会により認定された７地域の日本ジオパークの人たちがそれぞれのジオパークの紹介をした．

総合討論の時間には活発な議論が行われた．地質研究者からの，「何を手伝って欲しいか」という質問に対して，地域の人から「地域の地質・地形の成り立ちをわかりやすく正確に示した図を作ってほしい」という要望があった．「ジオパークの自然環境の保全をどう考えるか」という質問には，京丹後市の市長と糸魚川市の市長から答えがあった．いずれも地質遺産を含めた自然遺産は地域の基本的で最も重要な資産であり，地域として責任を持って守っていきたいという趣旨で，保全に関する住民による具体的な取り組みが紹介された．室戸市の人からは，「研究者が露頭にドリルで穴を開けた跡が残っており見苦しい」との指摘があった．これに対して日本ジオパーク委員会尾池和夫委員長が，「研究者がどんな問題を解くためにそこに穴を開けたか，そしてその問題はどう解決したのか（しなかったのか）を地元に伝えるべきだ，そうすればその穴は興味深いジオパークの見どころになる」と意見を述べた．尾池委員長の「ジオパークの語り部は全部を無理に説明してはいけない，わからないものはわからないと言うことが大事で，その謎が訪問者，特に子供たちの興味を呼ぶ」というコメントで総合討論はお開きとなった．通り抜けるのが困難なほど人の集まったジオパークのポスター会場で議論は続き，韓国地質学会長李教授も参加した懇親会でも話は尽きなかった．

今回のセッションは，研究者と地域のジオパーク推進者が率直に意見を交換する良い機会となった．また，ジオパークと言う仕組みで，地球科学の研究成果を地元の人の力により地域に広めて行けること，ジオパークによる地域振興が自然遺産の保護につながり得ることを，地球科学のコミュニティに伝えることができ，ジオパークの輪を広げることにつながったと思う．

渡辺真人（産業技術総合研究所）

追　悼

名誉会員　加納　博先生を偲んで

加納　博先生が2009年６月６日亡くなられました．94歳でした．加納先生とは長いお付き合いで，いつも‘加納さん’と呼んでいましたので，ここでも‘さん’づけでお許しください．加納さんは1914年（大正３年）９月９日，加納太三郎・ミツ様の長男として東京に生まれ，1921年東京府立豊島師範学校付属小学校入学，1927年卒業，同年旧制東京高等学校（新制になって東大に合併）尋常科（旧制の中学校にあたる）入学，1931年同高等科へ進学されました．東高と呼ばれていたこの学校（官立）は1922年に設立された中高一貫７年制の新しい学校でしたが，日本で１，２を争う難関のエリート校でした．

当時の日本の社会情勢は軍国主義に支配されていて，いろいろな意味で危険な状態でした．しかし大多数の国民は気がついていませんでした．それに反対する良心的な少数の人たちが，弾圧下でおおっぴらに出来ない活動をしていました．加納さんはお人柄からか，そういう活動に関心を持ち，関係も持っておられたために，高等科２年（1932年秋）で退学になりました．この時一緒に12名の方々が東高から退学になったそうです．そのなかには後で学問の世界に大きな貢献をされた方々がいらっしゃいました．加納さんはその頃には，すでに地質・鉱物に興味をもっておられましたし，インターハイの中距離（1500m）の記録ももっておられた優れた旧制高校の学生でありました．しかし地下活動に関与しておられたので，警察に逮捕，治安維持法違反で起訴，２年弱の未決拘留（独房）ということになりました．小林多喜二の虐殺されたころのことです．1934年に転向して出所，ご両親の郷里，横須賀の商店（呉服屋？）で仕事をされていました．数年の保護観察を受けた結果，社会主義活動と関係をしていないことが認められ，ご本人の学問（地質学）に対するやみがたい希望により1940年秋田鉱山専門学校へ入学されました．この頃から戦争はますます激しくなり，高等専門学校なども年限短縮となり，1942秋卒業となって，直ちに北海道帝国大学理学部地質鉱物学科に入学されました．1943年秋には太平洋戦争の激化で，文科の学生や理科でも一定の年齢以上の学生が軍隊に召集されることになりました．加納さんも応召になり，1944年3月海軍に入隊されました．その前年1943年10月に須賀井よし子さんと結婚されました．

1945年８月15日敗戦の結果，加納さんも大学へ復帰できました．しかし，兵隊に引っ張られていたため１年遅れて1946年秋のご卒業となりました．優秀だった彼はすぐ母校の秋田鉱山専門学校に採用され，翌1947年に講師，1950年に助教授になられ，学校も新制度となり秋田大学鉱山学部に変わることになりました．彼は卒業論文以来，北上山地の岩泉，田老鉱山地域のEskolaの言う菫青石岩を中心にすばらしい調査，研究を進められました．それは鉱山の探査にも重要な「田老鉱床における鋺の内変動帯の構造」の研究により1952年日本地質学会奨励賞を受けられました．それらの研究も含めて1958年北海道大学から理学博士を授与されました．1964年秋田大学教授となられ，その頃からは東北の深成変成帯，とくに阿武隈山地の深成変成岩などを精力的に研究されました．もちろん，それ以外にも北上山地を含めて日本中の深成変成岩，地質構造の幅広い研究にとりくまれました．1967年にはまだ日本に復帰していなかった琉球政府，琉球大学の講師として文部省からの依頼で出張されました．1968年には「含花岡岩礁岩の研究」で日本地質学会賞を受けられました．1976・77年度には日本岩石鉱物鉱床学会の会長をお勤めになりました．1976年にはオーストラリア，1980年にはフランスで万国地質学会議が行われましたが，彼は両方とも巡検，会議にご出席になり，日本の地質学者として意気をあげられたこともありました．また彼の名前をとった加納輝石という新鉱物が小林英夫さんによって1977年地質学雑誌に発表されていますが，これも大変名誉なことです．

1964・5年ころからは阿武隈山地の複変成作用を確かめるべく，阿武隈団体研究グループを組織され，多くの人たちと共に総合研究として十字石，藍晶石の発見に努力をされ，成功の結果として1973年地質調査所から５万分の１図幅「竹貫地域の地質」（加納，黒田，宇留野，濡木，蟹沢，丸山，梅村，光川，瀬戸，大平，佐藤，一色）を出されました．それ以外にも５万分の１図幅「太平山」（1981），「角田」（1988）も共著で出版されています．その後1980年，定年ご退官の後も秋田大学鉱業博物館に席を置かれて，主にEPMAを用いた柘榴石の累帯構造，組成などからの地質学的研究に没頭されて沢山の論文を出しておられます．日本岩石鉱物鉱床学会から1985年度の渡辺万次郎賞を受けられました．1987年日本岩石鉱物鉱床学会名誉会員，1993年日本地質学会名誉会員になられました．1988年勲三等旭日中綬賞を授与されましたが，それによって独房の悪夢に長い間悩まされておられたことが払拭されたように見受けられました．

加納さんに教えられたお弟子さんはたくさん居られますが，他にも山形，広島，北海道，京都，信州，名古屋，新潟，岩手，弘前等の大学で講師をされましたので，彼の学風は広く知られております．また科学研究費問題が持ち上がっていて頃の審査委員（一段　1969～1970年，二段　1974～1975年）も努められました．秋田大学生活協同組合理事長としても1971～1979年の長きにわたって働かれました．その忙しいなかでも加納さんの講座が応用地質であったことも関連しておられたのかもしれませんが，火山噴火，鉱山などに関係した公害，環境など幅広い，多くの社会に関係のある問題の調査にもボランティアとして関係，努力され，マスコミ等にも積極的に発言をされてこられました．

その激しいご活動の様子はご年齢にも関わらず，本当に目を見張るものでしたが，２年ほど前から体調を崩されて，巨人が倒れたという感じの悲壮感をうけていました．奥様はそれこそ良妻賢母で，いらっしゃいましたが，この数年体調を崩されていらっしゃいます．そういう状態でここに加納さんの最後をお迎えすることになって悲嘆の極となりました．その波乱万丈とも言えるご生涯を偲んで心からお悔やみ申し上げます．

ご遺族は加納　直様，〒177-0045　東京都練馬区石神井台 8-9-9

（黒田吉益）

一般社団法人 日本地質学会

一般社団法人日本地質学会としての活動をご報告します．

一般社団法人日本地質学会 2009年度総会議事録

日時：2009年５月17日（日）18：55-19：30
会場：幕張メッセ国際会議場　302会議室
（千葉市美浜区中瀬2-1）

始めに司会進行役（斎藤理事）から，議長・副議長及び書記の選出が諮られ，定款に則り代議員の中より，満場一致をもって以下の方々を選出し，議事に入った．

議長：長谷部徳子；副議長：小荒井衛；書記（議事記録者）：森田澄人，尾上哲治

第１号議案　理事会報告事項
渡部常務理事より，理事の互選による執行理事の紹介および選挙規則，運営規則，理事会規則，総会規則などについて報告と説明があった．
質疑応答なし．

＜議場確認＞
議長は，出席者の確認を行い，以下のとおり総社員の議決権の数の過半数に相当する社員の出席があったので，本会は適法に成立した旨を宣言した．
議決権のある当法人社員総数　146名
総社員の議決権の数　146個
出席社員数（委任状および議決権行使書提出者を含む）101名，議決権の総数　101個
出席理事　36名
出席監事　１名

１号議案決議＞議長から，拍手をもって議決に変える旨の提案があり，異論なく，満場の拍手をもって１号議案が承認された．
第２号議案　平成20年度事業・予算計画と決算報告について
会計担当の向山執行理事により内容が報告され，引き続き山本監事より監査の報告が行われた．書類表現上の質疑応答があった．
２号議案決議＞議長から，拍手をもって議決に変える旨の発言があり，異論なく，満場の拍手をもって2号議案が承認された．
第３号議案　2009年度事業計画・予算案について
渡部常務理事による事業計画の説明，予算案については向山会計担当執行理事から説明があった．
３号議案決議＞議長から，拍手をもって議決に代える旨の提案があり，異論なく，満場の拍手をもって３号議案が承認された．
＜動議＞　予定の３議案が終了した後，渡部常務理事より2009年度の役員についての動議が提案され，追加議案とすることが了承された．

追加議案　2009年度の役員について
渡部常務理事より，選挙規則の付則に基づき，2009年度の役員として，理事３名（磯野清，松本俊幸，丸山茂徳），監事１名（青野道夫）を追加することについての報告があった．
追加議案決議＞議長から，拍手をもって議決に代える旨の提案があり，異論なく，満場の拍手をもって追加議案は承認された．
閉会　議長が議事の終了を宣言し，閉会した．

以上，決議を明確にするため，この議事録を作成し，議長及び出席理事がこれに記名押印する．

2009年５月17日
一般社団法人日本地質学会2009年度総会
議　長　長谷部徳子
代表理事　宮下純夫
理　事　藤本光一郎

一般社団法人日本地質学会 平成20年度理事会報告

平成20年12月１日～平成21年３月31日

１．定款認証手続き後，2008年12月１日一般社団法人の登記を行い，一般社団法人日本地質学会を設立した．（定款および設立時役員は別紙のとおり）
２．理事会（１回）および執行理事会（２回）を開催し以下のことを承認した．
　１）執行理事として執行理事：宮下（代表理事：会長），高木（副会長），佃（副会長），渡部（常務理事），藤本（副常務理事），石渡，井龍，岩森，上砂，倉本，小嶋，齋藤，坂口，久田，藤林，向山，矢島
　２）2008年度の予・決算案，および2009年度の予算案の承認．
　３）選挙規則，運営規則，理事会規則，総会規則を策定．
　４）代議員選挙が実施されるまでの代議員は，任意団体日本地質学会代議員が兼任することとした．

一般社団法人日本地質学会平成20年度収支計算書

平成20年12月1日～平成21年3月31日　　（単位:円）

収入の部	08年予算	08決算	差異
1. 拠出金受け入れ	1,600,000	1,600,000	0
拠出金[1]	1,600,000	1,600,000	0
2. その他	0	38	-38
預金利子	0	38	-38
当期収入合計	1,600,000	1,600,038	
前期繰越収支差額	0		
収入合計	1,600,000	1,600,038	
支出の部	**08年予算**	**08決算**	**差異**
1. 事務委託費	240,000	240,000	0
業務委託費[2]	240,000	240,000	0
2. その他	120,000	121,230	-1,230
定款認証費	50,000	51,750	-1,750
法人登記費	60,000	60,000	0
雑費	10,000	9,480	520
当期支出合計	360,000	361,230	
当期収支差額	1,240,000	1,238,808	
次期繰越収支差額	1,240,000	1,238,808	

1) 任意団体日本地質学会からの拠出金
2) 任意団体日本地質学会への業務委託費

貸　借　対　照　表

平成２１年３月３１日現在

一般社団法人　日本地質学会　　（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1.流動資産			
現預金	1,238,808	0	1,238,808
流動資産合計	1,238,808	0	1,238,808
2.固定資産			
固定資産合計	0	0	0
資産合計	1,238,808	0	1,238,808
Ⅱ 負債の部			
負債合計	0	0	0
Ⅲ 正味財産の部			
1.指定正味財産	0	0	0
2 一般正味財産	1,238,808	0	1,238,808
正味財産合計	1,238,808	0	1,238,808
負債及び正味財産合計	1,238,808	0	1,238,808

正味財産増減計算書

自　平成２０年１２月　１日
至　平成２１年　３月３１日

一般社団法人　日本地質学会　（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
拠出金収入	1,600,000	0	1,600,000
利息収入	38	0	38
経常収益計	1,600,038	0	1,600,038
(2) 経常費用			
管理費			
業務委託費	240,000	0	240,000
租税公課	111,750	0	111,750
雑費	9,480	0	9,480
経常費用計	361,230	0	361,230
当期経常増減額	1,238,808	0	1,238,808
2．経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,238,808	0	1,238,808
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	1,238,808	0	1,238,808
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	1,238,808	0	1,238,808

財産目録

平成２１年３月３１日現在

一般社団法人　日本地質学会　（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1．流動資産			
現預金	1,238,808	0	1,238,808
普通預金			
三井住友銀行神田駅前支店	1,238,808		
流動資産合計	1,238,808	0	1,238,808
2．固定資産			
固定資産合計	0	0	0
資産合計	1,238,808	0	1,238,808
Ⅱ 負債の部			
負債合計	0	0	0
正味財産合計	1,238,808	0	1,238,808

財務諸表に対する注記

1　重要な会計方針

消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2　担保に供している資産
該当なし

3　保証債務等の偶発債務
該当なし

4　重要な後発事項
該当なし

2009年5月13日

一般社団法人日本地質学会
会長・代表理事　宮下　純夫　殿

一般社団法人日本地質学会会計監査
山本　正司

2008年度(平成20年度)会計監査報告

2008年度（平成20年度）の決算報告及び財産目録，並びにそれらに関連した帳簿，伝票，預金通帳などを監査した結果，これらはすべて正確であり，かつ適正に会計処理されたものであることを認めます．

以上

一般社団法人日本地質学会2009年度事業計画

2009年４月１日～2010年３月31日

1．任意団体日本地質学会の事業及び会員を社団法人に完全移転するため，組織・運営体制の整備を行う．
2．法人における中期的事業計画を検討する．
3．公益法人への早期移行を目指し，認定申請の準備を進める．
4．任意団体日本地質学会の支援を受けて社会貢献活動を行う．

収　支　予　算　書（案）

自　平成２１年　４月　１日
至　平成２２年　３月３１日

一般社団法人　日 本 地 質 学 会　　（単位：円）

科　　目	当年度予算額	前年度予算額	増　減	備　考
Ⅰ　一般正味財産増減の部				
1．経常増減の部				
(1) 経常収益				
拠出金収入	0	1,600,000	△ 1,600,000	
利息収入	0	0	0	
経常収益計	0	1,600,000	△ 1,600,000	
(2) 経常費用				
管理費				
業務委託費	720,000	240,000	480,000	
租税公課	23,300	110,000	△ 86,700	
通信費	470,000	0	470,000	
雑費	10,000	10,000	0	
経常費用計	1,223,300	360,000	863,300	
当期経常増減額	△ 1,223,300	1,240,000	△ 2,463,300	
2．経常外増減の部				
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 1,223,300	1,240,000	△ 2,463,300	
一般正味財産期首残高	1,238,808	0	1,238,808	
一般正味財産期末残高	15,508	1,240,000	△ 1,224,492	
Ⅱ　指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
Ⅲ　正味財産期末残高	15,508	1,240,000	△ 1,224,492	

地質学雑誌編集委員会からのお知らせ

これまでもニュース誌等でお知らせして参りました通り，日本地質学会の法人化に伴い，学会諸規則の整備が行われ，その中の一つとして，従来の編集規約，投稿規定などの編集に関わる規則を一本化，内容も一部改訂し，新しい編集規則を作成いたしました．

従来からの大きな変更点は，引用文献リストや図表およびキャプションの英文化です．これは，インパクトファクターの附帯化，国際的な相互引用化をめざすためにも必要不可欠なものです．地質学雑誌の更なる充実・地位向上のため会員の皆様のご協力をお願いいたします．

具体的には，2009年９月１日以降，新規に投稿される投稿原稿全てに新規則が適用されます．また，第115巻９号（2009年９月号）以降の掲載論文に関しても適用となりますので，既にご投稿中の著者にも随時修正をお願いする次第です．新しい編集規則は，学会ホームページまたは地質学雑誌巻末をご参照ください．

2009年６月
地質学雑誌編集委員会

文献英文併記と図表・キャプションの英文化をお願いします

～編集に関わる規則の一本化および一部改訂にあたって～

１．図表類およびキャプションの英文化

＜編集規則 G. 5 -7）より＞

口絵・図・表・図版中，およびこれらに付帯する説明文（キャプション）は英語とし，活字で印刷されるものは別の原稿用紙に書く．図中の地名などの固有名詞には，必要に応じて英語を付す．日本語の説明文を付加してもよい．

２．引用文献の英文併記

引用文献は，編集規則G. 4の表示例にそって作成していただき，英語以外の文献については，下記のようにお願いいたします．

１）日本語文献の場合：著者名，雑誌・著書・出版社名のみ日本語・英語併記とし，残りの項目は従来通り（論文の表題は日本語のみ）といたします．

２）英語以外の外国語文献の場合：英語以外の文献の著者名，雑誌・著書・出版社名は，オリジナル言語・英語併記とし，訳した部分については，以下のような注をつける．

*English translation from the original written in［ORIGINAL 言語］

３）英訳が不明確な出版物名や出版社名などの場合：上記２）同様に「訳」であることを明記すること，および書かれている情報できちんと元論文にたどり着けるよう，また，なるべく表現が統一されるように編集委員会でチェックをすることで対応いたします．

＜編集規則 G. 4より＞

例）文　献

加藤武夫（Kato, T.），1920，黒鉱鉱床に就て．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**27**, 301-309.

加藤武夫・杉　健一（Kato, T. and Sugi, K.），1927，日本西南部外帯の推し被せ構造（Deckenstruktur）（予報）．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**34**, 249-252.

活断層研究会編（The Research Group for Active Faults, ed.），1991，新編日本の活断層－分布図と資料－［*Active Faults in Japan, New Edition - distribution map and the related materials*-］*．東京大学出版会（Univ. Tokyo Press），363p.

小池　清（Koike, K.），1957，南関東の構造発達史．地球科学（*Earth Sci.*），**34**, 1-16.

Mitchum, Jr., R.M., 1977, Seismic stratigraphy and global changes of sea level, part 11: Glossary of terms used in seismic stratigraphy. *In* Payton, C.E., ed., Seismic Stratigraphy-application to hydrocarbon exploitation, Mem. Amer. Assoc. Petrol. Geol., **26**, 205-212.

小川琢治（Ogawa, T.），1944，日本群島［*The Japanese Archipelago*］*．弘文堂（Koubundo Press），372p.

Oishi, S., 1940, The Mesozoic floras of *Japan. Jour. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ., Sec. 4,* **5**, 123-480.

大塚彌之助（Otuka, Y.），1938a，新生界対比に於ける軟体動物化石の価値．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**45**, 302-315.

大塚彌之助（Otuka, Y.），1938b，南部フォッサ・マグナ地質構造上の一特性．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**45**, 528-529.

Reading, H.G., ed., 1986, *Sedimentary Environments and Facies, 2nd*. Blackwell Sci. Publ., Oxford, 615p.

Schuchert, C. and Longwell, C.B., 1932, Paleozoic deformations of the Hudson Valley region, New York. *Amer. Jour. Sci.,* **23**, 305-326.

竹内　誠・河合政岐・野田　篤・杉本憲彦・横田秀晴・小嶋智・大野研也・丹羽正和・大場穂高（Takeuchi, M., Kawai, M., Noda, A., Sugimoto, N., Yokota, H., Kojima, S., Ohno, K., Niwa, M. and Ohba, H.），2004，飛騨外縁帯白馬岳地域のペルム系白馬岳層の層序および蛇紋岩との関係．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**110**, 715-730.

*English translation from the original written in Japanese

デジタルクリノメーター GeoClino

走向/傾斜や線構造を1回の操作で簡単に測定

税込価格 ¥49,800

デジタルクリノメーター「GeoClino」は、従来の測定方法とは異なり層理面に当てるだけで走向・傾斜を同時に測定することができます。さらに、測定の難しい線構造も簡単に測定することができるので、測定時間の大幅な短縮が見込めます。

GeoClinoは測定データを本体メモリ内に999個まで保存し、付属のケーブルを接続してパソコン側へ転送することができます。

また、GeoClinoは耐水機能を完備しているので野外調査でも安心してお使いいただけます。

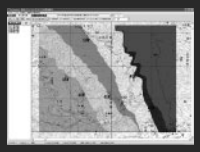
【走向傾斜の測定風景】

【線構造の測定風景】

外形寸法：約142×69×26㎜　電源：単3アルカリ電池2本で約20時間連続使用可能

・便利なソフトウェア「GeoAssist」が付属

GeoAssistでGeoClinoから測定データを収録し、地図上に走向・傾斜を表示することができます。
また、走向・傾斜データから簡易地質図を作成することもできます。



さらに便利なGPS搭載版"GeoClino-G"!!

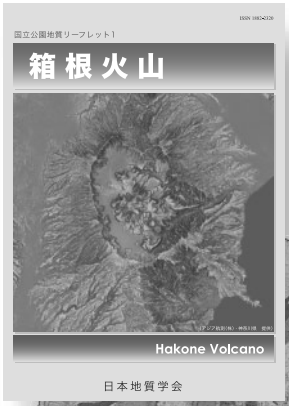
・**GeoClino-G**（GPS搭載版）　税込価格 ¥82,000

GPS機能を搭載しており、走向/傾斜・線構造の測定時に緯度・経度を捕捉して計測データと共に位置データを保存できます。

ジーエスアイ株式会社
〒310-0805 茨城県水戸市中央2-8-37 茨城県味噌会館2F
TEL: 029-302-5238 FAX: 029-302-5248

お問い合わせはこちらから
http://www.gsinet.co.jp

国立公園地質リーフレット1. 箱根火山 好評発売中!!



B２版．5万分の１地質図と解説からなります．箱根火山の研究史から最新の研究成果までフルカラーで詳しく紹介されています．

紙は，水に強く、鉛筆等での書き込みも容易なレインガード紙を使用していますので野外での調査・巡検に最適です．広くご活用下さい！

学会では今後各地の国立公園をターゲットに,地質リーフレットを製作していく予定です．子供版「箱根火山たんけんマップ」ともども，皆様のご意見・ご要望をお待ちしております．

購入希望の場合は，氏名・送付先・電話番号・購入冊数を明記の上，メールもしくはFAXで学会事務局までお申し込み下さい．会社名等での請求書が必要な方はその旨明記して下さい．
e-mail：main@geosociety.jp　FAX 03-5823-1156

※学会で販売するほか,神奈川県立生命の星地球博物館や箱根周辺の土産物ショップなどでも販売しています．

会員頒価 1,000円/部
（20部以上の場合は割引あり）

日本地質学会　第116年学術大会

開催期間：2009年9月4日(金)～6日(日)

地質情報展2009おかやま ―ワクワク・発見・瀬戸の大地―

日程：9月5日（土）～6日（日）10：00～17：00（6日のみ16：00まで）(入場無料)
会場：岡山市デジタルミュージアム　4階　（岡山市北区駅元町15-1）

市民講演会「大地から考える地球環境 ―地質と生物・農業の深い関係―」

日時：9月5日（土）13：30～16：30（入場無料・申込制）
会場：さん太ホール（岡山市北区柳町2-1-1）

小さなEarth Scientistのつどい　～第7回 小・中・高校生徒「地学研究」発表会～

日時：9月6日（日）9：00～15：30
場所：日本地質学会年会ポスター会場（岡山理科大学）

お問い合わせ　日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F
TEL:03-5823-1150　URL:http://www.geosociety.jp

共催　日本地球化学会・岡山理科大学オープンリサーチセンター
後援　岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・岡山理科大学

planetearth®
Earth Sciences for Society
2007－2009

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp